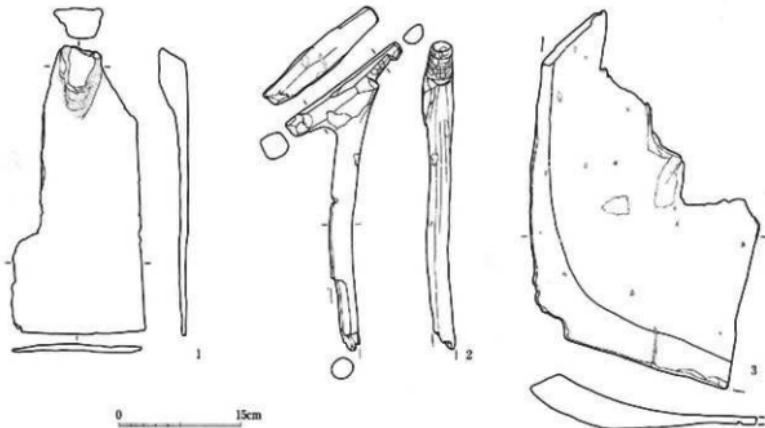
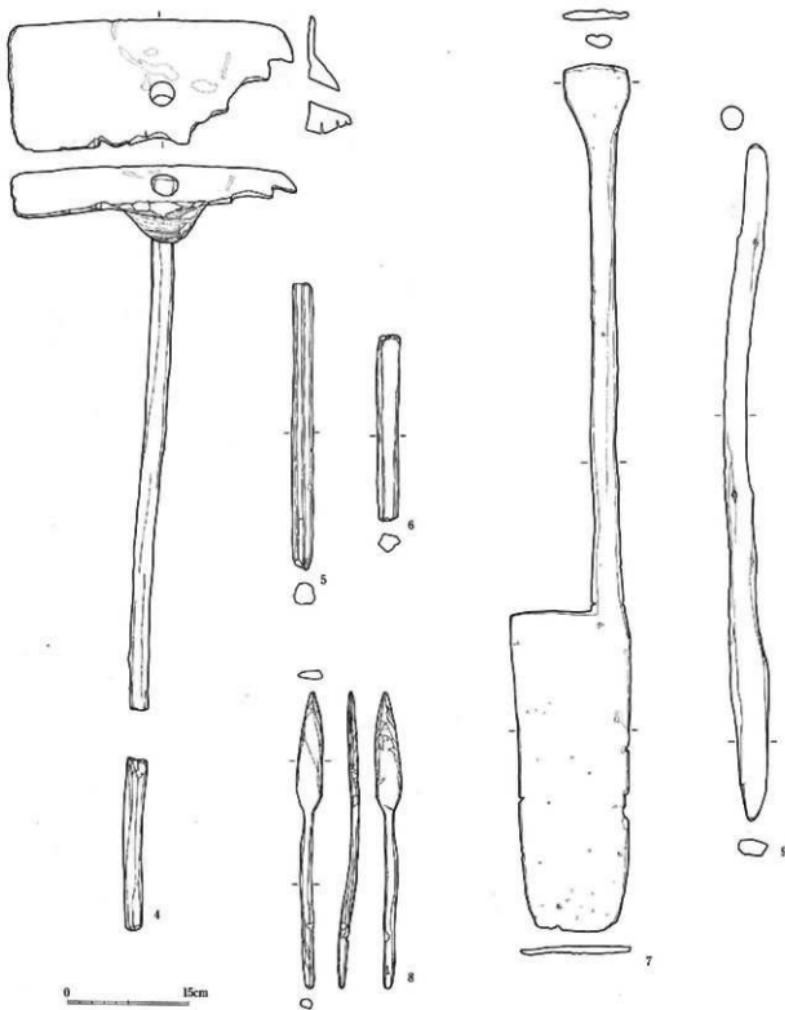


(5・6)・板状製品(14・15)そして加工痕のない自然木(枝付)等がある。横鍔は身部と柄が装着した状態で出土した。身部は長方形を呈し、中央上部に鋸角に穿孔された瘤状突起を有する柄受け穴をもうける。柄は芯のある加工丸材を用いる。身部は横幅35.5cm・縦幅15.5cm・厚0.7cm・瘤状突起高5.5cmを測る。柄の直径は2.5~2.0cmで、65cm程が残存し、柄の末端と思われる21cmを測る棒状製品がある。平鍔は身部のみの出土で、柄孔の上部と身部の一部を欠損する。残存部位から形態は長方形を呈するが上部にかけて横幅を漸減するようである。後面に瘤状突起が認められることから直柄型式のものであろう。刃部幅は15.8cm・身部厚は中央で1.0cm・瘤状突起高3.4cmをそれぞれ測る。鍔は一本平鍔と呼ばれるもので、把手から刀先まで一枚板から作り出している。把手は平板で三角形状に作られ、柄は梢円形を呈する。身部は長方形を呈するが平鍔と逆に刃部に向かって横幅を漸減し、刃部は丸味を帯びる。身部上端の足踏み用の床は水平で柄に対して片方のみに作られる。全長106.5cm・把手から柄部67.0cm・把手幅7.5cm・柄部長軸3cm前後で、身部縦幅39.5cm・横幅14.5~9.5cm・厚1cm前後の規模になる。腰柄は曲柄鍔の装着具で、自然木の枝から作られている。着装台は平坦で、着柄輪を結縛部の背面には抉り込みがみられる。残存長37cmで、着装台長15.6cm・幅2.4~3.5cmを測る。槽状製品は中央が膨らむ隅丸長方形を呈するものと思われる。全体の法量は不明であるが、短辺の直線面は32cm前後になる。6・7の断面が不整円形を呈する棒状製品は農具の柄の可能性が高い。6は残存長34.3cm・7は22.5cmである。直径は共に2.5cm前後である。武器類のうち2個の盾については第4章で項を改め橋本氏の玉稿を掲載する。弓または未製品と想定するものが5本出土している(9~13)。10は片面に細かい加工痕がみられ、両端部を削り取ることにより弓筈を作り出している。全長4.53cm・中央部幅2.2cmである。13は両側に若干反るが上端部の末筈が削り取られていることから弓とみてよいだろう。全長35cm・中央部幅1.4cmである。12は下方の本筈部付近が欠損している。末筈は2cm程明確に削られている。残存長41.2cm・中央幅1.7cmである。11は末筈部付近を欠き、本筈部に不十分な削り込みが認められることから弓の未製品と考えられる。残存長46.1cm・中央幅2.3cmである。10も両端部に弓筈が作られていないが、材の張り状の加工から弓の未製品と思われる。全長83cm・中央幅2.7cmである。槍先は完形品が1本出土しており、身部と茎部は一枚板から作り出され、全長は36.4cmである。身は梢葉形を呈し、先端から基部まで14.3cm・基部幅3.1cmを測る。茎の断面は幅1.5cm程の梢円形に加工される。14・15は板材と思われるが用途

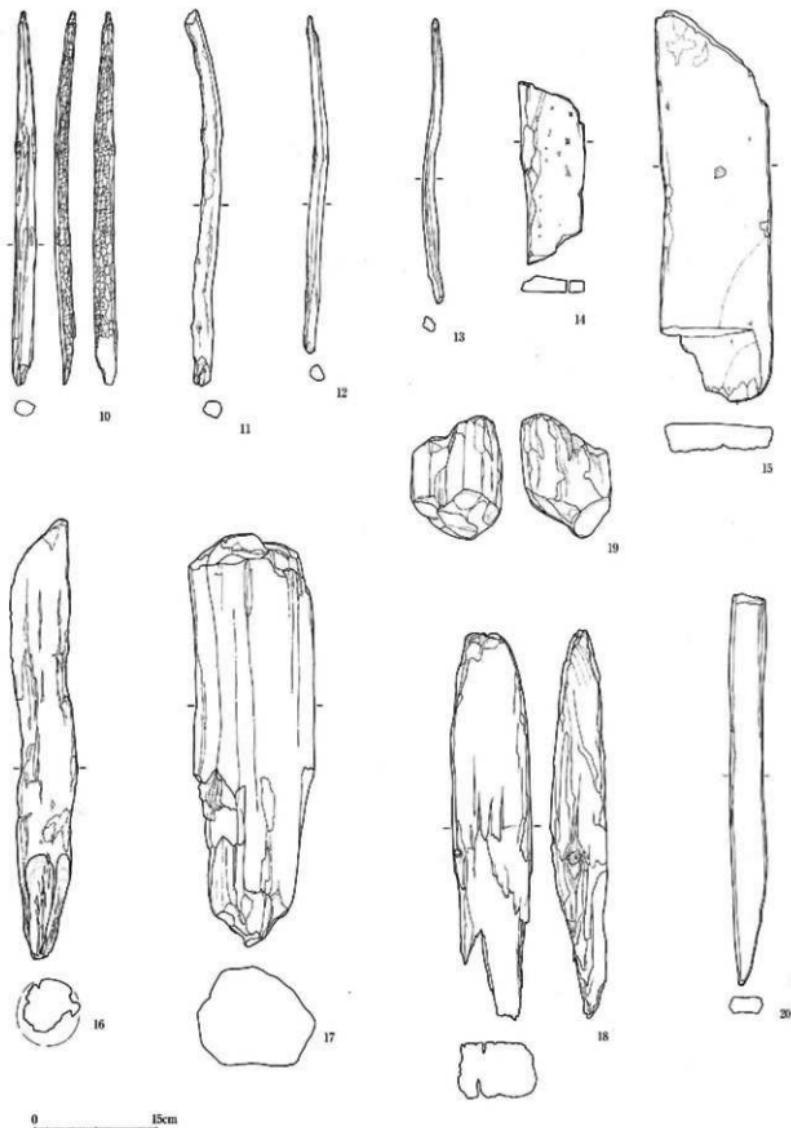


91図 本製品実測図① (1:6)

は不明である。15は完形品であるとすれば、横鍬または柄振の未製品の可能性がある。16・17・19は丸太材に加工を加えた杭と推定される。18は角材、20は割板材を用いている。杭の先端は鈍器状工具により切り落としている。16は残存長55cm、17は完形品で全長50cm・中央幅14.5cm、18は残存長47cm、19は残存長15cm、20は残存長47cmをそれぞれ測る。



92図 木製品実測図② (1 : 6)



93図 木製品実測図③ (1 : 6)

第4節 石製品

本遺跡より出土した石製の遺物は総数217点である。このうち石器の製作過程で生じた剥片や碎片等の石屑、原石や石核などを除いた資料は98点ある（94～101図）。内訳は打製石錐1点、磨製石錐1点、磨石6点、敲打10点、みがき石8点、台石2点、凹石1点、刀器35点（大形34点、小形1点）、磨製石包丁1点、大型蛤刃石斧5点、扁平片刃石斧4点、ノミ状石器1点、両刃石斧1点、石槌6点、砥石10点、軽石製品2点、玉類3点、紡錘車1点である。

石核 5点出土している。「大形剥片石器用素材」と判別できる資料には珪質頁岩材2点がある。「小形剥片石器用素材」にはチャート材3点がある。1は珪質頁岩材の剥片を素材とし、剥離面を利用しての打面転移による剥片剥離を行っている。打面転移は2回で、いずれも90度である。最終的な剥離痕は長さ4.6cm×2.1cm程度の綫長剥片である。

剥片・碎片 剥離作業の過程で弾き出された石屑のうち石器の素材となり得る程度の大きさを持った例を剥片、それより小さな例を碎片とする。総数114点出土している。「大形剥片石器」用の剥片71点、碎片28点、「小形剥片石器」用の剥片9点、碎片4点がある。また素材の両端に対向する剥離痕を留め「挟み打ち」技術の介在を想定させる「楔形石器」が2点ある。2はチャート材の剥片を素材とし、四方からの加撃が行われ、上・下端部には細かな剥離痕が認められる。長さ3.4cm×3.9cm、重さ17.8gを量る。3はチャート材の剥片を素材とし、左右からの加撃による細かな剥離痕が認められ、長さ4.6cm×4.5cm重さ46.7gを量る。4・5はともに粘板岩材の加工痕のある剥片である。石器製作の初期段階での失敗により、目的の器種を確定できない資料である。

打製石錐 1点出土している。6は黒曜石材の凸器無茎式で、先端部が大きく欠損している。左右側辺部の形が統一されていないことと全体的に厚みがあることから、完成度は低いと思われる。

磨製石錐 1点出土している。7は表裏両面が研磨された片岩材の未製品である。整形段階で側辺部が欠損したものと思われる。

磨石 6点出土している。材質は硬砂岩材4点、安山岩材1点、ホルンフェルス材1点である。8・9は硬砂岩材の扁平な礫を用い、表・裏両面に磨面が認められる。10は安山岩材の扁平な礫を用い、表裏面に加え側面にも磨面が認められる。1/3程度の欠損がある。

敲石 10点出土している。材質は硬砂岩材5点、砂岩材2点、シルト質砂岩材1点、花崗岩材1点、チャート材1点である。11・12は砂岩材の礫を素材とし、上下端部に敲打痕がある。表裏両面にははっきりとした磨面が認められることから、磨石としても用いられていたと思われる。特に12は扁平であり煤状付着物も認められる。重さ79.3gを量る。13～16は硬砂岩材の棒状の礫を素材とし、長軸の両端部もしくは一方にアバタ状の敲打痕が認められる。なお、14は側辺部にも敲打による欠損がみられる。重さ256.6gを量る。17は花崗岩材の礫を素材とし、上下両端部および表裏側面に敲打痕がみられる。赤色付着物が認められ、重さ607.3gを量る。18はチャート材の棒状の礫を素材とし、上下端部にアバタ状の敲打痕を認める。重さ104.7gを量る。19はシルト質砂岩材の棒状の礫を素材とし、表裏面および両側面にスジ状の敲打痕跡を認める。また全面にわたって磨面がみられ、みがき石としての機能も有していたと思われる。重さ91.8gを量る。

みがき石 主に河原石を素材とし8点出土している。材質は粘板岩材4点、硬砂岩材1点、安山岩材1点、頁岩材1点、チャート材1点である。20は頁岩材の礫を用い、半球状の全面にわたって細かな線状痕が認められる。重さ61.1gを量る。21はチャート材の礫を用い、平面面上に使用痕跡が認められる。重さ35.8gを量る。22～24

は粘板岩材の礫を用いた例である。いずれも全面を使用しており、24は口状の光沢がみられる。また23・24は白色付着物が観察され、1/3程度の欠損がある。重さは22が28.3g、23が72.2g、24が31.5gを量る。25は安山岩材の礫を用いた例で、表裏側面に線状痕が認められる。重さ149.2gを量る。

台石 2点出土している。材質は2点とも輝石安山岩である。26は1/2程度の欠損があるが、残存している表面には明瞭な縦状痕が認められる。側面および縁辺を敲打成形している。重さ3,672gを量る。

凹石 1点出土している。27は安山岩材の礫を素材とし、半分程度の欠損がある。凹部の直径は約8cm、深さは2.2cm程度である。

刃器 35点出土している。「大形剥片素材の刃器」は34点あり、材質は粘板岩材13点、シルト質砂岩材15点、輝石安山岩材2点、安山岩材1点、珪質岩材2点、硬砂岩材1点である。素材の片面が自然面に覆われた一次的な剥片を利用した例や、刃部または背部に調整剥離加工を施した例があり、刃部に摩耗・光沢・線状痕および潰れのいずれかを確認できる例が10点ある。29は粘板岩材の縱長剥片を素材とし、背部加工はみられないが、刃部に明瞭な摩耗・光沢・線状痕と微細な剥離痕が観察できる。刃部は外弯で刃角55度を測る。33は粘板岩材の縱長剥片を素材とし、刃部以外に剥離調整を行い楔形石器状を呈している。刃部に微細な剥離痕が観察され、刃角33度を測る。34は粘板岩材の縱長剥片を素材としたナイフ状の刃器である。背部に抉りがあり、刃部に微細な剥離痕が認められる。刃角60度を測る。40は輝石安山岩材の横長剥片を素材とし半分程度の欠損があると思われる。刃部に剥離調整を施し摩耗・潰れが観察される。刃角90度を測る。41は輝石安山岩材の縱長剥片を素材とし、刃部および背部に剥離調整を行っている。刃部に摩耗・潰れを観察し刃角48度を測る。42は珪質岩材の円形の剥片を素材とする一次的な剥片であるが、全周に摩耗・光沢痕が観察される。刃角16度を測る。43は珪質岩材の横長剥片を素材とし、刃部に摩耗・線状痕が観察される。刃角90度を測る。44は硬砂岩材の一次的な横長剥片を素材とし、刃部に摩耗・光沢・線状痕を観察する。石包丁形を呈し刃角50度を測る。45は粘板岩材の横長剥片を素材とし、刃部に摩耗・線状痕を観察する。刃角66度を測る。「小形剥片素材の刃器」は1点ある。46は黒色頁岩材の横長剥片を素材とし、刃部に摩耗・光沢痕が観察される。楔形石器状を呈し、刃角26度を測る。

磨製石包丁 1点出土している。47は安山岩材の剥片を素材とした未製品である。表裏両面に研磨が施されているが2/3程度の欠損がある。

太型蛤刃石斧 製品3点、未製品2点の合計5点が出土している。材質はすべて変質輝緑岩材である。48は敲打整形段階の未製品である。打型による刃部の成形も行われている。長さ19.0cm、重さ1,745gを量る。49は刃部への研磨整形加工を施した未製品である。1/3程度基部の欠損があり、現時点での刃角は73度を測る。50は基部の大半を欠損した製品である。刃部は使用による損傷が著しく、剥落・摩耗・光沢痕が観察される。刃幅6.7cm、刃角69度を測る。

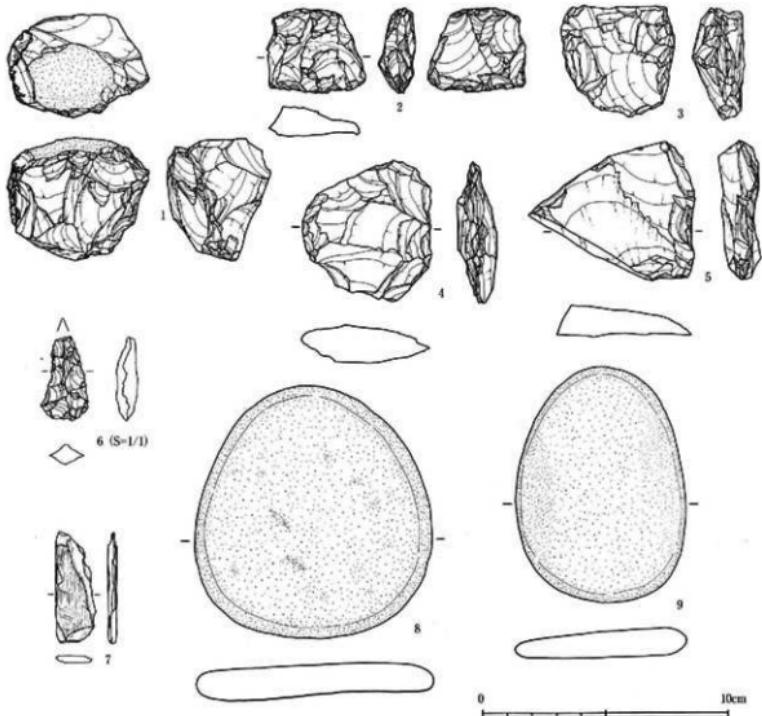
扁平片刃石斧 製品2点、未製品2点が出土している。材質は蛇紋岩材1点、珪質岩材1点、粘板岩材1点、玄武岩材1点である。51は珪質岩材の横長剥片を素材とした打製成形段階の未製品である。敲打痕跡は見られないが、少量の研磨が認められる。長さ5.4cm×3.3cm、重さ19.2gを量る。52は蛇紋岩材の製品である。刃部に摩耗・線状痕が観察され、刃幅2.8cm、刃角42度を測る。また全体形は小形で長さ4.6cm×2.9cm、重さ13.8gを量る。

ノミ状石器 1点出土している。53は片岩材の製品である。使用痕は認められないが、刃幅1.1cm、刃角60度を測る。

両刃石斧 1点出土している。材質は変質輝緑岩材である。54は同一造構内から基部と刃部が分割された状態で出土し、接合した製品である。頭部に一部敲打痕跡が残る。刃部は摩耗・線状痕および潰れが明瞭に観察され使用頻度の多さをうかがわせる。刃幅5.4cm、刃角48度を測る。

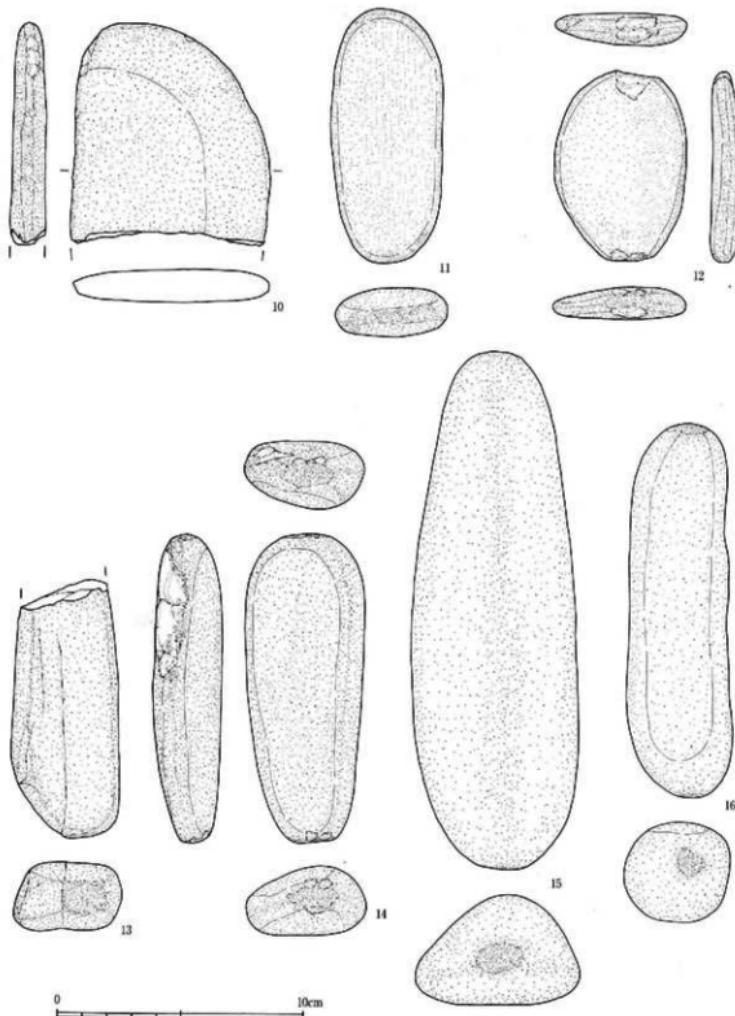
石櫛 6点出土している。材質は変質輝緑岩材2点、玄武岩材1点、硬砂岩材2点、砂岩材1点である。55・56は変質輝緑岩材の蛤刃石斧の基部を転用した例で、機能部の摩耗は僅かである。表裏および両側面に敲打によるアバタ痕が顕著にあり、装着用とも考えられる。57は玄武岩材の蛤刃石斧基部の転用例である。機能部は顕著に摩耗し鏡面状を呈している。頭部に敲打痕跡が残り、機能部周辺と裏面に著しい剥落が認められる。58・59は硬砂岩材の礫を用いた例である。58の機能部に摩耗・光沢が明瞭に観察される。60は砂岩材の礫を用いた例で、機能部の使用痕跡は僅かであるが、頭部に明瞭な敲打痕が認められる。

砥石 10点出土している。軽量で手に保持して使用する手持ち砥石は8点あり、材質は砂岩材4点、硬砂岩材2点、玄武岩材1点、石墨片岩材1点である。地面等に固定して使用する置き砥石は2点あり、材質は砂岩材1点、硬砂岩材1点である。61は砂岩材の置き砥石である。機能部は表裏面および全側面にわたり、表面には長さ8.1cm、幅1.8cmの範囲内に顕著な溝や筋状の痕跡が何本も認められる。62~64は砂岩材の手持ち砥石で3点とも1/3程度の欠損がある。63は機能部が上部側面を除き全面にわたり、表裏面ともに顕著な使用痕跡が認められる。軽石製品 2点出土している。65・66はともに面状の砥面(?)を有し、半分程度の欠損がある。特に66は全側面にわたって底面(?)が認められる。

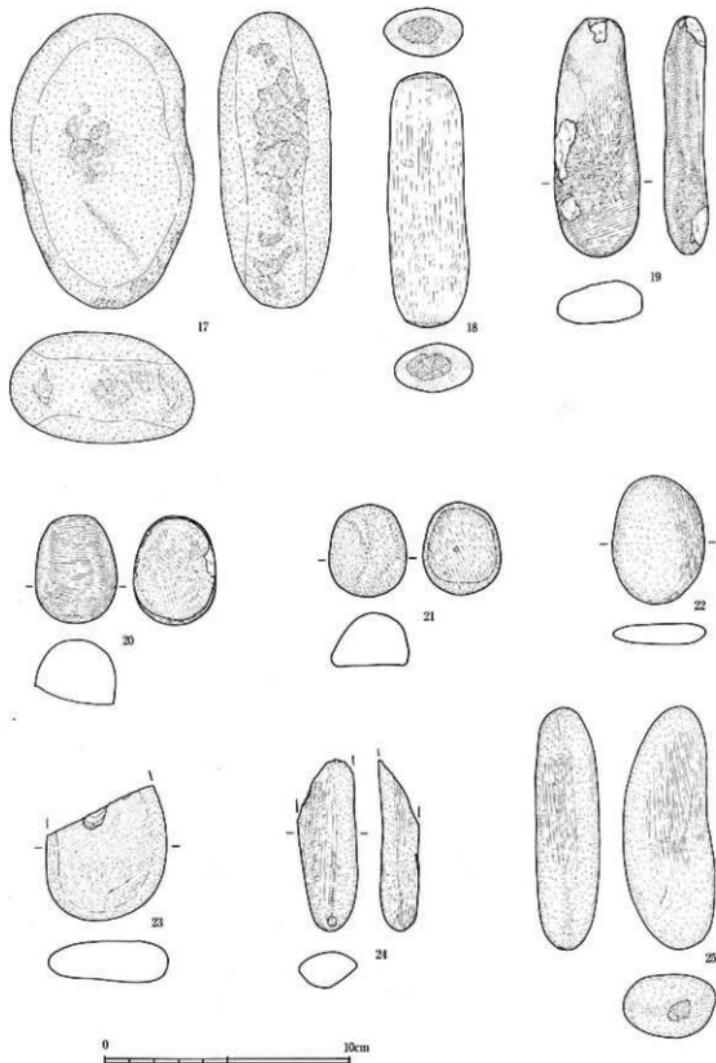


94図 石器実測図① (1:2)

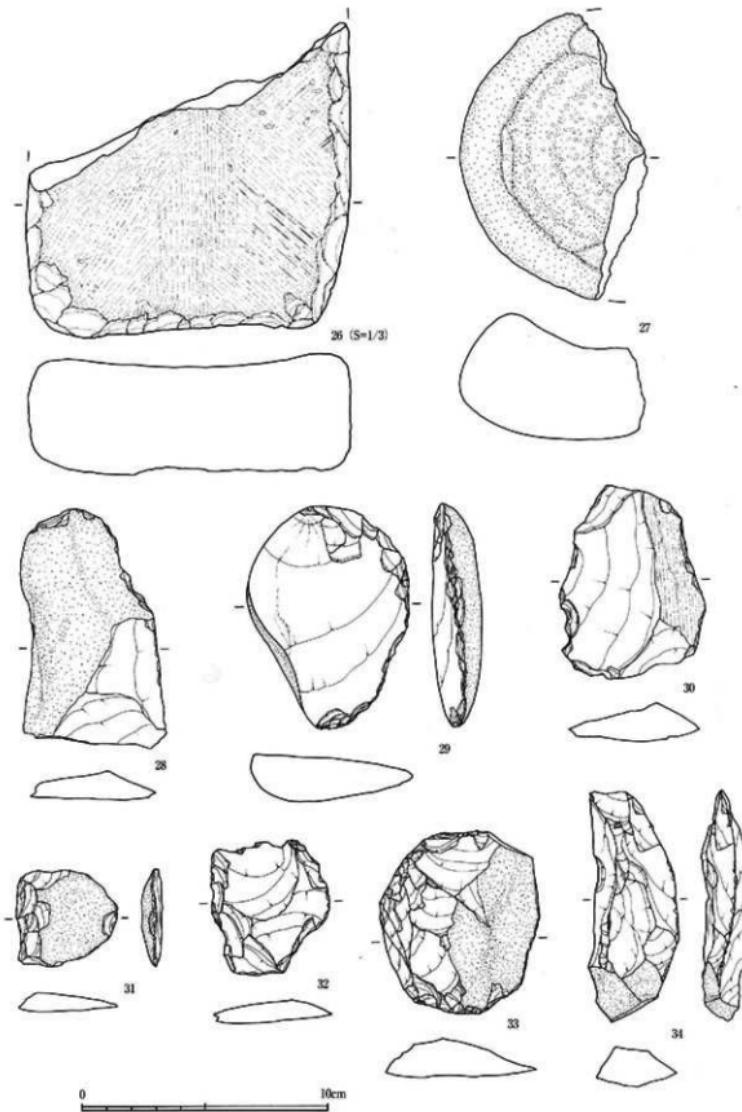
玉類 3点出土している。ヒスイ材の白玉1点(67)、ガラス玉1点(68)、黒色頁岩材の管玉1点(69)である。
 紡錘車 糸を紡ぐときの回転軸のはずみ車に使用されたもので、欠損品が1点出土している。70は蛇紋岩材の直径4.7cm程度と推定される紡錘車の一部である。表面に研磨による光沢があり、孔の縁辺には使用痕とみられる筋状の溝が時計周りに認められる。



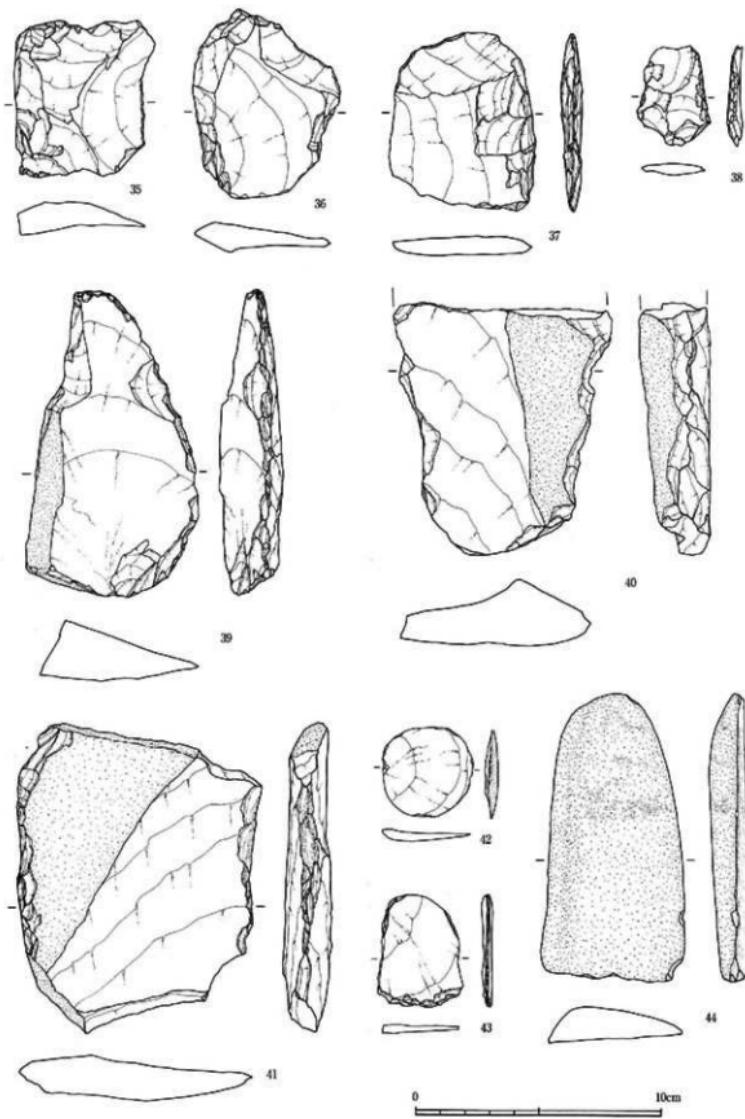
95図 石器実測図② (1:2)



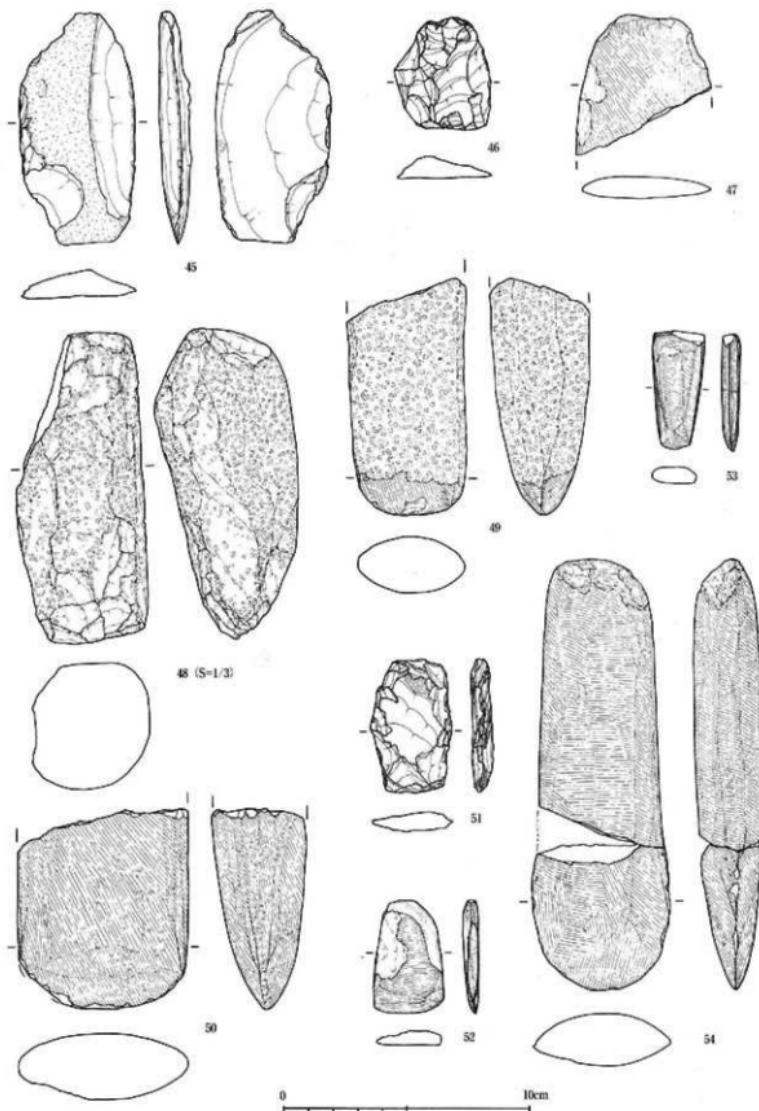
96図 石器実測図③ (1 : 2)



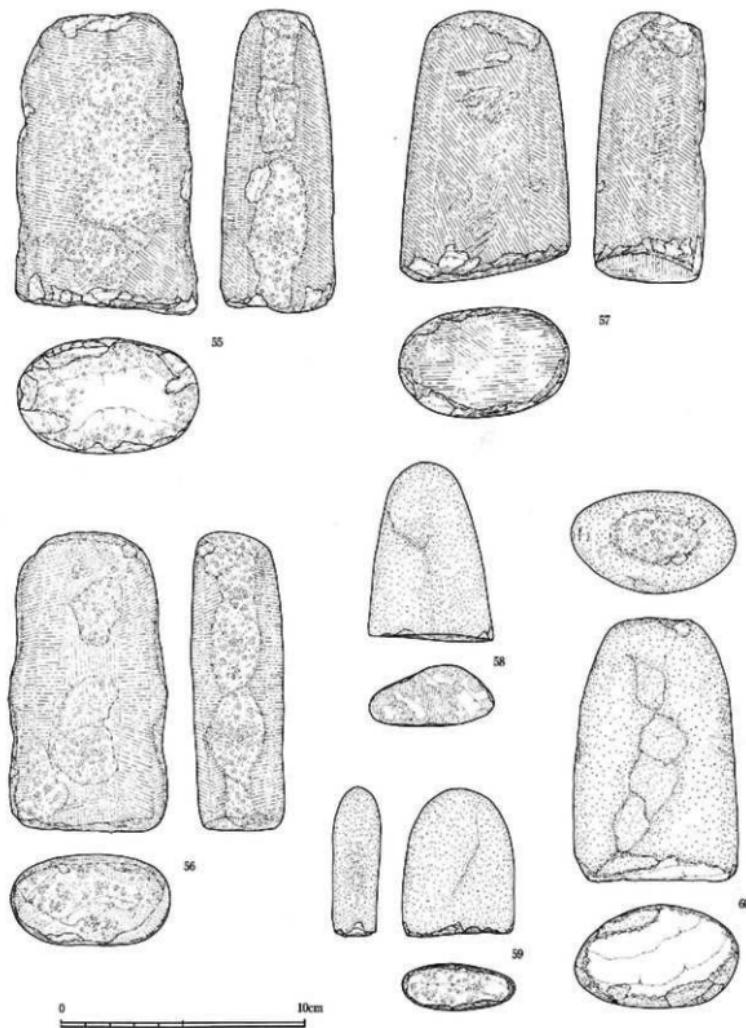
97図 石器実測図④ (1 : 2)



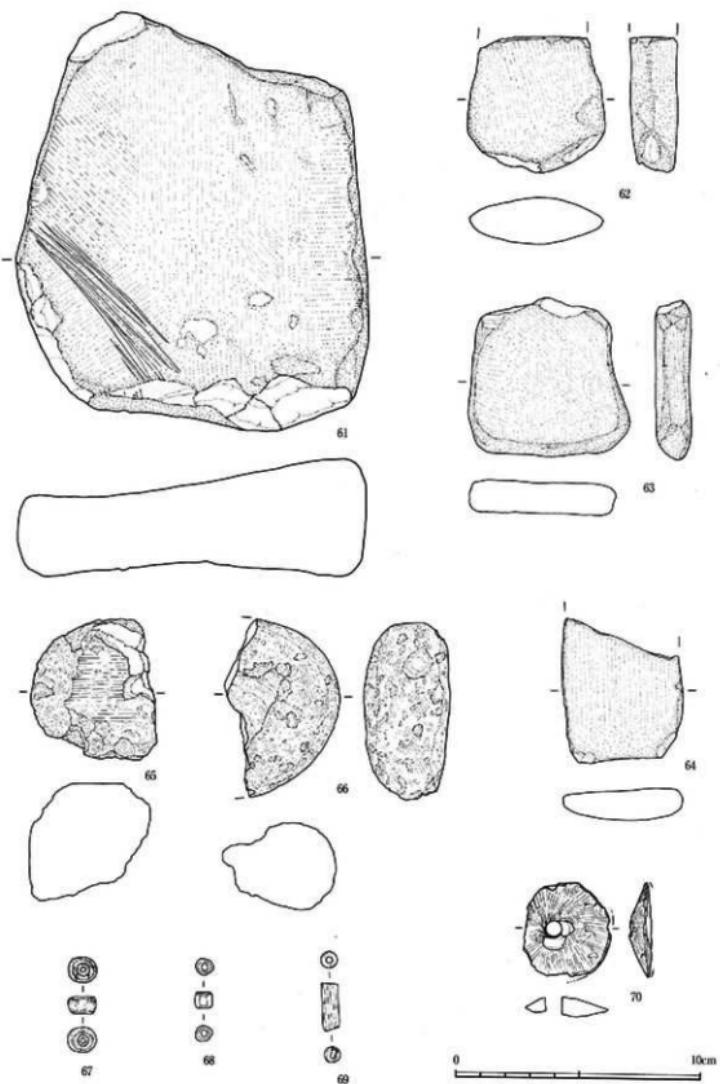
98図 石器実測図⑤ (1 : 2)



99図 石器実測図⑥ (1 : 2)



100図 石器実測図⑦ (1 : 2)

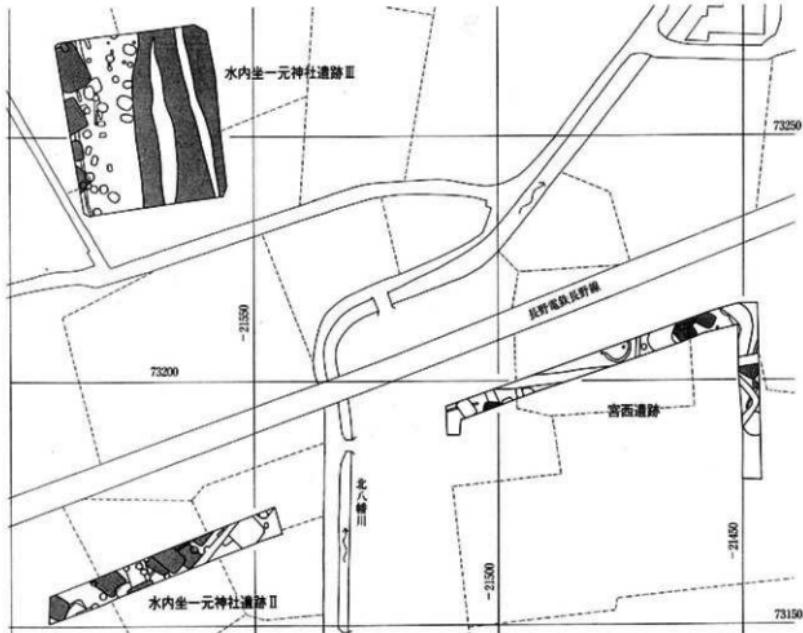


101図 石器実測図⑧ (1:2) ならびに玉類実測図 (2:3)

第4章 考 察

第1節 環濠と集落

環濠はA号・B号の2条の大溝で形成されているようであるが、調査地北端で合体し1条の溝になるようである。また、南端付近においてもB号溝址の内側上端の曲線からこの傾向がうかがわれる。この推測が正しければ土壙と称した中央の土盛りは意識的に造られた祭祀的な場の可能性がある。実用性の無い弓・槍先・装飾盾等の武器形木製品は環濠の性格を裏付けるとともに、枝付の自然木や農耕具等の木製品と共に祭祀の一翼を担った祭祀具と考えられる。B号溝址の最下層から出土したことでも重要な意味をもっているものと思われ、弥生時代終末期の時代比定と祭祀後のあり方を暗示しているようである。それは、外周の断面扁平U字形のB号溝址に道楽している点からV字形を呈するA号溝址の優位性と、祭祀行為の短期的な一時性をものがたっている。5・4層の出土土器には在地のもの他に北陸系や東海系の土器やその影響のもとに作られた在地系の土器がある。土器の取り上げ方によるものか一部に混在がみられるが、5層出土土器の方が在地系弥生時代後期・箱清水式土器そのものが多く認められる。これに対し4層のものは在地系土器に形態や文様構成に変化がみられ、更に北陸系や東海系に系譜を求める事ができる器種が増加する。二層間における時間的差はほとんどなく継続的関係にあるも



102図 調査地と近隣道路の弥生時代後期主要遺構分布図 (1:1,000)

のと思われる。土器の他地域との交流にみられるように弥生時代の解体期を迎え、政治的・文化的指標からの緊張から環濠の形成と、土壙上では農耕祭祀というよりも武器形木製品を伴う戦闘祭祀が行われたものと考えられる。こうした意味から環濠は弥生時代後期終末期に機能し、その後徐々に埋没して古墳時代後期に至って溝の姿を消す。さて、環濠が二重の溝で巡るのかを含めて形態・規模等は不明であるといわざるをえない。調査地の南約70mに位置する水内坐一元神社遺跡Ⅱからはこの遺構の続縁が確認されない。この距離範囲内で屈曲しているものと思われる（102図）。

今回の調査では環濠に関与すると思われる住居址は4軒確認されているが、調査区の西端に位置し全容を検出した遺構はない。それぞれ単独で確認され、主軸方向もほぼ北西に方位を指すという画一性がみられる。C号溝址より東側の遺構面は傾斜をしているとの所見を得ているので、環濠内集落跡の一部とみて間違いないだろう。出土土器も弥生時代後期清水式期のもので、5号住居址からは東海系の低脚高坏片が出土しており終末期の様相がうかがえる。しかし、環濠と同様に集落形態や規模等は不明である。水内坐一元神社遺跡Ⅱは環濠外に位置し、弥生時代後期の住居址8軒確認されている。この内5軒は主軸方向が北西にあり、出土土器にも北陸系のものやその影響の在来系土器が多く確認されている。また、近接する宮西遺跡で当該期の住居址が少なくとも3軒が検出されている。今回調査した地点とこれら調査地の住居址や集落形態に近似したものがあり、同時存在の可能性が高いものとみている。こうした方から環濠・集落・祭祀等の関係は地域共同体による集団祭祀であるのか、環濠内集落と環濠外集落の性格の相違や從属関係の有無等の内容の把握は今後の調査に委ねるところが大きい。

当該期の土壙も数多く検出されているが、土壙上からは確認されていない。調査の所見では環濠と住居址域との間に展開しているようである。また、土壙構築間に集中する可能性も多い。また、内蔵する土器も豊富で、17号土壙のように炭化材がみられることからも祭祀行為に関与する遺構とみている。

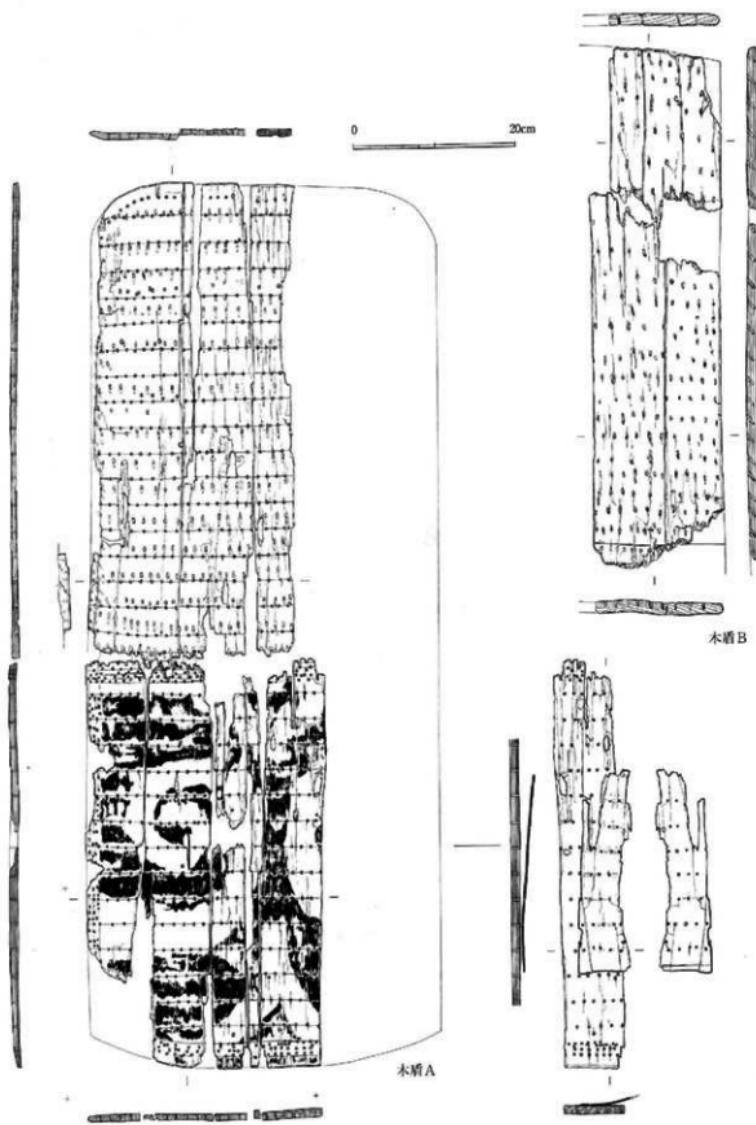
第2節 環濠出土の木盾

鹿児島大学 橋本達也

木盾（103図）は2面出土している。そのうち残存部位の大きい方を木盾A、小さい方を木盾Bとして以下記述する。なお、両盾ともにきわめて脆弱な遺存状態であったため、保存処理を先行し、後に固化・観察を行っている。よって、湾曲のひずみ、接合部の不一致など、本来の形態が変化している部分がある。また各計測値にも若干の歪みによる誤差が含まれている可能性が高い。なお、以下の記述において盾の左右は盾面に向かった状態での方向を示す。

1. 木盾A

形態 左側辺は良好に残り、また上下辺も全体の約2/3程度残存しているとみられ、その構造は良好に復元できる。また、幅の推定も可能で全体を復元することが可能である。すなわち、木盾Aは盾全体の右側約1/3を欠失した遺存状態である。輪郭は上辺、下辺ともに角を落として弧を描き、側辺は直線的である。上辺は直線部が長く、弧はやや急で、下辺は弧が長く緩やかになるようである。構造は、上半部と下半部で大きく異なり、それを区画する中間帯がある。上半部の上辺、下半部の側辺と下辺に沿って縁取りをなす帯状の部位が存在する。ただし上半部と下半部ではその縁取り方法は異なる。全長は108.6~108.8cmである。残存幅は上半部で25.5cm、下半部で29.6cmを測る。木取りや後述する下半部文様の表現から、盾本来の幅は43~46cm程度に復元できる。木取りは板目取りで上下を縦におき、盾表面を木表、盾裏面を木裏とし、心に近い部位を盾中軸になるようにしている。厚みは、現状で上半部は0.7~0.8cm、下半部は0.9~1.1cmである。下に向かって徐々に厚くなっている



103図 木屑実測図 (1 : 6)

ようである。ただし下辺周辺は逆に削り落として薄く仕上げている。端部は上辺では板の木口の角を落とした程度であるが、側邊では1.5cmくらいの幅を最大で2mm程度削り、丸くおさめている。また下辺では端部より2.2cmの幅で最大3mm削り、薄く仕上げている。盾本来のカーブは変形と割れのため、不明確であるが横方向にはやや内湾するようである。また、上下方向では本来の形状か不明であるが、現状で上下端がやや外面側にそる弓反りの状態を呈している。盾面に開けられた孔は基本的に表面からあけられている。孔はおおむね縦長の形状を呈し、多くは直径2~3mm程度である。穿孔面は一段やや広く彫り下がり、それから真っ直ぐ開削されている。孔付近の繊維はやや乱れるようみえ、鋭利な穿孔具によるものではなさそうである。材質は分析結果によるとヒノキ科ヒノキ属である。

上半部 上半部は上辺から中間帯までの58.0~58.2cmを測る。上辺から1.7~1.9cm下方に辺に沿って1.0~1.2cm間隔で上辺部を縁取る穿孔を行う。とくにこの部分に何らかの付属部品があったとは観察できない。下半部の縁取りとは異なりこの孔に直接、紐を通したとみられる。上半部は全面に2種類の加工がみられる。一つは書き線を刻み、その線上に穿孔をするものである。この孔に紐を通して縫割れ防ぎ、また装飾的効果をもたらす弥生時代前期以来の木盾に広くみられる技法である。以下、この孔を紐列孔、横方向の孔列を紐列とする。また紐列は上から第1・第2紐列と数える。書き線はきわめて細く、またほとんど深さがなく鋭利な利器によって描かれたとみられる。もう一方の加工は盾表面から斜め下方向に孔を抉り、そこに細い木材部品を差し込むものである。この孔は裏面まで貫通しているものと、貫通していないものがあるが、木盾Bとの比較などからみても、本来は貫通させないものである可能性がある。木盾Aで裏まで抜けているものは意図したものではなく、その薄さのために貫通したか、後の木壊せによるものであろう。差し込まれている木材部品は良好なものでも盾面からごくわずかにはみ出る程度にしか残っていないため、本来の長さやそれ自身への装飾の有無などは不明である。これはとくになかを挟んで留めた痕跡もなく、盾の本質的な構造に関わるものではないので、盾面から上向きに飛び出るトゲ状の装飾を見なし得る。また、側辺部では外側斜め上向きに飛び出すように配置されており、さながらハリセンボン状を呈している。以下、これを棘状装飾と呼ぶ。紐列は17列ある。紐列間の間隔は3.0~3.5cmまであるが3.2cm程度の間隔のものがもっとも多い。また、横方向の紐列孔の間隔は部位によって若干異なるが線刻上におおむね1.0~1.5cmで穿たれ、1.2cm程度がもっとも多い。紐列孔は縦方向・横方向ともに割り付けられて配置されている。棘状装飾は断面長5mm前後、幅3mm前後の梢円形状を呈する木材部品を差し込んだものである。その多くが紐列間に横方向1列づつ存在するが、第1~2紐列間、第6~7紐列間には存在しない。また、第8~9紐列間は側辺近くに3本ほど存在するのみでほとんど存在しない。第3~4紐列間の中央部は2段の棘状装飾、また中央部第4紐列直下にも集中部分があり、第3~4紐列中央部付近では集中的な分布をしている。第5紐列より上にある上半部上半の棘状装飾はそれより下位のものより鋭角に刺さっており、部位によって傾きを変えている。側辺に沿ったところでは外側斜め向きに飛び出る縦方向に配列された2列の棘状装飾が存在する。第4紐列上、側辺近くに6孔が横に並び、中央部にも1孔確認できる。また、第6紐列上の側辺によりに4~5mmの大きめの孔が2孔、4.7cm間隔をあけて並んでいる。また、第8紐列でも残存側辺の5.7cm内側から3ないし4つの穿孔がある。ほかにも若干ランダムに穿孔がある。これらがいかなる性格の孔であるかは、ただちには明確にし難い。ただ、構造・装飾に関わる孔の配置とは異質であることからすれば、盾を置いておくときか、持つときかの判断は別として使用に関わる部品を取り付ける孔である可能性は考え得る。

中間帯 上半部と下半部の境に帯状に密な穿孔を行った部分がある。その穿孔間隔が上下左右ともに狭いため、かえって強度を弱めおり破損が著しい。また、重みによる変形もあるが、中間帯の幅はおおむね2.7cmと考えられる。この幅の間に横方向5列ほどの紐列を施している。穿孔間隔は1.0~1.4cm程度が多いが、部分的にはさら

にその間に穿孔したところもあり、また必ずしも正確な直線的配置になっていない部分がある。上半部の第17紐列から2.2cm下とさらにその下1.0cmのところに書き線が刻まれている。それより下位に書き線はない。また中間帯の孔をつなぐような黒ずんだライン状の痕跡が観察できる。この穿孔方法は中央部分で下半部の装飾が直線的にとぎれることや下半部の側辺、下辺部縁取りと同様の構造であることから考えて（詳細は後述）、盾面の上に帯状の板を当ててその上から紐を通したものと考えられる。ここでは記述の便宜上、中間帯としたが構造上はむしろ下半部の上縁とできる。

下半部 下半部は長さ47.9cmを測る。きわめて、特徴的な赤色の装飾文様を施す部位であるが、まずはその構造から記す。下半部も横方向の書き線を刻み、その線に沿って穿孔を行っている。装飾の塗彩痕跡からみて、横方向の孔間に紐を通していたことが明確にうかがえる。紐列は14列あり、その間隔は3.0~3.5cmの範囲におさまるが、3.1cm程度のものが最も多い。横方向の紐列孔間隔は1.0~1.5cmであるが、1.2cm程度が最も多い。すなわち、上半部の紐列幅・紐列孔間隔と同様に割り付けられている。側辺は側辺端に沿って幅1.5cmの、下辺部は下辺端から1.5cm内側から幅1.5cmの帯状部がある。この帯状には3列の孔がある。ただし、必ずしも整然と並んでいるわけではない。この帯状部を境に赤色塗彩が直線的に途絶えることから、この上には板を当てて縁取りし、その上から塗彩していたものと観察できる。また、紐列の書き線は縁取り板の下となる帯状部にも及んでおり、縁取り部製作以前に紐列の書き線を刻んでいる。この帯状の縁取り板は紐列で取り付け、盾周辺部を補強し、反りを防ぐものとみられる。第3紐列下、側辺から3.5cmの位置とそれからさらに5cmあけたところに穿孔がある。また、第4~5紐列間の側辺近くに3孔、第8紐列上の側辺から12.1cmの左側渦巻き文中心部下に1孔、第11~12紐列間に側辺部から欠損部を挟んで両側に5孔およびその列の中央部付近に1孔がある。これらの孔も上半部にあったものと同様にその用途を明らかにすることはできないが、第3紐列下の孔は上半部の第6紐列上のものと様相が近く、対応関係にある可能性も考慮できる。他のものは明確にし難いが、やはり側縁に近い位置に、紐列・装飾ともに直接関係しない横位の穿孔があることは上半部と同様である。下半部には全体を使い、赤色塗彩によって藤手状の渦を基調とした装飾文様が施されている。赤色部分と、地色の白木の部分からなる配色である。赤色塗彩は盾表面のみで端部側面に及ばない。また、紐列の紐部分は着色されていないことから、紐列孔に紐を通した後、塗彩を行ったことがうかがえる。残存部位では左巻きの渦巻文が主体を占め、その渦の輪郭をかたどるように上部、下部に対象をなす山形の白色部とその内側に三角形の赤色部がある。また、残存部位の左端付近では向かって右側にある右巻きの渦巻文とみられる部分がある。渦巻文は左右に一对であろうから、この盾は全体幅の中心よりやや右側まで残っていることが確認できる。これは盾全幅を推定する一つの情報となる。赤色塗彩は分析によるとベンガラである。木盾は基本的に朱彩を行うものであることや、実物が保存処理後もピンクに近い発色をしている部分が多いことなど、やや異彩を放っている。

付属板 下半部の残存部位のうち、もっとも右側にある板の裏面には厚さ1.8~2.3mmのきわめて薄い板が貼り付けられている。大部分は現状で盾本体から外れているが、一部は接着したまま残っている。残存長は25.0cm、残存幅6.5cmを測るが、欠損しており、本来の大きさは不明である。下側2辺の一部が残り、角は直角に近い。木目は上下に真っ直ぐ通る。現状では歪んでいるため、盾本体と正確には一致しないが本来は本体の孔にあわせた穿孔が行われている。また、盾本体を裏返したときの付属板の表面に紐を通したとみられる痕跡がうかがえ、本体と一緒に紐を通したものとみられる。下辺部の角から1cmのところでは盾本体の紐列孔を避けたとみられる小さい抉りがある。また本体と接着する側となる付属板の裏面には下辺に沿って、5~6mm内側に二本の書き線刻がある。この板の位置は盾表面からみれば下半部のはば中央部にあたる。よって、木材の心に近く、反りによるもっとも変形や破損のしやすい盾面中央部を補強したものと考えられる。また、使用時の構造に関わる可能性

もあるが、現状では板が貼り付いているという以外の情報を読みとることはできない。

2. 木盾B

形態 大きく5片が残っている。盾面に向かって右側辺が比較的良く残り、また上辺は一部残存する。下辺および左側辺は全くないため右上半部の状況のみ確認できる。また、裏面の遺存状況が不良でかなり木痩せし、深い溝が多くできている。側辺は直線的である。上辺もまた直線的であるが、角部に向かってややさがり気味に傾斜し、全体に緩やかな弧を描くようである。現状の破片をつないだ残存全長は64.7cm、幅は最大16.1cmである。残存する盾表面全体に棘状装飾をもつが、詳細は後述する。とくに上辺や側辺に沿った縁取りはない。残存部位の下端近くに1本の墨書き線刻があるが、これがいかなる部位にあたるのか判断は難しい。上辺から墨書き線刻までの長さは61.6cmである。木盾Aを参考にするとこの近辺から上半部と下半部の構造が異なった可能性は考慮できる。木取りは板目取りで上下を縦におき、盾表面を木表、盾裏面を木裏として、おそらく心に近い部位を盾中軸になるようにしているとみられる。厚みは1.3~1.5cmあり、あきらかに木盾Aよりも分厚い。端部は板材の角を丸くおさめる程度に削っているが特別な加工はしていない。現状で上下方向のカーブはなく、ほぼ直線的に残存する。左右方向は上辺近くでは直線的ながらやや外反りがあり、残存下半部では内反りになっている。材質は分析されていないが、硬い針葉樹材でモミではないと見られる。

装飾 木盾Bには残存部位の全面に棘状装飾が施されている。それ以外では残存下端部近くに1本の墨書き線刻があるだけで、細列孔やその他の孔は存在しない。また残存部位は白木である。棘状装飾は盾表面から斜め下向きに孔を抉り、その中に棘状の細い木材部品を差し込んでいる。この孔は裏面には貫通しない。棘状装飾は必ずしも直線的ではないが基本的に横方向に列をなして並んでいる。上辺から墨書き線刻までの間には21列存在し、また線下に1列確認できる。おおむね列ごとの間隔は第12列目までの残存上半部が3~4cmと広く、また中心から側辺に向かってさがり気味に弧を描き配されている。第13列より下位の残存下半部の列間隔は2~3cmで2.5cm程度のものが最も多く上半部より狭い。またこの部分の列は比較的直線的に並んでいる。また残存上半部の装飾孔間はおおむね2.0~2.5cm程度であるが、残存下半部の孔間は1.3~1.8cm程度のものが多く上半部よりも密である。すなわち第12と13列を境に配置を変えており、装飾効果に変化をつけている。なお、第1列は上辺との関係からその間隔は他のものと異なり狭くなっている。ここに1.2cm以上飛び出た棘状部品を差し込んだ場合、棘上部は盾の上辺より上に飛び出ることになる。側辺付近も装飾孔間隔が狭くなっているが、木盾Aのように外側向きにはしていない。棘状の部品はややはみ出る程度にしか残っていないため、形状を確かめることはできないが、その残存部からみると、断面長6mm・幅3mm前後のものが差し込まれている。大きいものでは断面長9mm・幅3mmにもなる、平たい部品が入っている。

木盾Aの特徴

弥生時代から古墳時代の木盾の樹種は一般的にモミであり、また赤彩は水銀朱である。それ以外は稀であるといってよいほど盾の素材は限定的である。その限定性は盾の製作・使用に関わる精神的な背景を反映すると考えられ、その意味において木盾は単なる物理的な防御具としてのみ機能したわけではない可能性が考えられる。この点において木盾Aがヒノキ材であり、ベンガラによる彩色を行っていることはきわめて特異である。ただし、木盾Aがこれまでに良好に遺存したのは保存環境に恵まれたことに加えて、木盾に一般的なモミ材ではなく、ヒノキ材で製作されていたこともあるだろう。また、上半部にみられる棘状装飾は同じく長野市内の石川条里遺跡に類例が存在するが、これは他の地域では確認されていない技法である。この技法は長野善光寺平に特有のものなのか、東日本での木盾の類型が少ないので確定はできないが、現状では弥生時代後期のこの地域でしか見られない技法であり、木盾の研究に地域性の視点が必要であることを示している。一方で、墨書き線を刻

み、穿孔し、紐を通す技法は弥生時代前期に現れ、中期以来一般的に存在する紐列式木盾の範疇にあることを示している。この盾自体は弥生～古墳時代木盾の系譜において異質なものではない。文様に関してはただちに同一文様の類例をあげられないが、これは木盾Aほど遺存状況の良好な資料が少ないとによるもので、同様の模様を描いたのではないかとみられる木盾破片は若干存在する（奈良県唐古・鍵遺跡第13次、大阪府瓜生堂遺跡、島根県吉賀上寺遺跡など）。一般的に弥生時代後期には装飾的な盾が多くなる。木盾Aは特徴的な素材、装飾をもち、地域的様相の検討を必要とする一方で、弥生時代後期の盾に共通する要素を保持しており、その良好な遺存状態からしてもこの時期を最も代表する盾であることは疑い得ない。

木盾Bの特徴

木盾Bは縦状装飾を少なくとも上半部全面に配置することを特徴とする。上述したようにこの技法はきわめて例の少ないものである。また、少なくとも上半部には紐列孔がなく、木盾Bをただちに紐列式木盾として分類することはできない。ただ、その下半部に紐列の存在を想定するか、木盾Aを介することによって木盾Aの粗製品ないし省略形とみなし、紐列式木盾から派生したものと考えることは可能である。弥生時代後期において紐列式木盾以外の木盾の明確な資料が現状では確認できることからすればきわめて特殊な木盾といえる。たとえ下半部に紐列があっても、上半部の広範囲に紐列を施さない例は弥生時代中期前半までに存在した無紐式木盾以降はほとんどない。あるいはこれがより縦割れの懸念が少ない硬い材とみられることと関係しているかもしれない。木盾Bは形態・端部・技法・厚みなどの点からみて、木盾Aよりも粗雑なつくりである。しかし、基本的には縦状装飾からみて密接な関係をもつもので、その粗製品である可能性が高いとみる。ともかくこの盾も木盾Aとともに、弥生時代後期において、これまでほとんど確認されていない技法を用いたものであり、盾の時期・地域を検討する重要な資料である。

水内坐一元神社遺跡出土木盾の意義

水内坐一元神社遺跡出土の木盾、とくに木盾Aはきわめて良好な資料である。これまで弥生時代の盾は全国各地から出土しているが、全形が復元できるほど良好な資料は大阪府東大阪市鬼虎川遺跡出土のうちのもっとも遺存状況の良い1例以来である。確実な資料情報に基づいて全形復元模型（140頁下段写真）まで製作されたのは、これに次いで2例目である。これまで、弥生時代の木盾で全形復元されたものが鬼虎川盾のみであったことから、弥生盾=鬼虎川盾のイメージがかなり強いと思われる。しかし、鬼虎川盾は弥生時代中期前半の近畿の盾は代表しても、それが弥生時代を代表する盾とはできないものである。無紐式木盾に分類できるこの盾は、現状では弥生時代前中期～中期前半の近畿でのみ確認される盾である。弥生時代から古墳時代までの一般的な盾はこれと異なる紐列式木盾である。これらの意味において水内坐一元神社遺跡例において初めて、弥生時代の紐列式木盾の全形が復元されたことはきわめて重要である。しかし、弥生時代後期の善光寺平に存在した水内坐一元神社盾も縦状装飾などはかではみられない独自の属性を有しており、これも弥生時代の全般に一般的な盾とはできない。しかしましろ今後、この盾の系譜的な脈絡などの検討を要するという点を念頭に置いた上で積極的に評価することは、新たな研究の方向性を提供したという大きな意味をもっている。また、盾の技法のみならず弥生時代の文様の系譜やその背景にある世界まで検討する素材を提供し、今後の研究においてこの盾から引き出される可能性はばかり知れないと考える。

【参考文献】

橋本達也 1999「盾の系譜」「国家形成期の考古学」大阪大学考古学研究室

(財)長野県埋蔵文化財センター 1997『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書15 石川条里遺跡』

(財)東大阪市文化財協会 1987『鬼虎川の木質遺物－第7次発掘調査報告書 第4冊－』

第3節 木盾Aの樹種鑑定

株吉田生物研究所 沙見 真

京都造形芸術大学 岡田 文男

樹種 ヒノキ科ヒノキ属 (*Chamaecyparis* sp.)

木口では仮導管を持ち、早材から晩材への移行が急であった。樹種細胞は晩材部に偏在している。板目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で1分野に1~2個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ树脂細胞がある。

以上の検鏡結果から、本材はヒノキ科ヒノキ属と考えられる。

使用顕微鏡 Nikon MICROFLEEX UFX-DX Type 115

第4節 木盾Aの赤色塗彩部分の観察結果

京都造形芸術大学 岡田 文男

盾の赤色部分について、塗装断面の顕微鏡観察を行い、塗装技法を調査したので結果を報告する。

調査方法 赤色に彩色された部分から約2mm角の剥落試料を採取し、資料をエボキシ樹脂に包埋し、研磨して薄片に仕上げ、透過光による観察を行った（現段階ではその他の機器分析は行っていない）。

結果 写真1（透過光、100倍） 木材組織の板目部分が観察され、赤色顔料が仮導管に1層分浸透し、木材表面にもわずかに付着しているのが認められる。膠着剤はわずかに黄褐色を呈している。写真2（透過光、500倍） 写真1をさらに拡大し、赤色顔料の粒子を観察したもので、パイプ状のベンガラ粒子がわずかに認められた。膠着剤は黄褐色を呈している。

以上の観察から、赤色顔料は形状からパイプ状ベンガラ、膠着剤は漆と推察された。

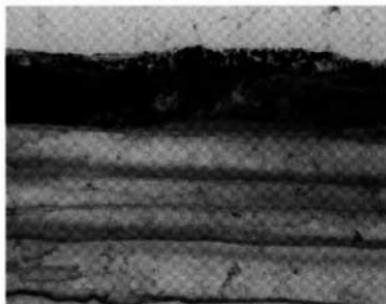


写真1

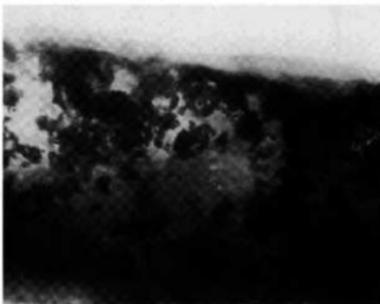


写真2

土器觀察表

番号	種類	法線 (cm)		度数	軸	成形・調整・文様			備考
		口径	高さ			外	内		
2号土器									
1	壺	36.8		1/10	複合口縁 (土器面取り付け) 文様: IB		横挽き		
2	台付壺	12.2	8.7	14.3	45 文様: IC 剥下部: 調整磨き 脚部: ハケ→挽削磨き		剥部: 横挽き 剥部: ナダ		
3	器台?	7.6	8.1	定	ハサ→ナダ (穿孔詳細不明)		ナダ		
4	蓋			定	剥部: 指頭削 拭部: ナダ		ナダ		
3号土器									
5	壺	11.2	4.4	12.0	1/3 文様: 背台 (施文部位に施文顕示異なる) 製下半: 横挽き 底部: 無削		横挽き		
6	壺				底部: 無削		横挽き		
5号土器									
7	壺	18.9		3/4	圓窓き・赤彩	口縁: 黑磨き・赤彩 剥部: ナダ			
8	壺	23.0		2/4		ハサ→挽削磨き	横挽き・赤彩		
9	壺			4/5	口縁: 横挽き・赤彩 腹部: 剥離T字型 (2本) 剥部: 横→斜削磨き・赤彩	口縁: 黑磨き・赤彩 剥部: ハケ			
10	壺			1/4	二重口縁 ハケ→挽磨き・赤彩	挽磨き・赤彩			
11	壺	11.8		定	ハサ→横挽き	横挽き			
12	壺			6.5	1/3 文様: IB-C (施文部位に施文顕示異なる) 等高限止の裏腹 制削下部: 横挽き	剥部: 部分的に横挽削り ハケ			
13	壺			1/3		横挽き			
14	壺	18.0		2/3	文様: IA 右回り等高限止の裏腹文 ハケ	挽磨き (脚部は磨き以前に削りの可能性有り)			
15	壺	4.8		2/3	剥離: 洗浄部 剥下部: 横挽き 底部: 無削	横挽き			
16	台付壺	8.2		1/3	短? (施文詳細不明)	ハサ→ナダ			
17	台付壺	9.3		3/4		剥部: 無削 不明	剥部: ナダ		
18	壺	13.8	4.8	5.4	定 口縁部: 山形突起 2 体部: 横磨き・赤彩 底部: 横削り	横挽き・赤彩			
19	穿孔壺	22.5	6.2	11.8	2/3 口縁: 上半・半削り→横挽き 体部: 横削り・赤彩 底部: 横削り・赤彩 剥削り・穿孔前穿孔	横挽き (穿孔詳細不明)			
20	高环	26.3		1/6	垂直磨き・赤彩	横挽き			
21	高环			1/10	直筒文・山形文・直状刻文・波状文 (黒体はハケもしくは貝殻取扱)	ナダ	SDIに同一個体有り		
1号土壺									
22	壺	15.0	5.4	2/3	1/3部: 横磨き 底部: 手削り→挽磨き	口縁: ハケ→挽磨き 底部: 放射状剥離			
2号土壺									
23	壺	26.8	9.7	2/3	腹部: ナダ・赤彩 体部: 横磨き・赤彩	横挽部: ナダ・赤彩 体部: 横磨き・赤彩			
24	壺	25.2		8.1	定 腹部: ナダ・赤彩 体部: ハケ→挽磨き・赤彩	横挽部: ナダ・赤彩 体部: 横磨き・赤彩 口縫付附近に痕跡			
25	壺	19.5		8.9	3/4 ハサ→手削り 横削 (施文前穿孔)	ハサ→横削			
26	台付壺	10.2		2/3	ハサ→挽磨き 製削: 横削 (施文詳細不明)	剥部: 横磨き 剥部: ナダ→ナダ			
27	高环	29.6		定	横磨き・赤彩	横挽き			
3号土壺									
28	壺	16.8		1/10	横挽き・赤彩	横挽き			
29	壺	13.1	4.5	定	ナダ: 体部: 横磨き 頭部: 従成前穿孔	瓦磨き			
30	壺	32.4		4/5	口縁部: 山形突起 口縫部: ハケ→横磨き・赤彩 頭部: 剥離T字型 (2本) →右回り等高限止の裏腹文 剥部: ハケ→挽磨き・赤彩	口縫部: 横挽き・赤彩 頭部: 横磨き			
12号土壺									
31	壺	14.5		1/6	文様: IA 剥部: 直筒文	横挽き			
32	台付壺	8.0		定	横挽き 剥部: 横磨きの場合は円板充填	剥部: 横磨き 剥部: ハケ			
33	台付壺	6.6		2/3	文様: IE 頭部は直筋 剥部: 横挽き	剥部: 横挽き 剥部: ナダ			
14号土壺									
34	壺	31.8		3/4	口縫部: 横挽き・赤彩 指磨: 右回り 2 通止め施文文 (横磨T字型 (2本))	口縫部: 横挽き・赤彩 剥部: ナダ			
35	壺	16.0		3/4	口縫部: 取り→横挽き 剥部: 横挽き	横挽磨き			
36	壺	14.4		1/3	横挽磨き・赤彩	横挽磨き			
37	台付壺	9.6		3/4	剥部: ハサ→横挽磨き 剥部: ハケ→強磨き	剥部: 強磨き 剥部: ナダ			
38	壺	11.0		1/3	剥部: 横挽磨き・赤彩 剥下部: ハサ→横削 剥部: 横削	ハサ→ナダ (剥削詳細不明)			
16号土壺									
39	壺	11.0		1/5	横挽き	瓦磨5・黑色刷毛			
40	壺	14.0		1/8	ハサ→横ナダ	ハサ→ナダ			
41	壺	20.4		1/8	口縫部: ハケ→横ナダ 剥部: ハケ	口縫部: ハケ→ナダ 剥部: ナダ			
17号土壺									
42	壺	17.8		定	1/3縫部: つまみ上げの強筋ナダ表面取り 口縫部: 横挽き 剥部: ハサ→横削り→ナダ 横挽磨き	口縫部: 横挽磨き 剥部: ハサ→横削り→ナダ			
43	壺	14.2	5.1	18.7	定 口縫部: ハサ→横挽磨き・赤彩 剥部: ハサ→横挽磨き・赤彩 剥部: ハサ→横削	口縫部: ハサ→横挽磨き・赤彩 剥部: ハサ→横挽磨き・赤彩 剥部: ナダ 成部: 横削			
44	壺	15.1		定	口縫部: 横挽磨き・赤彩 2 個一前の堅削孔 剥部: 横挽磨き・赤彩	横挽磨き			
45	無縫壺	8.6	4.2	8.6	4/5 口縫部: 2 個一前の堅削孔 瓦磨5・赤彩 剥部: 横削	口縫部: 横挽磨き・赤彩 2 個一前の堅削孔 瓦磨5・赤彩 剥部: 横挽磨き			
46	壺	17.4	6.7	23.2	定 文様: IB 頭部は右回り 2 通止め 口縫部: 強い横ナダによる施取り子: 横挽磨き 剥部: 横削	口縫部: 横挽磨き 剥部: 横削り→瓦磨5 剥部: 瓦磨5			

番号	器種	法量 (cm)	基部 口径 底径 高さ	蓋 有無	胎 土	成形・調整・文様		備考	
						外面	内面		
47	台付壺	15.4		无	无	文様: I A 腹部はやや不規則な右回り等四隅止め 剥下平: 振挽き B (摩訶鉢不明)	口縁部: 摆挽き 剥部: ハケ→振挽き		
48	台付壺	13.2		无	无	文様: I A 腹部: 右回り3~4週止め縦状文 剥下平: 振挽き	瓦筋		
49	壺	4.0	1.0	无	无	文様: I B 腹部: 右回り2週止め縦状文 剥下平: ハケ・瓦筋 壺 部: 振削り	瓦筋 秋窓透き (窓筋は書き以前に瓦筋りの可能性有り)		
50	高环	24.6		无	无	模造透き・赤彩	模造透き・赤彩		
18号土壙									
51	壺	5.8	无	无	无	I B 腹部: 摆挽き 剥部: 瓦筋 壺部: 振削り	口縁部: 摆挽き 剥部: ハケ→瓦筋		
52	壺	17.8	1.0	无	无	口縁部: 瓦取り 口縁部: 瓦ハケ	瓦ハケ		
53	台付壺	13.8	1.0	无	无	○ 口縁部: 粗粒工具による右左引きの柄部 剥下平: ハケ→剥ハケ	口縁部: 内面瓦取り 瓦部: 剥部: ナデ		
54	环	14.0	4.1	6.3	1.6	瓦筋	瓦筋		
55	壺	5.2	无	无	无	ハケ→ナデ	瓦筋		
56	器台	4.0	无	无	无	瓦筋	瓦筋		
57	高环	3.0	无	无	无	瓦筋	ナデ		
58	器台	7.4	11.2	7.9	4.0	口縁: 受部: 振挽き 壺部: 模造透き円形透丸	受部: 摆挽き 壺部: ハケ→ナデ		
23号土壙									
59	壺	12.9	无	无	瓦筋・赤彩	口縁部: 瓦筋 壺部: ハケ・瓦筋			
60	壺	10.0	无	无	瓦筋	ハケ→ナデ			
61	台付壺	8.4	1.0	无	无	○ 口縁部: 粗粒工具による右左引きの柄部 剥下平: ハケ→瓦筋	口縁部: ナデ 剥部: ナデ 剥部: ナデ		
62	环	12.6	无	无	无	口縁部: 摆挽き 壺部: 振削り 壺部: 瓦筋	口縁部: 摆挽き 壺部: ナデ		
63	辛卯环	20.8	4.9	9.5	无	瓦筋	瓦筋		
64	环	4.0	2.0	无	无	体部: 振削り	瓦筋		
28号土壙									
65	壺	16.8	1.0	无	无	口縁部: 摆挽き 剥部: 瓦筋	口縁部: 摆挽き 剥部: ハケ→ナデ		
66	环	16.8	无	无	瓦筋	瓦筋			
67	环	14.9	无	无	无	口縁: 振挽き 壺部: 振削り→瓦筋	口縁: 瓦筋 壺部: ハケ→瓦筋		
68	环	14.8	无	无	瓦筋?	口縁部: 瓦筋	瓦筋?		
31号土壙									
69	台付壺	12.4	1.0	无	○ 口縁: ハケ刺突 刻痕: 口凹ハケ→横ハケ	口縁部: 瓦取り 剥部: ハケ 剥部: 振削り			
30号土壙									
70	壺	16.3	无	无	口縁: ナデ 剥部: ハケ→ナデ	口縁: ナデ 剥部: ナデ→ナデ			
71	壺	无	无	无	模造透き (摩訶鉢不明)	模造透き			
72	环	12.4	5.0	1.0	口縁: 振挽き 壺部: ハケ→瓦筋	口縁: 瓦筋 剥部: ハケ→瓦筋			
73	环	20.2	6.6	1.0	瓦筋	瓦筋			
74	高环	16.2	13.8	12.2	2.0	口縁: 摆挽き 剥部: 瓦筋	口縁: 瓦筋 剥部: しばり→ナデ		
75	环	22.6	10.5	29.2	1.0	口縁: ナデ 剥部: 瓦筋→瓦筋	口縁: ナデ 剥部: ナデ→ナデ		
31号土壙									
76	壺	15.5	无	无	文様: I A	ハケ	瓦筋		
33号土壙									
77	台付壺	8.2	1.0	无	文様: I A 剥下平部・剥部: 摆挽き	剥上部: 瓦筋 壺部: ハケ 剥下平: ハケ→瓦筋 壺部: ナデ			
I・A号測定法第5版									
78	壺	8.0	3.0	无	口縁: 摆挽き・赤彩 滴下部: 右回り2週止め縦状文×横下平文字(2本) 剥下平: 摆挽き・赤彩 剥下平: 摆挽き 剥部: ナデ	口縁: 摆挽き・赤彩 剥部: ハケ 剥下平: ハケ 剥下平: ハケ 剥部: ナデ	I区 R20		
79	壺	无	1.0	无	口縁: 摆挽き 剥部: 無地工字文(2本) 剥部: 摆挽き 剥部: ナデ	口縁: 摆挽き 剥部: ナデ	N区		
80	壺	20.0	无	无	口縁: 摆挽き 剥部: 瓦筋 滴下部: 瓦筋	口縁: 瓦筋 剥部: ナデ	N区 R27		
81	壺	无	1.0	无	口縁: ナデ 剥部: 摆挽き文字(1本) 剥部: 摆挽き	口縁: 瓦筋 剥部: しばり→ナデ	R24		
82	壺	20.0	2.0	无	口縁: 摆挽き 壺部: 瓦筋 文様: 瓦筋 1/2円弧文 剥部: 瓦筋	口縁: 瓦筋 壺部: ナデ	V区		
83	壺	14.3	7.2	26.7	3.0	口縁: 摆挽き 剥部: 右回り等間隔止め縦状文2段 剥部: 振削り	口縁: 摆挽き 剥部: 振削り→ナデ	B区 R24	
84	広口壺	无	无	无	瓦筋	瓦筋	N区		
85	広口壺	15.2	无	无	口縁: 瓦筋 剥部: 瓦筋 滴下部: 瓦筋	ハケ→瓦筋	瓦区		
86	広口壺	14.4	无	无	ハケ→瓦筋 剥部: 瓦筋 滴下部: 瓦筋	ハケ→瓦筋 剥部: ナデ	瓦区		
87	壺	12.5	5.1	21.9	1.0	○ 口縁: 摆挽ナデ 剥下平: 新ハケ 剥下平: 摆挽 剥部: 振削り	口縁: 摆挽ナデ 剥下平: 振削り→ナデ 剥下平: ハケ 剥部: 振削り	I区 R20	
88	壺	17.3	无	无	横挽き・赤彩	横挽き・赤彩	瓦区		
89	壺	7.4	无	无	模造透文	ハケ→ナデ	I区 R21		
90	壺	20.6	无	无	文様: II-B (施文単位間に施文透序異なる) 口縁部: 右回り2週止め縦状文 滴下部: 右回り3週止め 剥下部: 振削り	口縁: 摆挽透き 剥部: 振削り→瓦筋 剥部: 振削り	I区		
91	壺	10.2	无	无	文様: I A 瓦筋: 右回り等間隔止め縦状文	口縁: 摆挽透き 剥部: ナデ	I区		
92	壺	23.3	10.7	31.1	1.0	文様: I A - B (剥部は施文単位間に施文透序異なる) 口縁部: 右回り2週止め縦状文 剥下部: ハケ→振削り+ナデ 剥部: 振削り→ナデ	口縁: 振削り→瓦筋 剥部: 振削り→瓦筋	I区 R20-R21	
93	壺	22.2	无	无	文様: I A 口縁部: つまみヒツギ状の横ナメ透取り 剥部: 右回り3週止め縦状文 剥下部: ハケ	口縁: 振削り→瓦筋 剥部: 振削り→瓦筋	I区		
94	壺	6.4	无	无	剥部: 摆挽透き 壺部: 振削り→ナデ	瓦筋	I区		
95	壺	28.5	无	无	横挽透状文→下	横挽透	I区 R22		

音 り	器 種	法華 (m)	漢字	脚注	成 形・調 整・文 種		備 考
					外 面	内 面	
96	唐	22.0	16		文様：背景 口縁端部：面取り→模造彫き	模造彫き	V区
97	唐	22.2	16		文様：口縁端部：模造彫き	模造彫き	V区
98	唐	15.4	23		口縁：模造彫き 頭部：ハケ→模造彫き	口縁：ハケ→模造彫き 頭部：荒ナダ	V区R27
99	唐	22.1	16		文様：口縁：右回り等輪廻止め彫状文 口縁端部：面取り	口縁：面取り→荒彫き 頭部：模造彫き	V区
100	唐	18.2	14		口縁：波状文上→下 頭部右回り等輪廻止め彫状文 口縁端部：面取 り→荒彫き	口縁：面取り→荒彫き 頭部：模造彫き	I区
101	唐	15.5	15		口縁端部：面取り→波状文 口縁：波状文上→下	模造彫き	I区
102	唐	13.3 4.8	33.2	完	LH端部：面取り→波状文 文様：口A 液下部：模造彫き 液部： ナダ	口縁：模造彫き 液部：面取り→荒彫き 液部：模造彫き	V区R26
103	唐	12.2 4.6	12.9	45	口縁端部：模ナダ面取り 文様：T A 黑部：右回りニ通止め彫状 文 液下部：模造彫き 波底：ナダ	口縁：模ナダ 液部：荒彫り→ナダ	V区
104	唐	10.8 4.4	10.7	完	口縁端部：面取り→波状文 文様：口A 頭部：模造彫文 下部：模造彫 き 尾部：荒彫り→ナダ	口縁：面取り→模造彫き 尾部：模造彫き 尾部：模造彫き	V区R25
105	台付蟹	11.7	完		文様：口 A 黑部：右回り4連止め彫状文 液下部ハケ→模造彫き	荒彫き	V区R25
106	蟹	8.6	23		頭部：波状文上→下 制下部：模造彫き 成部横部：模造彫き 波部： 荒彫き	模造彫き	I区R21
107	蟹	18.5	1/2	○	口縁：模ナダ 制部：ハケの可能性有り	口縁：模ナダ 液部：ハケ 制部：荒彫り	I区
108	蟹	14.7	15/20	○	口縁：模ナダ 制部：ハケ→荒彫き	口縁：模造彫き 液部：荒彫り→ナダ	Ⅱ区
109	蟹	15.2	15/20	○	口縁：模ナダ 制部：ハケ	模ナダ	Ⅱ区
110	蟹	18.6	15/20	○	口縁端部：ナダ→模取り 口縁：模ナダ 液部：ハケ	口縁：模ナダ 液部：ハケ	Ⅱ区
111	台付蟹	14.4 8.6	22.8	23	口縁端部：面取り無し 口縁：模ナダ 制部：模ナハ 液部：波 カ→ナダ	口縁：模ナダ 液部：模ナハ→ナダ	Ⅱ区
112	蟹	18.9	5.7	完	頭部：ナダ 体部：荒彫き 液部：波状文前半孔 1 間 隔	模造彫き	I区
113	芋洗鉢	17.6 4.8	10.1	完	口縁：模ナダ→模造彫き 体部：ハハ→荒彫き 波底：波状文前孔 1 間 隔	ハハ→模造彫き	I区
114	直口盆	15.6 7.9	17.5	23	口口11 ハケ→模造彫き 底部：荒彫き	ハケ→模造彫き	I区R28
115	直	14.0 5.9	5.5	13	荒彫き 小部：底部：模取り→荒彫き	荒彫き 小部	Ⅱ区
116	台付盆	14			頭部：右回り等輪廻止め彫状文 制部：ハケ→荒彫き	模造彫き	Ⅱ区
117	高环	22.7	1/2		荒彫き 小部	荒彫き 小部	I区R21
118	高环	24.0	18		荒彫き 小部	荒彫き 小部	Ⅱ区
119	高环	24.6	18		荒彫き 小部	荒彫き 小部	Ⅱ区
120	高环	16.5	1/2		口縁端部：山形突起 荒彫き 小部	荒彫き 小部	I区
121	高环	16.4	18		荒彫き 小部	荒彫き 小部	I区
122	高环	9.5 7.3	11.6	38	前部：荒彫き 小部：模造彫き 小部	環部：荒彫き 小部 体部：ハケ→ナダ	Ⅱ区
123	高环	16.9	14		荒彫き 小部 三角透彫り上→下一段 千鳥形各4個配列	模ナダ	Ⅱ区
124	高环	4.8	14		模端部内面 荒彫き 小部	模ナダ→ナダ	Ⅱ区
125	片口鉢	15.4	23	片口1	口縁：模ナダ→模造彫き 体部：ハケ→荒彫き 小部	ハケ→荒彫き 小部	Ⅱ区
126	高环	16.2 9.8	12.6	23	口縁端部：面取り→荒彫き 小部 环部：模造彫き 小部 液部： 模ナダ→模造彫き 小部 液部无施	環部：荒彫き 小部 体部：ハケ→ナダ	Ⅱ区
127	高环	12.0	13		荒彫き 小部	環部：荒彫き 小部 体部：ハケ→ナダ	Ⅱ区
128	臺盆	23.3	12		荒彫き 小部	荒彫き 小部	V区R27
129	臺盆	10.5 7.5	7.1	34	口縁端部：面取り 口縁：模ナダ 壁部：荒彫き 体部：荒彫き	環部：荒彫き 体部：ナダ	I区
1・A号溝足4周							
130	直	21.1 5.8	29.9	1/2	口縁端部：白形空絞 口縁：ハケ→荒彫き 頭部：模造彫文(2本) →右回り等輪廻止め彫状文 制部：ハハ→荒彫き 底部：模取り	口縁：ハケ→荒彫き 前上部：模ナダ→ナダ 制 下部：ハケ	I区
131	直		25		口縁：模造彫き 小部 液部：模造彫文(2本)	荒彫き 小部	V区
132	直	17.4 6.1	27.3	45	口縁：模造彫き 前上部：模造彫き 新下部：模取り→ナダ 底部： 模取り→延筋 亂筋	模造彫き 亂筋	V区R18
133	直口盤	7.7 4.0	15.3	45	口縁：模造彫き 小部 制部：模造彫き 小部 液部：荒彫り→模取り	口縁：模造彫き 小部 制部：ナダ	V区R13
134	直	14.6 7.4	27.4	完	口縁：ハハ→模ナダ 制部：波状文1 ハケ→模造彫き 底部：荒彫 き	口縁：模ナダ 制部：模ナダ→ナダ	Ⅱ区
135	直	20.7	1/2		荒彫き	模造彫き	V区R19
136	直	12.3	1/2		模ナダ	模造彫き	Ⅱ区
137	直	9.5	1.5	24	口縁端部：面取り 荒彫き 小部	荒彫き	Ⅱ区
138	直	16.8	5.6	完	口縁端部：第1封の堅縫孔 荒彫き 小部	荒彫き	I区R15
139	広口直	12.0	18		荒彫き 小部 制部：第1封の堅縫孔 荒彫き 小部	口縁：荒彫き 小部 制部：荒彫き	V区R18
140	直	11.3	25		口縁：模ハケ→ナダ 前上部：模ハケ 前下部：模取り→ハケ	口縁：模ハケ→ナダ 前上部：模取り→ハケ	I区
141	直		14		模造彫き 小部	模ナダ→ナダ	Ⅱ区
142	直	8.7	15		ハケ→模造彫き 底部：荒彫き	ハケ	Ⅱ区
143	直	27.8	16		口縁端部：面取り→波状文 口縁：波状文上→下 頭部：右回り等輪 廻止め彫状文	ハケ→模造彫き	I区
144	直	21.0	18		口縁：波状文上→下	口縁：模造彫き 制部：ハケ	Ⅱ区
145	直	22.8 7.9	31.2	1/2	口縁端部：つまみ上げ状の縦ナハ面取り 文様：口A制部：右回り3 連止め彫状文 制部：ハハ→模造彫き 底部：模取り	口縁：模ナダ 制部：模取り→ナダ	I区R17
146	直	30.2 6.7	29.0	3/4	口縁：模ナダ 制部：模取り→ナダ 旅部：模取り	口縁：模ナダ 制部：模取り→ナダ	I区R14
147	台付蟹	8.9	23		模取り→ナダ	制部：ナダ 液部：模取り	Ⅱ区
148	蟹	21.3	18		口縁：波状文 液部：模ナダ	模造彫き	Ⅱ区
149	蟹	21.8	1/20		文様：II 口縁：波状文上→F 液部：模次文○模造文	模造彫き	V区

番号	器種	法徑 (mm)	表面	底	成形・調整・文様				備考
					口径	底径	最高	基底	
150	甕	30.1		1.6	口縁部：掘取り 口縁：波状文上→下			底割り→鋸い荒削き	V区
151	甕	22.0		1.8	文様：II 口縁：波状文上→下 滑部：滑状文○×直線文			ハケ→横挽き	Ⅷ区
152	甕	14.6		1.6	口縁部：つまみ上げ状の楕ナメ面取り 文様：I A 底部：右回り4道溝+墨文			ハケ→横挽き	I区
153	甕	18.8		1.6	口縁部内凹 頭部：直底文 調整：波状文 口縁：ハケ→ナデ			横挽き	Ⅱ区
154	甕	20.4		2.0	口縁部内凹 文様：I 口縁：波状文+文転序不定 削下部：ハケ			口縁：横挽き 底部：底割り 制部：底磨き	I区
155	甕	16.5		2.0	口縁：強健ナメ 調整：鋸取部：ハケ→ナデ			口縁：底割り→ナデ 制部：底割り→ナデ	V区
156	甕	6.5		1.3	ハケ→鋸挽き 滑部：底割り→鋸削き			横挽き	I区
157	甕	10.5		1.3	文様：II 波状文+文転序不定 頭部：右回り3道溝+墨文 制部：底割り→鋸削き			ハケ→ナデ	V区
158	台付甕	10.0		1.2	文様：I A 底部：右回り墨文 植下部：堆列不明			ナデ	I区
159	甕	8.6	4.4	10.6	口縁：指ナデ 制部：ハケ			口縁：横ナデ 制部：ハケ	Ⅱ区
160	甕	10.7	5.8	12.5	口縁：横ナデ 植下部：ハケ→ナデ 制部：ナデ			口縁：横ナデ 制部：ナデ	Ⅱ区
161	甕	9.0	4.0	11.1	口縁：ハケナメ 制部：底磨き→ナデ			ナデ	Ⅸ区
162	甕	19.8		1.4	口縁：横ナデ 植下部：ハケ			ハケ→横ナデ	Ⅸ区
163	甕	17.4		1.0	ナデ			ナデ	Ⅸ区
164	台付甕	18.4	9.4	26.6	3/4 口縁：底ハケ→後ナデ 制部：折ハケ 製品：底ナメハケ			口縁：横ナデ 制部：笠ナデ→ナデ	V区 R18
165	台付甕	13.4	8.2	18.6	先 口縁：横ナデ 制部：鋸→鋸ハケ 制部：ナデ			口縁：横ナデ 制部：鋸ナメハケ	Ⅱ区 R69
166	台付甕	15.3	8.5	19.1	先 口縁部：鋸取り 口縁：ナデ 制部：鋸ナメハケ 制部：鋸部：ナデ			口縁：横ナデ 制部：鋸ナメハケ	V区 R16
167	甕	12.2	4.0	11.9	1/2 口縁：横ナデ 植下部：鋸磨き→底磨り→ナデ			口縁：横ナメハケ 制部：底磨き	Ⅸ区
168	甕	11.3	5.3	14.0	1/2 口縁：横ナデ 制部：底磨り→ナデ 底部：底磨り			口縁：横ナデ 制部：底磨り→ナデ	I区
169	甕	11.2		2.0	口縁：横ナデ 制部：ナデ			口縁：横ナデ 制部：底磨り→ナデ	Ⅸ区
170	甕	17.0		1.2	○ 口縁：横ナデ 制部：ハケ→ナデ			ナデ	Ⅸ区
171	甕	12.0		1/0 ○ 口縁：横ナデ 制部：ナデ 口縁部内凹：鋸取り			口縁：横ナデ 制部：ナデ	I区	
172	环	13.0	5.1	6.3	1/2 口縁：2側+対の彫刻孔 作部：底磨き+赤彩 本彩：底磨き+赤彩			底磨き+赤彩	Ⅸ区
173	环	12.1	3.1	15.8	先 体部：底磨き+赤彩 制部：底磨り			底磨き+赤彩	I区
174	环	23.6		1.0	口縁部：山形突起+耳部：底磨き+赤彩			底磨き+赤彩	Ⅸ区
175	环	23.5		1.0	底磨き+赤彩			底磨き+赤彩	Ⅸ区
176	环	15.2		1.0	底磨き+赤彩			底磨き+赤彩	Ⅸ区
177	环	17.5	13.1	14.4	2/3 杯形：底磨き+赤彩 海部：底磨き+赤彩 三角形透孔4			杯部：底磨き+赤彩 制部：ナデ	Ⅸ区
178	环	19.6		1.8	底磨き+赤彩			底磨き+赤彩	Ⅸ区
179	环	18.0		2.0	○ 重山文→山形文→山形文→變形文を直線文で区画 怪点はハケなし くは設置痕跡			口縁部内凹：鋸取り 环部：底磨き	Ⅱ区
180	环	20.3	13.3	14.7	4/5 底部：ハケ→底磨き 溝部：ハケ→底磨き 5/5 内凹部上→下各2段各3個			口縁部内凹：鋸取り 底部：底磨き 制部：ナデ	Ⅱ区
181	环			1/0	底磨き+赤彩			底磨き+赤彩	Ⅸ区
182	环	14.3		3/4	底部：底磨き+赤彩 溝部：底磨き+赤彩 円形透孔3			底部：底磨き+赤彩 制部：ナデ	I区
183	环			13.0	ハケ→底磨き+赤彩 円形透孔4			底磨り→ナデ	Ⅸ区
184	环	14.4		3/4	底部：底磨き+赤彩 3個+1組の内凹透孔4個			底部：底磨き+赤彩 溝部：ナデ	Ⅸ区
185	环	12.0		3/4	底磨き+赤彩 透孔上→下各3箇			底磨り→ナデ	I区
186	环			10.8	1/2 底磨き+赤彩 円形透孔5			底部：底磨き+赤彩 制部：角磨き	Ⅸ区
187	环			1.8	粘土帶貼付突片+錐錠蓋直系、赤彩			ハケ→ナデ	Ⅸ区
1・A号測定系3層									
188	甕			4/3	底部：右回り3道溝+墨文→波状文 制部：ハケ→鋸削き			ハケ	
189	甕	36.0		1/4	口縁部：山形突起+耳部：底磨き+赤彩			底磨き+赤彩	Ⅸ区
190	広口甕	16.0		1/4	口縁部：底取り→鋸削き 口縁：底磨き			底磨き	Ⅸ区
191	甕	15.5		1/4	横挽き			横挽き	Ⅸ区
192	甕	20.0	7.3	33.2	3/4 口縁部：底取り→ナデ 口縁部：横ナデ 植上部：ハケ→底磨き 制部：ナデ 下部：ハケ→底磨き			口縁：横挽き 制部：直磨り→ハケ→底磨き	Ⅱ区
193	甕	15.0		1/2	口縁部：底取り→ナデ 口縁：底磨き+赤彩 溝部：底磨り→鋸削き			口縁：横挽き 制部：ハケ	
194	広口甕	13.7	3.3	13.4	3/3 口縁：ハケ→横ナデ 植上部：ハケ→ナデ 植下部：底磨り→ナデ			口縁：横ナデ 植上部：底磨り→ナデ	Ⅱ区
195	甕	4.4		3/4	側面：ハケナメ 底部：底磨り→ナデ			側面：底磨り→ナデ	Ⅸ区
196	甕	12.6		1/0	口縁：底磨き 植上部：底磨き 底部：底磨り→鋸削き			口縁：底磨き 制部：底磨り→鋸削き	Ⅱ区
197	小甕	8.8	8.0	完	口縁：横ナデ 制部：ナデ 底部：底磨り→ナデ			口縁：ナデ 制部：ナデ	I区
198	小甕	7.2	8.6	4/5	口縁：横ナデ 制部：ハケ→ナデ			口縁：横ナデ 制部：ナデ 成部：底平化やナデ	I区
199	小甕			1/2	口縁：横ナデ 制部：ハケ→ナデ			口縁：横ナデ 制部：底平化やナデ	I区
200	小甕	8.0	9.8	2/3	口縁：横ナデ 制部：ナデ 成部：底磨り			口縁：横ナデ 制部：ナデ	I区
201	甕	15.0		1/0	○ 口縁部：つまみ上げ状の楕ナメ+底取り 口縁：横ナデ			横ナデ	Ⅸ区
202	甕	16.2		1/4 ○	口縁部：つまみ上げ状の楕ナメ+底取り 口縁：摩剥り→ナデ			摩剥り→ナデ	Ⅸ区
203	甕	15.0		1/0	横ナデ			横ナデ	Ⅸ区
204	甕	13.0		1/0	横ナデ			横ナデ	Ⅸ区
205	甕	16.6		1/2	口縁：横ナデ 制部：ハケ			口縁：横ナデ 制部：ナデ 底部：底磨り→ナデ	
206	甕	17.7		1/8	口縁：横ナデ 植部：底ナデ			口縁：横ナデ 制部：ナデ	Ⅸ区

番号	機器名	法線(cm)		測定士	成形・開き・文様		備考	
		上部	底部		外観	内面		
207	窓	14.2	18.6	293	口縁：横ナデ 脚上部：横筋り→ナデ 脚下部：筋割り	口縁：横ナデ 脚上部：横ナデ 脚下部：横筋 底部：武ナデ→ナデ	I区	
208	窓	17.8		394	口縁：横ナデ 脚部：さらさ状工具による擦痕	口縁：横ナデ 脚部：横ナデ→ナデ	Ⅱ区	
209	窓	24.1	6.6	394	窓底き	窓底き	I区	
210	窓	26.1	4.8	195	口縁：広上部半：武筋き 底部：筋割り→窓底き	窓底き→黑色處理	Ⅱ区	
211	窓	26.1		195	筋割き・赤彩	窓底き・赤彩	Ⅱ区	
212	窓	22.7	8.0	12.1	窓縁：筋割き・赤彩 脚部：筋割き・赤彩 三角形透孔4	窓縁：筋割き・赤彩 脚部：ナデ	I区	
213	窓	13.5		163	筋割透孔・赤彩 三角形透孔3 円孔捺抜栓孔各3単位	ハケ→ナデ	Ⅱ区	
214	窓	10.9		393	筋割透孔・赤彩 円形透孔8	窓縁：筋割き・赤彩 脚部：ナデ	I区	
215	窓	18.1	13.9	15.4	窓縁：横ナデ→窓底き 脚部：ハケ→筋割き	窓縁：横ナデ→窓底き 脚部：ハケ→ナデ	Ⅱ区	
216	窓	17.3	14.8	13.3	窓縁：筋文状の筋割透孔 脚部：筋割透孔	窓縁：筋底き 脚部：しほり→ナデ	I区	
217	窓	19.8	15.7	14.0	窓縁：筋文状の筋割透孔 脚部：筋割透孔	窓縁：筋文状の筋割透孔 脚部：しほり→ナデ	I区	
218	窓	17.5		293	窓底き	しほり→ナデ	I区	
219	窓	22.7	17.4	16.7	394	筋割透孔 脚部：筋底き	窓縁：筋底き 脚部：しほり→ナデ	Ⅱ区
220	窓			393	筋底き	しほり→ナデ	I区	
221	窓	17.1		193	筋底き	筋底き→黑色處理	Ⅱ区	
222	窓			13.4	窓底き	しほり→ナデ	Ⅱ区	
I・A等溝辺第2層								
223	窓	35.0		194	口縁：筋底き・赤彩 脚部：横筋丁字支（2本）	筋底き・赤彩	Ⅱ区	
224	窓	16.2		194	口縁：筋底き 脚部：筋底き	口縁：横ナデ 脚部：ナデ	Ⅲ区 R 10	
225	窓	元		194	口縁：筋底き・赤彩 脚部：横筋丁字支（2本）	筋底き・赤彩	Ⅲ区 R 29	
226	窓	12.9		196	横筋縫文 筋底き・赤彩	筋底き・赤彩	Ⅱ区	
227	窓	11.6		199	○側凹縫文 窓底き・赤彩	筋底き・赤彩	Ⅱ区	
228	広口窓	15.0		194	口縁：2側・対の筋彫刻 窓底き・赤彩 脚部：右回り3連止めの筋文 脚部：筋底き	口縁：筋底き・赤彩 脚部：ナデ	Ⅱ区	
229	窓	15.9		192	筋底き	剥離不明	I区	
230	窓	12.2		293	口縁：筋底き 脚部：斜・筋底き	筋底き→筋底き	Ⅲ区	
231	窓	12.7		193	口縁縫合：つまむ上げ状の筋底きナデ 口縁：横ナデ 脚上部：横筋底き 脚部：筋底き	口縁：横ナデ 脚上部：横筋底き 脚下部：豊平化→ナデ	Ⅱ区	
232	窓	9.4	12.9	196	筋底き 摩耗跡不明	摩耗不明	VII区	
233	窓	9.7	12.6	495	口縁：窓底き 脚部：摩耗跡不明	口縁：筋底き・朝上部：ナデ 底部：ハケ	Ⅷ区	
234	窓	8.5		293	口縁：筋底き・赤彩 脚部：斜・筋底き・赤彩	口縁：筋底き・赤色處理 脚部：ナデ	Ⅲ区	
235	窓	元		192	摩耗跡縫合	脚上部：摩耗縫合 ナデ 底部：ハケ	Ⅲ区 R 3	
236	窓	8.3		192	摩耗跡縫合	摩耗不明	Ⅲ区 R 11	
237	窓	9.3		293	口縁：筋底き 脚部：筋底き	ナデ→黑色處理	Ⅲ区	
238	小窓			293	脚部：ハケ→ナデ 脚上部：筋底き 底部：筋割り→筋底き 滴状痕	口縁：筋底き 脚部：ナデ	Ⅲ区	
239	小窓			192	筋底き	ナデ	VII区	
240	窓	31.8		198	文縫：II 口縁：波状文上→下 脚部：右回り3連止め縫合文	ハケ→筋底き	I区	
241	窓	16.9		199	口縁：横ナデ 脚部：ハケ	筋ナデ	I区	
242	窓	26.6	30.4	38.0	394	口縁：筋底ナデ 脚部：右回り2連止めの縫合文 脚部：筋底模状文・筋底き・筋底底	口縁：横ナデ 脚部：ハケ→筋底き？	Ⅵ区 R 4
243	窓	17.5	6.0	33.5	293	口縁縫合：斜前・口縁：筋底5 脚部：筋底き	口縁：筋底き 脚部：筋底き	Ⅱ区 R 1
244	窓	16.0		295	口縁：筋ナデ 脚部：ナデ→ナデ	口縁：横ナデ 脚部：筋底り	Ⅵ区 R 8	
245	窓	14.0		193	口縁：ハケ→ナデ 脚部：ハケ→ナデ	口縁：横ナデ 脚部：筋底り→ハケ	Ⅶ区	
246	窓	17.5		293	口縁：横ナデ 脚上部：横 ブレード：筋底り→ハケ→ナデ	口縁：横ナデ 脚部：筋底き	Ⅶ区	
247	窓	16.8		194	口縁：横ナデ 脚部：ハケ	口縁：横ナデ 脚部：筋平化→ナデ	Ⅶ区	
248	窓	17.8	21.4	102	口縁：ハケ→筋底 脚部：筋底底	口縁：筋ナデ→横ナデ 脚部：筋底り→ナデ	VII区	
249	窓	20.8		394	口縁：ハケ→筋底 底部：筋底り→ナデ	口縁：ナデ 脚部：ナデ	Ⅶ区	
250	窓	19.8		194	口縁：横ナデ 脚部：ハケ→ナデ	口縁：横ナデ 脚部：ハケ→ナデ	Ⅵ区 R 11	
251	窓	18.2		293	口縁：筋ナデ 脚部：筋底り→砂利土帶接合部を網に残す	口縁：横ナデ 脚部：筋底り	Ⅶ区	
252	窓	15.9		192	筋底き（摩耗跡不明）	ハケ→筋底き	I区	
253	窓	14.4		394	筋ナデ	筋ナデ	I区	
254	窓	4.0		195	脚下部：ハケ・底部：筋底縫合：筋底り	筋底り	Ⅶ区	
255	窓	19.5	4.9	19.0	195	口縁：横ナデ 体部上半：ハケ 体部下半：ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	Ⅶ区
256	窓	11.2		295	丁字な筋底き	筋底き	Ⅶ区	
257	窓	14.0		195	口縁：筋底・摩耗不明 底部：筋底り→筋底き	筋底き→黑色處理	Ⅶ区	
258	窓	12.5		195	口縁：横ナデ 体部：筋底り→ナデ→ナデ・筋底き	筋底き	Ⅶ区	
259	窓	16.6	8.5	293	口縁：横ナデ・筋底き・体部：筋底り→筋底き	筋底き	Ⅶ区 R 8	
260	窓	13.5	5.3	295	ハケ→筋底き 底部：筋底り→筋底き	筋底き	Ⅶ区	
261	窓	14.1	6.3	195	口縁：横ナデ 底部：筋底→筋底き	筋底き→筋底底	Ⅶ区	
262	窓	12.8	5.5	195	口縁：横ナデ・筋底縫合・底部：筋底り→筋底き	筋底き	Ⅶ区	
263	窓	15.0		195	口縁：横ナデ・筋底縫合・底部：筋底り→筋底き	筋底き？	Ⅶ区	
264	窓	12.4		293	筋底き	筋底き	I区	
265	窓	16.0	5.7	293	口縁：横ナデ 底部：筋底り→筋底き	筋ナデ→筋底き	Ⅶ区	
266	窓	15.2	6.1	495	口縁：横ナデ 底部：ハケ→横ナデ	ハケ→筋ナデ→黑色處理	I区	

番号	器種	汎用（cm）	測定値	測定土	床、形、調、整、文、様		備考	
					外 面	内 面		
267	坪	12.8	5.5	1/3	口縁：横ナデ→黒地墨書き 壁部：黒削り→墨書き	墨書き→黒色処理	V区	
268	坪	14.6	23	口縁：横ナデ 壁部：黒削り→墨書き	墨書き？	V区		
269	坪	12.9	5.9	1/3	墨跡不明	墨書き	墨区	
270	坪	14.4	6.3	1/3	墨跡不明	墨書き→黒色処理	墨区	
271	坪	12.8	5.1	2/3	口縁：横墨書き 壁部：黒削り→墨書き	墨書き	B区	
272	坪	12.0	4.1	1/2	口縁：墨書き 壁部：黒削り→墨書き	墨ナデ→墨書き	V区	
273	坪	10.0	1/3	墨書き	墨書き？	V区		
274	坪	11.8	4.4	1/2	口縁：横ナデ 底部：黒削り→ナデ	ナデ	B区	
275	坪	15.0	5.0	1/2	黒削り→墨書き	墨書き	V区	
276	坪	16.8	7.1	2/3	口縁：横墨書き 底部：黒削り→墨書き	墨書き→黒色処理	墨区	
277	坪	15.3	1/2	墨書き	墨書き→黒色処理	墨区		
278	高坪	15.2	3/4	口縁墨書き：山形舟型4 口縁：墨書き・赤彩 海部：黒書き・赤彩 三 部部：墨書き・赤彩 壁部：ナデ	舟型4			
279	高坪	17.3	12.7	12.6	完	底部：黒墨書き 脚部：墨書き 竹管による凹凸剥離	底部：墨書き 剥離：ナデ	V区 R 9
280	高坪	17.8	12.8	12.3	2/3	底部：墨書き 脚部：ナデ	底部：墨書き 剥離：ナデ	I区
281	高坪	19.4	13.9	14.2	1/2	底部：墨書き 壁部：墨書き	底部：墨書き 剥離：ナデ	I区
282	高坪	17.8	14.6	13.8	3/4	底部：墨書き 壁部下部：黒削り 脚部：墨書き	底部：墨書き 剥離：ナデ	I区
283	高坪	16.6	12.6	11.2	3/4	底部：墨書き 脚部：墨書き	底部：墨書き 剥離：ナデ→ナデ	III区
284	高坪	18.9	14.5	14.5	2/3	底部：ハケ→墨書き 脚部：墨書き	ハケ→墨書き 剥離：ナデ	V区
285	高坪	18.4	14.9	15.1	2/3	底部：ハケ→墨書き 壁部：墨書き	ハケ→墨書き 剥離：ナデ→ハケ	V区 R 10
286	高坪	17.5	34	墨書き不明	墨書き	墨書き	I区 R 6	
287	高坪	16.8	23	墨書き	墨書き	墨書き	III区	
288	高坪	21.6	29	底部：ハケ→墨書き 壁部：墨書き	墨書き	墨書き	III区	
289	高坪	15.8	25	底部：墨書き	墨書き	墨書き	I区	
290	高坪	15.7	25	ハケ→墨書き	ハケ→墨書き	墨書き	V区	
291	高坪	12.8	25	墨書き不明	墨書き	墨書き	I区	
292	高坪	18.8	12.4	14.0	2/3	底部：墨書き 剥離：墨書き	墨書き 剥離：脚部：しほり→ナデ	II区
293	高坪	18.4	13.4	13.2	2/3	底部：墨書き 剥離：墨書き	墨書き 剥離：脚部：しほり→ナデ	II区
294	高坪	18.6	12.9	13.0	2/3	底部：墨書き 剥離：ハケ→黒削り	墨書き 剥離：脚部：ナデ	II区
295	高坪	17.6	15	底部：墨書き 剥離：墨書き	墨書き 剥離：脚部：墨書き	墨書き	II区	
296	高坪	16.8	11.6	12.8	2/5	底部：墨書き 剥離：墨書き	墨書き 不明 剥離：ナデ	I区
297	高坪	26.6	17.0	20.1	3/4	底部：ハケ→墨書き 壁部：墨書き	墨書き 剥離：脚部：ナデ	I区 R 6
298	高坪	22.6	1/4	ハケ→墨書き	墨書き	墨書き	III区	
299	高坪	21.1	23	ハケ→墨書き	ハケ→墨書き	墨書き	III区	
300	高坪	23.6	完	墨書き	墨書き	墨書き	V区	
304	高坪	17.9	12.8	15.0	1/3	底部：ハケ→墨書き 壁部：ハケ→墨書き	墨書き 剥離：脚部：墨ナデ→墨書き 壁部：墨削り→墨ナデ	V区
305	高坪	11.4	完	墨書き	墨書き 取り	ナデ	III区	
303	高坪	17.8	3/4	墨書き	ハケ→ナデ	墨書き	II区	
306	高坪	19.4	14.6	15.1	2/3	底部：墨書き→墨書き 壁部：墨書き	墨書き→黑色処理 剥離：ナデ→ナデ	I区
305	高坪	14.9	12.8	15.5	2/3	墨書き（準不不明）	墨書き→黑色処理 剥離：ナデ	V区
306	高坪	14.9	3/4	口縁墨書き：内側へ肥厚 壁部：墨書き	墨書き→黑色処理 剥離：ナデ	V区		
307	高坪	9.5	25	ハケ→墨書き	墨書き→墨書き	墨書き	III区	
1. 本年度測定第5周								
312	壺	12.8	5.7	14.8	完	口縁：墨書き・赤彩 剥離：墨書き・赤彩 剥離：手は墨書き以前の抜 け目を基準に残す 壁部：墨削り	墨書き・赤彩 剥離：脚部：黒削り	II区 R 62
313	壺	11.8	4.6	15.3	完	口縁：ハケ→墨書き・赤彩 剥離：ハケ→墨書き・赤彩 底部：墨書き	ハケ→墨書き・赤彩 剥離：ナデ	II区 R 73
314	壺	9.4	5.2	11.7	完	口縁：墨書き・赤彩 剥離：墨削り→墨書き・赤彩 底部：黒削り	墨書き・赤彩 剥離：黒削り→墨書き	V区 R 60
315	壺	12.6	1/4	墨書き	墨書き	墨書き	III区	
316	壺	4.7	15	ハケ→墨書き・赤彩 底部：墨削り	墨ナデ→墨削り	墨ナデ	III区 R 65	
317	壺	12.5	5.1	21.0	完	口縁：墨書き・赤彩 剥離：墨書き・赤彩 壁部：墨削り 壁部：墨削り	墨書き・赤彩 剥離：ナデ 剥離：ハケ	V区 R 59
318	壺	18.2	18	○	口縁：横ナデ 剥離：ハケ	横ナデ	III区	
319	壺	13.2	25	文様：I A 剥離：右肩と右側止め墨状文	墨書き	墨書き	III区	
320	壺	19.4	23	文様：I A 剥離：右肩と3道止め墨状文	墨書き 壁部付近のみ墨削り直削り	墨書き	V区 R 65	
321	壺	22.1	7.0	25.2	口縁墨書き：内側へ肥厚 文様：I A 剥離：右肩と3道止め墨状文 剥離下部 墨書き 剥離：底部：墨削り	墨書き	V区	
322	壺	16.1	15	文様：I A 剥離：右肩と5道止め墨状文 剥離：文様剥り 剥離：ナデ	墨書き 剥離：ナデ	III区		
323	壺	5.8	23	文様：I A 剥離：右肩と2道止め墨状文 剥離：墨書き 剥離：墨削り 剥離削り 底部：墨削り	墨書き	V区 R 61		

番 号	器 種	法量 (cm)	高 度	胎 土	成 形・調 整・文 紋		備 考
					外 面	内 面	
324	台付甕	20.3	4.5	泥質	文様：口縁：波状文・施文軸取付不定 腹部：右回り4連止め縦状文 腹上部：波状文下部：下脚下部：ハケ・擬乳頭透き 腹部：擬乳頭透き	口縁：ハケ・擬乳頭透き 腹部：輪動き 横部付近のみの腹割り痕残す 脚部：ナデ	VII区 R65
325	高环	13.5	2.4	泥質	环部：施乳頭・赤彩 腹部：施乳頭・赤彩 三角形透孔4	环部：地割れ・赤彩 脚部：ナデ	VII区 R62
326	高环	定	○	泥質	施乳頭・赤彩	环部：施乳頭・脚部：ナデ	Ⅷ区
327	高环	11.9	2.5	泥質	施乳頭・赤彩 回板充填	环部：施乳頭・赤彩 脚部：ハケ・ナデ	Ⅷ区
328	高环	9.8	2.5	泥質	施乳頭・赤彩 腹部：施乳頭による凹曲り	环部：施乳頭・赤彩 脚部：施乳頭	V区
329	甕	19.1	2.5	泥質	口縁：ハケ 脚部：施切手字文 施模文は2本一封の挽による	口縁：ハケ 圆部：ナデ	VII区 R56
330	甕	定	1.2	泥質	口縁：ナデ 腹部：波状区割・右回り等腰止め縦状文・波状文 (上・下)	口縁：ハケ・ナデ 脚部：ナデ	Ⅷ区

1・B系属第4類

331	甕	16.0	3.4	泥質	口縁：ハケ・ナデ 圆部：施切手字文 (施模文2) 腹部：施乳頭透	口縁：ハケ・ナデ 圆部：ナデ	VII区 R49	
332	甕	24.4	1.0	泥質	口縁：ハケ・ナデ	ハケ・継ぎ施乳頭・赤彩	Ⅷ区	
333	甕	17.4	1.0	泥質	口縁：ハケ・ナデ	ナデ		
334	甕	定	○	泥質	口縁：ナデ 波部：波状文・施模文・波状文・波状文・沈透区画	口縁：横乳頭透 横部：擬乳頭透	Ⅷ区	
335	甕	6.8	2.5	泥質	脚部：ハケ・擬乳頭透 脚下部：ハケ・施乳頭 底部：施乳頭	ハケ・ナデ	V区	
336	甕	10.4	2.0	泥質	施乳頭・赤彩 圆部：2側の堅絞丸	ハケ・ナデ	Ⅷ区	
337	口付甕	13.1	1.6	泥質	口縁端部：右回り→L字縫 瓶口：2側一封の堅絞丸 施乳頭・赤彩	口縁：施乳頭・赤彩 脚部：ハケ・施乳頭	Ⅷ区	
338	甕	定	○	泥質	施乳頭・赤彩 腹部：施切手字文 (2本) →右回り等腰止め縦状文・施模文・円形文 脚部：施乳頭・赤彩	口縁：横乳頭透・施乳頭・横ナデ	VII区 R74	
339	甕	21.2	1.5	泥質	口縁：施乳頭・赤彩 圆部：施切手字文 (2本)	口縁：施乳頭・赤彩 脚部：ハケ・施乳頭	I区	
340	甕	20.4	2.5	泥質	口縁端部：半球突起・瓦形透孔 口縁：施乳頭・赤彩 腹部：施乳頭 T字文 (1本)	口縁：施乳頭・赤彩 腹部：ハケ・ナデ	Ⅷ区	
341	甕	定	○	泥質	口縁：ハケ・施乳頭 横部：施模工字文 (2本)	口縁：施乳頭・赤彩 脚部：ハケ・ナデ	VII区	
342	甕	6.2	2.5	泥質	口縁：施乳頭透 横部：施模工字文 (2本) 脚部：施乳頭透	口縁：施乳頭・脚部：ハケ→ナデ 植下部：ハケ・ナデ	Ⅷ区	
343	甕	12.3	5.1	16.5	定	施乳頭・赤彩 腹部：施乳頭・ナデ	口縁：ナデ (面落不明) 脚部：ハケ・ナデ	Ⅷ区
344	甕	10.3	4.0	13.1	定	口縁：施乳頭・赤彩 脚上部：横乳頭透 施乳頭・赤彩 脚下部：施乳頭・赤彩 腹部：施割り	口縁：横乳頭透・施乳頭・施乳頭・ナデ	VII区 R38
345	甕	11.2	1.5	泥質	施乳頭・赤彩	施乳頭・赤彩	Ⅷ区	
346	甕	13.1	1.2	泥質	施乳頭・赤彩	施乳頭・赤彩	Ⅷ区	
347	甕	4.2	定	○	脚上部：施乳頭・赤彩 脚下部：ナデ ハケ・ナデ	ナデ	Ⅷ区	
348	甕	5.2	0.5	泥質	脚部：施模工字文 (2本) 脚部：施乳頭・赤彩 脚底：施乳頭・赤彩	ナデ・施乳頭	Ⅷ区	
349	甕	定	○	泥質	施乳頭・赤彩	口縁：施乳頭・赤彩 脚部：ハケ・施乳頭	Ⅷ区	
350	甕	4.6	1.0	泥質	施乳頭・赤彩 底部：真彌頭	施ナデ・ナデ	Ⅷ区	
351	甕	8.0	1.5	泥質	施乳頭	施ナデ・ナデ	VII区 R47	
352	甕	7.0	1.5	泥質	脚上部：施乳頭透・赤彩 脚部：ハケ・施乳頭透	施ナデ・ナデ	VII区 R64	
353	甕	9.8	1.5	泥質	ハケ・施乳頭透	ハケ	Ⅷ区	
354	甕	定	○	泥質	脚部：ハケ・施乳頭・赤彩 瓶部経路の底に施乳頭以前に施割り	施乳頭・ナデ	Ⅷ区	
355	甕	13.3	1.2	泥質	口縁端部：施模文・瓶部・脚部：施乳頭・赤彩	口縁：施乳頭・赤彩 脚部：施乳頭	Ⅷ区	
356	甕	6.2	1.2	泥質	脚部：施乳頭・赤彩 脚部：施乳頭・赤彩	施乳頭	Ⅷ区	
357	甕	9.7	5.2	17.4	2.5	口縁：ハケ・ナデ 脚部：ハケ・ナデ	口縁：ハケ・ナデ 脚部：ナデ	V区
358	甕	12.1	2.5	泥質	口縁：ハケ・赤彩 圆部：施乳頭・赤彩	口縁：施乳頭・赤彩 脚部：施乳頭・ナデ	VII区 R51	
359	甕	5.8	1.5	泥質	○ ハケ・施乳頭	ハケ	Ⅷ区	
360	甕	19.7	2.5	泥質	口縁端部：口縁：施乳頭・赤彩 瓶部経路の底に施乳頭以前に施割り 文様：施乳頭・赤彩・施模文・施乳頭透	施乳頭・ナデ	Ⅷ区	
361	甕	19.1	7.3	24.8	3.9	口縁端部：L字縫 文様：I A 前下部：施模工字文・施模透手文・施乳頭透 3 脚部：施乳頭	口縁：ナデ 脚上部：ハケ→施乳頭・脚下部：ナデ・施乳頭	VII区 R50
362	甕	32.4	11.4	35.3	2.5	口縁端部：施乳頭・ナデ 取り：口縁：施乳頭・赤彩・施模文・施模透手文・施乳頭透	口縁：ナデ 脚上部：ハケ→施乳頭・脚部：施乳頭	VII区 R81・82
363	甕	20.6	1.8	泥質	口縁端部：横・ア面取付・口縁：波状文 (施文単位毎に施乳頭軸異なる)	ハケ→施乳頭透	Ⅷ区	
364	台付甕	定	○	泥質	波状文 ハケ・施乳頭透	施乳頭	Ⅷ区	
365	甕	23.2	1.4	泥質	文様：ZB	横乳頭透	Ⅷ区	
366	甕	23.1	1.4	泥質	文様：ZB 脚部：右回り3連止め縦状文	口縁：施乳頭・脚部：施乳頭・施乳頭透	Ⅷ区	
367	甕	10.5	4.6	12.0	定	文様：I A 脚部：右回り3連止め縦状文 脚下部：ハケ・施乳頭透 底部 脚部：施乳頭・施乳頭透	口縁：施乳頭・脚部：施乳頭透	Ⅷ区
368	甕	14.9	5.4	17.6	2.5	文様：I E (波状文・施文軸取付不定) 脚部：右回り4連止め縦状文 制下部：ハケ・施乳頭透 脚下部：施乳頭透	口縁：横乳頭透 脚部：施乳頭・施乳頭透・脚部：制下部	VII区 R75
369	甕	14.2	8.8	17.5	2.5	文様：I A 脚部：右回り等腰止め縦状文 脚下部：ハケ・施乳頭透	口縁：施ナデ 脚上部：ハケ→ナデ 脚下部：施乳頭	V区
370	甕	17.0	1.0	泥質	口縁端部：右回り→波状文 文様：I A 脚部：右回り3連止め縦状文	口縁：横乳頭透 脚部：施乳頭透	Ⅷ区	
371	甕	14.9	1.0	泥質	文様：I A 脚部：右回り3連止め縦状文	横乳頭透	Ⅷ区	
372	甕	15.4	1.0	泥質	文様：I C 脚部：右回り3連止め縦状文	口縁：ハケ→横乳頭透 脚部：強いナデ→施乳頭 S	Ⅷ区	
373	甕	16.3	3.4	泥質	文様：I A 脚部：施乳頭直通文	施乳頭・脚部付近のみ施乳頭・施乳頭透	Ⅷ区	
374	甕	13.4	2.0	泥質	文様：I A 脚部：右回り3連止め縦状文	施乳頭・施乳頭透以前に施乳頭の可能性大	VII区 R42	

番号	種類	法長(cm)		横 度	縦 度	土	成形・調整・文様			備考
		口径	底径				外	内	面	
375	甕	13.6		1/2	文様：I.A 頭部：右回り3道止め巻状文 底下部：横既透き		口縁：横既透き 剥部：横既透き			I区
376	甕	13.2		2/3	文様：I.A 頭部：右回り2道止め巻状文 底下部：ハケ→既透き					II区
377	甕	14.0		2/3	文様：I.A (口縁部は施文仕様に施文順序異なる) 頭部：右回り等間隔止め巻状文 底下部：既透き		口縁：横既透き 剥部：右回りハケ→既透き			II区R46
378	台付甕	9.0		2/3	文様：I.B 頭部：右回り多道止め巻状文 底下部：ハケ→既透き 滴部：横既透き		剥部：ハケ→既透き 滴部：横既透き			VI区R51
379	甕	11.3		1/3	文様：I.A 頭部：右回り多道止め巻状文 底下部：ハケ→ナデ		口縁：ナデ 剥部：ハケ			II区
380	台付甕	8.4	6.7	20.7	文様：N/A 底下部：既透き 滴部：既透き		剥部：既透き 剥部：ナデ			IV区
381	甕	14.4	6.1	22.5	文様：I.B 頭部：既透き 滴部：既透き 滴部：既透り→既透き		口縁：既透き 剥部：既透り→既透き			II区R43
382	甕			1/3	文様：I.A (頭部：右回り4道止め巻状文)		既透き			IV区
383	甕	12.0	5.2	11.4	3/4	口縁部：横ナデ→既透き 口縫：既透ナデ 剥部：ハケ 既透：	口縁：既透ナデ 剥部：ハケ			IV区
384	甕	17.1		2/5	口縁部：既ナデ→既透き 口縫：既透ナデ 剥部：既透り→既ナデ		口縁：既透ナデ 剥部：既透り→既ナデ 剥部：既透り→既ナデ			IV区
385	甕	22.4		3/4	○ 口縁部：既ナデ→既透き 口縫：既ナデ 剥部：ハケ		口縁：既透ナデ 剥部：既透り→ナデ			VI区R51
386	甕	15.6		1/3	○ 口縁部：横ナデ 滴部：既透ナデ 剥部：ハケ		口縁：横ナデ 剥部：既透ナデ (剥落許容不明)			VIIK
387	甕	21.3		1/3	○ 口縫部：既ナデ→既透き 口縫：既ナデ		口縫：既ナデ 剥部：既透り			IV区
388	甕	16.0		1/3	○ 口縫部：横ナデ→既透き 口縫：既ナデ→横ナデ		口縫：既ナデ (剥落許容不明)			
389	台付甕	15.8		1/5	○ 口縫部と内面：既透り 口縫：既ナデ→ハケ工具剥 突部：既ハケ →既ナデ		口縫：既ナデ 剥部：既ハケ 制部：既透ナデ			I区
390	台付甕	13.5	8.6	15.2	完	口縁部：つまみ上げ状の横ナデ→既透り 口縫：ハケ→既ナデ 剥上部：既ナデ 剥部：既透き (剥離付近は部分的に既透り有り) 剥部：既透既透き	口縁：既透ナデ 剥部：既透既透き 既上部：既透既透き 剥部：既透既透き 滴部：ナデ			VI区R54
391	台付甕	12.0		完	既透既透き		剥部：既透ナデ 剥部：既ナデ			VIIK
392	台付甕	10.2		完	ナデ 滴部：既透既透りによる既透き		剥部：ナデ 剥部：ナデ			VIIK
393	台付甕	9.2		3/4	鈎：ハケ		剥部：ナデ 剥部：ハケ→ナデ			VIIK
394	台付甕	13.1		1/2	○ 口縫：ハケ→ナデ→既透き 体部：ハケ→既透き		口縫：既透ナデ 体部：ハケ→既透き			IV区
395	高杯	22.2	16.1	21.0	2/3	环部：既透き・赤彩 滴部：既透既透き・赤彩	环部：既透既透き・赤彩 滴部：既ナデ			VI区R51・56
396	高杯		18.6	2/5	鈎：ハケ 三角形透孔4		ハケ→ナデ			IV区
397	高杯	16.6	12.2	12.2	完	环部：既透ナデ・赤彩 滴部：既透ナデ・赤彩 内底：既透既透	环基：既透ナデ・赤彩 滴部：ナデ			VI区R48・51
398	杯	14.9	4.5	5.8	1/4	环部：既透ナデ・赤彩 滴部：既透ナデ・赤彩	既透ナデ・赤彩			III区
399	高杯	14.2		1/3	既透ナデ・赤彩		环基：既透ナデ・赤彩 滴部：ナデ			VI区R56
400	高杯	14.0		1/4	口縁部：山形突起 环部：既透ナデ・赤彩 滴部：既透ナデ・赤彩 三角形透孔4	环基：既透ナデ・赤彩 滴部：ナデ			IV区	
401	鉢	28.7		1/4	ハケ→既透き		ハケ→既透き			IV区
402	高杯	24.4		1/10	口縁部：既透き→既透既透→既透ナデ・赤彩 滴部：既透既透・赤彩	既透既透・赤彩			IIK	
403	高杯	11.2		1/4	既透ナデ・赤彩 三角形透孔		ハケ→ナデ			IIK
404	高杯		9.6	完	既透ナデ・赤彩 滴部：既透既透内凹		既透既透・既透ナデ			III区
405	高杯		18.4	1/3	既透ナデ・赤彩		ナデ 既透既透の既透既透			IV区
406	高杯		11.8	完	既透ナデ 内形透孔4 脊縁部内凹		しほりナデ			IIK
407	高杯		14.8	2/3	既透既透：既透ナデ→既透ナデ・赤彩		既ナデ→ナデ			VI区R48
408	台付	10.4		1/2	既透既透		既ナデ・ハケ→ナデ			VIIK
1・目録・地図・3層										
409	甕	8.4		3/4	既透：右回り等間隔止め巻状文2段 制部：ハケ→ナデ		既透既透：既透既透不明			VI区R53
410	甕			1/4	口縫：ハケ→ナデ 制部：右回り等間隔止め巻状文→既透既透→既透既透	ハケ→ナデ				III区
411	甕			1/4	二本一对の既透既透文：既透丁字文→既透既透→既透既透文→既透既透文	ナデ				
412	甕		8.7	2/3	ハケ→既透既透 既透既透既透：既透既透既透	既透既透	既ハケ			IV区
413	甕		8.6	1/3	既透既透：既透ナデ・赤彩 制部：既透既透既透 制部：既透既透	既透既透	既透既透不明			VI区R66
414	甕		4.5	完	既透既透：既透ナデ・赤彩 制部：既透既透既透 制部：既透既透	ナデ				VI区R80
415	甕		5.8	2/3	既透既透既透：既透既透	既透既透既透	既透既透ナデ			IV区
416	甕	12.2		3.4	1/4	既透既透：既透ナデ・赤彩	既透既透	既透既透		IV区
417	甕	12.2		2.2	1/2	既透既透：既透ナデ 2本一对の梨型丸	既透既透	既透既透		IV区
418	甕	15.8	7.2	25.1	1/2	口縫：ハケ→既透既透・赤彩 制部：ハケ→既透既透・赤彩 制部：既透既透 不明	口縫：ハケ→既透既透・赤彩 制部：既透既透	既透既透		IV区
419	甕		15.9	2/3	既透既透：赤彩	ハケ				IV区
420	甕	28.6		1/3	文様：I.A 頭部：右回り3→4道止め巻状文		口縫：ハケ→既透既透 制部：ハケ			IV区R37
421	甕	17.5		3/4	文様：I.A 頭部：右回り2道止め巻状文		口縫：既透既透既透 制部：既透既透既透			VI区R39
422	甕	12.6	5.4	14.0	1/2	文様：I.A 頭部：右回り等間隔止め巻状文 制部：ハケ→既透既透	口縫：ハケ→既透既透既透 制部：既透既透	VI区		
423	甕	14.1		1/6	口縫：既透ナデ 滴部：右回り等間隔止め巻状文 制部：既透既透	既透既透				
424	甕	14.2		完	口縫部：既透既透 滴部：既透既透既透	既透既透	既透既透			VI区R66
425	甕		15.6		文様：I.A 頭部：右回り2道止め巻状文		口縫：既透既透既透 制部：ハケ→ナデ			VI区R66
426	甕		15.6		ナデ		ナデ			
427	甕	7.5	4.6	9.8	3/4	口縫：横ナデ 制部：既透既透ナデ 既透既透	既透既透	既透既透		IV区
428	甕	22.5		1/3	口縫：ハケ→ナデ 制部：既ハケ		口縫：既ナデ 制部：既透既透			IV区

番号	器種	法線 (cm)		透視度	地土	成形・調整・文様		備考
		口径	底径			外面	内面	
429	甕	19.3		1/6		口縁：後側ナメ 調整部：底部→四ナメ	口縁：後ハケ 調整部：底部→ハケ 胸部：ハケ→ナメ	Ⅲ区
430	甕	18.1		1/2		口縁：ハケ→横ナメ 調整部：ハケ	口縁：後ナメ 調整部：不明	Ⅳ区
431	甕	16.2	4.8	28.1	1/2	口縁：後ナメ 調整部：ハケ 底部：ナメ	口縁：後ハケ 調整部：ハケ→豊削り→ナメ	Ⅰ区
432	甕	14.5	5.6	32.8	完	口縁：ハケ→横前き 腹部：ハケ→前前き 底部：ハケ→後前き	口縁：ハケ→豊前き 腹部：豊ナメ→豊前き	Ⅳ区 R72
433	高环	19.1		完		腹周部：取り外し 横前き 腹前き→赤彩 三角造孔5	环足：豊前き→赤彩 腹部：ハケ→ナメ	Ⅳ区
434	小甕	7.9		8.1	完	口縁→側上部：横ナメ 腹部：豊削り→ナメ	口縁：後ナメ 調整部：側ナメ	Ⅳ区 R22
435	小甕	8.6		7.7	3/4	口縁：ハケ→後前き 底部：豊削り→後前き	口縁：豊前き 調整部：側ナメ	Ⅲ区
436	小甕					豊前き	口縁：豊前き 調整部：ナメ	Ⅳ区
437	甕	8.7		10.0	4/5	尾元より 豊前き 壁部断面不明	口縁：豊前き 調整部：側ナメ	Ⅳ区
438	杯	12.7		1/6		口縁：後ナメ 底部：ナメ 底足：尾元より→ナメ	尾前き→黒色處理	Ⅰ区
439	二字	6.3	6.6	3.6	2/3	ナメ	ナメ	Ⅰ区

1・B号溝辺第2層

440	甕	31.8	10.4	43.9	4/5	口縁底部：白形状起 口縁：豊前き→赤彩 細部：胸筋丁字(本) や円形容文 調整部：豊前き→赤彩 腹下部：豊前き	口縁：豊前き→赤彩 腹部：豊前き 不明	Ⅱ区 R36
441	甕		7.2		3/4	ハケ→豊前き 壁部断面不明 腹部：ハケ	腹上部：指揮え→ハケ 腹下部：豊ナメ→ナメ	Ⅳ区 R70
442	甕	22.4	7.2	23.5	2/3	口縁：ハケ→豊前き 調整部：ハケ→豊前き	口縁：豊前き 調整部：ハケ→豊前き	Ⅳ区 R27
443	甕	30.0		14	○	ナメ→赤彩	ナメ→赤彩	Ⅲ区
444	甕			3/4	道部：有り 4準矩の横文 調整部：ハケ→豊前き	ナメ→赤彩	Ⅳ区	
445	甕	12.0	9.0	22.7	2/3	口縁：尾元→豊前き 腹部：ハケ→豊前き 腹部：豊前き	口縁：豊前き→赤彩 腹部：豊前き→豊前き	Ⅰ区
446	甕		4.2		3/4	腹周部：豊前き 腹下部：ハケ→豊前き 腹部：豊前き	腹周部：豊前き→豊前き 腹部：ナメ	Ⅳ区
447	小甕	6.2		7.7	完	口縁：後ハケ→横ナメ 調整部：ハケ→ナメ	口縁：後ナメ 調整部：豊前き→ナメ	Ⅰ区 R33
448	小甕	7.2		8.1	完	口縁：ハケ→豊前き 腹上部：ハケ→ナメ 腹部：豊前き	口縁：豊ナメ→ナメ 調整部：ナメ	Ⅳ区 R76
449	小甕	7.8		8.6	完	口縁：豊ナメ 腹下部：ナメ 底部：豊前き→ナメ	口縁：ナメ 調整部：豊ナメ→ナメ	Ⅳ区 R32
450	甕	24.7	7.2	30.7	4/5	口縁底部：面取り 文様：B/B 腹下部：豊前き 腹部：豊前き	口縁：豊前き 腹上部：豊前き→豊前き 腹下部：豊前き	Ⅰ区 R30
451	台付甕	18.4		1/2		○ 口縁：豊ナメ→ハバ病斑 腹部：ハケ	口縁：豊ナメ 腹部：ハケ	Ⅱ区
452	台付甕		9.5	1/2		腹周部：豊前き 腹部：ナメ	腹周部：豊前き 腹部：豊前き	Ⅱ区
453	甕	17.5		1/2		口縁：ハケ→豊前き 腹部：ハケ	口縁：豊前き 腹部：豊前き	Ⅳ区 R31
454	甕	21.1	7.0	21.2	2/3	口縁：豊ナメ 腹部：ナメ	口縁：豊ナメ 腹部：ナメ	Ⅳ区 R28
455	甕		15.2		1/2	口縁：豊ナメ 腹部：ナメ	口縁：豊ナメ 腹部：豊前き	Ⅱ区
456	甕	16.6	7.2	24.9	1/2	豊前き	豊前き 不明	Ⅴ区
457	瓶		9.4		2/3	ハケ→豊前き	ハケ→ナメ	Ⅱ区 R31
458	甕	19.0	3.0	11.6	3/4	口縁：ハケ→横ナメ 調整部：豊前き→ナメ	口縁：ハケ 底部：豊ナメ→ナメ	Ⅳ区 R70
459	高环		17.2		2/3	豊前き 不明	豊前き 不明	Ⅳ区 R21
460	高环	15.0		1/2		豊前き→赤彩	豊前き→赤彩	Ⅳ区
461	高环	15.3		1/2		豊前き	豊前き	Ⅳ区
462	高环	14.4		1/2		豊前き	豊前き	Ⅳ区 R31
463	高环	36.4	22.1	31.0	2/3	環底部：豊前き 腹部：豊前き	環底部：豊前き 腹部：しほり→ナメ	Ⅳ区
464	高环	33.6	11.1	8.7	4/5	环底部：豊前き 腹部：ハケ→豊前き	环底部：豊前き→黑色處理 腹部：ナメ	Ⅳ区 R31
465	甕	14.8		6.1	完	口縁：豊前き 腹部：豊前き	豊前き	Ⅱ区 R31
466	甕	13.2		6.3	2/3	口縁：豊前き 腹部：豊前き→豊前き	口縁：豊前き 腹部：豊ナメ→豊前き	Ⅳ区
467	甕	14.7		6.8	完	口縁：豊前き 腹部：豊前き→豊前き	豊前き	Ⅱ区
468	甕	14.4		5.1	4/5	豊前き→豊前き	豊前き	Ⅳ区
469	甕	14.2		4.8	1/2	豊前き→豊前き	豊前き→黑色處理	Ⅳ区
470	甕	11.8		1/4		豊前き	豊前き→黑色處理	Ⅳ区
471	盆	22.7		1/2		豊前き	豊前き→黑色處理	Ⅳ区

1・B号溝辺

472	甕	4.6		1/2		口縁底部：LR横文 口縁：2花を有する耳状の縱突起4 調整部：豊ナメ	豊ナメ	Ⅳ区 4等
473	甕	7.0		完		口縁底部：LR横文 口縁：ナメ→豊前き 腹部：沈溝区画→月形文	口縁：ナメ→豊前き 腹部：ナメ	Ⅳ区 4等
474	甕	16.0		1/2		口縁底部：豊前きによる斜文 口縁：豊前き羽状文	ハケ→豊前き	Ⅳ区
475	甕	24.0		1/2		口縁底部：面取り→L字横文 口縁：豊前き羽状文による斜文	ハケ→豊前き	Ⅳ区

1号溝出土陶器群

476	はそう	11	16	41.8	定	口縁一部：豊前き 腹部：タキ→ナメ→豊前き キヤウ 文様：豊前き 織紋文 文様：赤泥模様に斜利肉文	口縁→胸上半：豊前き 腹部：突き出し	Ⅲ区 2等
477	はそう					口縁→底部：豊前き 腹下半：タキ→ナメ→豊前き キヤウ 文様：豊前き 織紋文 文様：赤泥模様(荒筋り)	口縁→胸上半：豊前き 腹部：突き出し	2等
478	はそう			1/2		腹部：豊前き 腹下半：タキ→ナメ→豊前き 織紋文 文様：二条式横縫に波状文	口縁→胸上半：豊前き 腹部：突き出し	Ⅲ区 3等
479	蓋・蓋身	12.8	4.2	1/2		口縁：豊前き 天井：豊前き→タキ→ナメ→豊前き(半斜利肉文)	豊前き/アメ 天井：タキ→ナメ	Ⅲ区 2等
480	蓋・蓋身	12.8	4.2	完		口縁：豊前き 天井：豊前き→タキ→ナメ→豊前き(半斜利肉文)	豊前き/アメ 天井：タキ→ナメ	Ⅲ区 2等
481	蓋・蓋身	12	5.2	完		口縁：豊前き 天井：豊前き→タキ→ナメ→豊前き(半斜利肉文)	豊前き/アメ 天井：タキ→ナメ	Ⅲ区 2等
482	蓋・蓋身	(13.	(4.9	1/2	2)	口縁：豊前き 天井：豊前き→タキ→ナメ→豊前き(半斜利肉文) 号「×」か	豊前き/アメ 天井：豊前き→タキ→ナメ→豊前き(半斜利肉文) 号「×」か	Ⅲ区 2等
483	蓋・蓋身			1/2		口縁：豊前き 天井：豊前き→タキ→ナメ→豊前き(半斜利肉文)	豊前き/アメ 天井：豊前き→タキ→ナメ→豊前き(半斜利肉文)	Ⅲ区 3等

番 号	器 種	法量 (cm)		通 度	筋 土	成形・調 整・文 様			備 考
		外 径	高 度			器底	外 面	内 面	
1号溝址レンチ出土									
484	壺	8.5	23			口縁：彫磨き・赤彩 頂部：右回り等四脚止め彫状文2→波状文1→ハケ(胴上部と下部のハケ基体は異なる)			2号
485	壺	29.4	12			口縁：灰土帶剥離の複合口縁・横ナギ 頂上部：ナダ 胴下部：横瓦書き	口縁：横ナギ 制部：横瓦書き		2号
486	壺	21.3	16			口縁：彫磨き；面取り→波状文 文様：IA 頂部：2→3連止め彫状文	ハケ→彫磨き		1号
487	壺	20.0	15			口縁：ハケ→横模ナギ 制部：縦→斜ハケ	口縁：横ナギ 制部：ハケ→ナギ		2号
488	壺	22.5	16			口縁部：つまみ上げ状の横ナギ・波取り 文様：IA	ハケ→彫磨き		2号
489	高杯	20.1	11.9	13.9	45	杯縁：彫磨き・赤彩 壁部：彫磨き・赤彩 口沿附近：波状文	杯縁：白彩・赤彩 脱部：ハケ→ナギ		2号
490	壺	11.1	10			口縁：横推進・横模ナギ 壁部：彫磨き 制部：波取り	口縁：斜推進・制部：波取り		2号
491	灰瓶	16.6	8.0	5.3	14				
1-C号溝址									
492	台付壺	10.0	6.2	10.1	34	口縁部：L字彫文 口縁：L字彫文→横波状文 制部：L字彫文→この字重ね文→円形浮文	制部：ハケ→彫磨き 脱部：ナギ		Ⅴ区
493	平	9.4	3.0	3.9	25	口縁：2本一対の脚彫れ 彫磨き・赤彩	彫磨き・赤彩		Ⅴ区
494	壺	13.2	15	定		口縁：横ナギ・脚部：階級彫合彫文 文様：摩訶不眞	彫磨き		Ⅴ区
495	壺	21.6	18			口縁：ハケ→ナギ 制部：横模斜格子文	ナギ		Ⅴ区
496	壺	15.2	10			口縁：ハケ→横ナギ 制部：右回り等四脚止め彫状文・波状文 ハケ→ナギ	口縁：ハケ→ナギ 制部：ナギ		Ⅴ区
497	壺	18.4	7.0	20.9	20	口縁：横模ナギ 制部：右回り等四脚止め彫状文→波状文 制部：横磨き	口縁：軸上部：横丸彫り 軸下部：彫磨き		Ⅴ区
498	壺	8.8	26			口縁：横丸 制部：2本一対の浅鉢直絵文→波状文 制部：彫磨者 彫磨下部：ハケ→横磨き 流底：彫削り	口縁：横磨き 制部：ハケ→ナギ		Ⅴ区
499	壺	9.8	20			横磨き	ハケ→ナギ		Ⅴ区
500	台付壺	12.1	15	定		摩訶不眞	摩訶不眞		Ⅴ区
501	壺	16.1	15			口縁：横ナギ→波状文 脱部：右底より等脚止め彫状文 制部：横模斜格子文	後ナギ		Ⅴ区
502	壺	14.2	15			ナギ	ナギ		Ⅴ区
503	壺	9.2	23			口縁：横模ナギ 制部：横ハケ 波浪垣邊：横彫削り 筋部：腰削り	口縁：横ナギ 制部：腰削り		Ⅴ区
504	高杯	11.4	25			泡彫き・赤彩 三角彎透孔4	ハケ→ナギ		Ⅴ区
505	壺	16.1	15			文様：IA 面部：右回り等脚止め彫状文	彫磨き		Ⅴ区
506	壺	17.0	17.0	17.0	15	○ 口縁：横模ナギ 彫磨：ハケ	口縁：横ナギ		Ⅴ区
507	壺	16.5	15	15	○	口縁：横模ナギ 制部：ハケ	口縁：横ナギ 脱上部：ナギ		Ⅴ区
508	壺	19.8	16			口縁部：横ナギ・凹取り 口縁：ナギ	口縁：横ナギ 制部：腰削り		Ⅴ区
509	壺	4.2	14	14	14	印字彫磨	ハタ		Ⅴ区
510	平	15.7	5.2	7.2	15	部：彫磨き 底部：削削り	横危険		Ⅴ区
511	高杯	26.3	12			口縁部：山形突起 彫磨き・赤彩	危険		Ⅴ区
512	台付	23.6	17.0			危険	危険		Ⅴ区
1号溝址レンチ									
513	壺	11.0	15	34		口縁部：山形突起 口縁：ハケ→ナギ 脱部：彫文地文・墨繪文 口縁：ハケ→ナギ 制部：ナギ	口縁：ハケ→ナギ 制部：ナギ		
514	壺	14	15			彫部：波紋区画彫文2→横模斜格子文→横文地文・波状文 彫部：墨繪文	ナギ		
515	壺	15				口縁：ハケ→ナギ 制部：波紋区画→半月彫削突刺→墨繪文	ナギ		
516	壺	21.6	15			口縁部：LR字彫 文：E字彫 文：彫磨山形 ハケ→彫磨き 脱部：彫磨山形	口縁：横ナギ 制部：ハケ→ナギ		
517	壺	16.0	15			口縁部：彫磨2→E字彫 文：口縁部：危険→赤彩	口縁：危険→赤彩 脱部：ナギ		
518	壺	16.0	15	定		口縁部：E字彫 文：波紋区画→半月彫削突刺2→波 番文	ナギ		
519	壺		15			口縁：ナギ 脱部：L字彫文地文2→横波直絵文→彫磨山形文→円形浮文	ナギ		
520	壺	18.9	14			口縁部：L字彫文 口縁：ハケ→横ナギ 脱部：横模波状文	横危険		
521	壺	10.6	15	15	15	○ 口縁：横ナギ 脱部：横模波状文	横危険		
522	台付壺	18.2	11.0	23.2	34	口縁部：E字彫 文：横模ナギ 脱部：右底より等脚止め彫状文 彫部：横模波状文2（上→下）制部：ハケ→彫磨き 脱部：彫磨者	口縁：ハケ→横模ナギ 制部：ハケ 脱部：ナギ		
523	平	18.0	6.0	6.4	10	口縁部：横突起文 体部：彫磨き・赤彩 底部：ナギ	ハケ→彫磨書き・赤彩		
土臺下縦剖合図 (B面)									
524	壺	19.8	15			口縁：彫磨書き 制部：横模波状文4（上→下）→横模波状文 彫部：ハケ→斜削彫	口縁：横磨書き 制部：ハケ→ナギ 制部：ハケ→ナギ		
525	壺	14.9	15			口縁：彫磨書き 制部：波紋区画→横文地文→波状文2 制部：彫磨書き	口縁：横ハケ→ナギ 制部：ナギ		
526	壺	18.6	15			口縁：ハケ→横ナギ 脱部：彫磨斜格子文 彫部：ハケ→彫磨書き	口縁：ハケ→ナギ 制部：ナギ		
527	壺	15.2	7.7	30.6	25	口縁部：山形突起 5 口縁：横模書き 脱部：右回り等脚止め彫状文→横模波状文 制部：ハケ→横磨き	口縁：危険→赤彩 脱部：危ナギ→ナギ 脱下部：ハタ		
528	壺	15.1	25			口縁：ハケ→ナギ 脱部：右回り等脚止め彫状文→波状文 制部：ハケ→ナギ	口縁：ハケ→ナギ 制部：ハケ→ナギ		
529	壺	14.8	25			口縁：ハケ→ナギ 脱部：ハケ	口縁：ハケ→横模ナギ 脱部：ナギ		
530	壺	13.5	14			口縁：横ナギ 制部：横模斜格子文	口縁：横模ナギ 制部：ハケ		
531	壺	18.5	25			口縁：ハケ→ナギ 脱部：彫磨書き 彫部：ハケ→等脚止め彫状文	口縁：ハケ 脱部：ナギ		
532	壺	21.7	14			口縁：横模波状文1 ハケ→ナギ	ハタ→ナギ		
533	壺	7.4	15			口縁：横模書き 制部：彫磨書き	口縁：横磨書き 制部：斜削彫		
534	壺		12			彫部：ハケ→2本一対の横模直絵文 彫部：ハケ→彫磨書き	制部：ハケ→ナギ 制部：ハケ→ナギ		
535	壺		12			彫部：2本一対の横模直絵文 彫部：ハケ 脱部：ハケ 制部：ハケ→ナギ	制部：ハケ→ナギ 様体は異なる		

番号	部種	法量(cm)	通称	断土	表面・調査・文様		備考	
					外観	内面		
536	亞			3/4	口縁：ハケ→泡彫き 調部：右回り等間隔止め繩状文→波状文→露 筋縫合文	口縁：泡彫き・赤彩 調部：ナデ		
537	寄			1/3	口縁：泡彫き 調部：右回り等間隔止め繩状文→波状文	調部：泡彫止め 別部：ナデ		
538	亞	9.4		1/2	口縁：ハケ→ナデ 索部：露接縫合文→2本一封の露接縫合文→露 筋縫合文→露接縫合文 調上部：ナケ 剥下部：ハケ→ナデ 露部：露 筋引	口縁：ハケ→ナデ→赤彩 露部：露筋止め 别部：ナハ		
539	寄			1/2	剥上部：ハケ→ナデ 剥下部：ハケ→ナデ	ナデ		
540	亞	8.4		4/5	剥上部：ハケ→ナデ 露部：露筋引	剥部：ハケ→ナデ		
541	寄			1/2	口縁：ハケ→ナデ 索部：右回り等間隔止め繩状文→露接縫合文	ナデ→桂・泡彫き		
542	寄			1/3	口縁：ハケ 露部：露筋止め→露接縫合文→露接縫合文	口縁：泡彫き・赤彩 調部：ハケ→ナデ		
543	寄			1/3	口縁：露筋止め 露部：泡彫き 露接縫合文	ハハ→ナデ		
544	寄	5.2		3/4	剥上部：露接縫合文 剥下部：泡彫き 露部：露筋引→ナデ 露部：露 筋引	剥上部：ハケ→露筋引 剥下部：露ナデ→ナデ		
545	寄	26.0		1/3	L繩薄部：山形突起 口縁：泡彫き・赤彩 調部：露接縫合文	口縁：泡彫き・赤彩 調部：露筋引→ナデ		
546	寄	13.6		1/10	○ ナデ	ナデ		
547	寄	10.9		1/3	露筋き・赤彩	露筋き・赤彩		
548	亞			9.0	口縁：露筋止め→2本一封の露筋孔 体部：泡彫き・赤彩 露部：露筋引→ナデ 下部：露筋引	口縁：泡彫き赤彩 别部：露筋引○露ナデ		
549	寄	8.0		4/5	ハケ→露筋き・赤彩	ナデ		
550	寄	7.2		1/3	ハケ→露筋引	ハケ		
551	寄	11.0	3.7	4/5	露筋引・赤彩 体部：露接縫合文	口縁：泡彫き・赤彩 别部：ハケ→ナデ		
552	無縫合	11.5	5.0	13.3	2/3	口縁部：2個一封の露筋孔 体部：泡彫き・赤彩 露部：露筋引→露筋引	露筋引・赤彩	
553	無縫合	11.8		1/8	口縁部：2個一封の露筋孔 体部：ハケ→露筋き・赤彩	口縁：被ナデ 别部：ハケ		
554	亞			6.6	露筋引・赤彩	ハハ→ナデ		
555	寄	14.5	6.5	15.7	4/5	口縁：露筋引→2本一封の露筋孔 体部：露筋引→露筋引→露筋引 4(上→下) 露部：泡彫き	口縁：露筋ナデ 调部：ハケ→部分的に程い露筋 引	
556	寄	10.5	5.6	13.5	2/5	文様：I A 露部：右回り4通り露止め繩状文 剥下部：露筋引き	露筋引き	
557	寄	25.5		1/10	文様：I A 露部：露接縫合文	口縁：露筋引き		
558	寄	18.9		3/4	文様：I A 露部：右回り等間隔止め繩状文 露部：露筋引	口縁：露筋引き 调部：ハケ→ナデ		
559	寄	8.2	4.4	7.9	3/4	口縁部：露筋引 体部：右回り等間隔止め繩状文 剥部：露筋引→露筋引 露部：露筋引→露筋引	口縁：被ナデ 调部：ハケ→露筋引	
560	寄	18.1		1/3	L繩薄部：ハケ→状上部先端による剖引 I型：強横ナデ 露部：右回 り等間隔止め繩状文 露部：露状文(上→下)	露筋引き		
561	寄	21.8		1/2	口縁部：被・露筋引→露筋引による複合文 露部：右回り等間隔止め繩状文	露筋引き		
562	寄	13.0		1/4	口縁：強横ナデ 露部：右回り等間隔止め繩状文 剥部：露筋引→露筋引 下部：ハケ	露筋引き		
563	寄	22.5		1/10	口縁：強横ナデ 波状文(上→下)	露筋引き		
564	寄	11.5		2/3	文様：I A 露部：右回り等間隔止め繩状文 剥部：露筋引	ハケ→露筋引き		
565	寄			7.6	文様：I A 露部：右回り等間隔止め繩状文 剥部：露筋引→露筋引 下部：ハケ	口縁：ハケ→ナデ 别部：ハケ→ナデ		
566	寄	16.6		1/8	文様：I A 露部：右回り等間隔止め繩状文	露筋引き		
567	寄	18.2		1/6	文様：被・露	露筋引き		
568	寄	25.1		1/10	口縁部：露筋引(上→下)	露筋引き		
569	寄	21.0	7.8	27.7	1/6	文様：I B 露部：右回り等間隔止め繩状文 剥下部：被泡彫き	露筋引き	
570	寄	16.6		1/6	文様：I B 露部：右回り等間隔止め繩状文	露筋引き		
571	合付寄	14.2		4/5	口縁：強横ナデ 露部：右回り等間隔止め繩状文 剥部：波状文3 (上→下) 剥下部：被引	露筋引き		
572	合付寄	11.6		2/3	口縁薄部：L繩文 素縁：泡彫き 露部：右回り等間隔止め繩状 文 剥部：露状文 剥引：泡彫き	露筋引き		
573	合付寄	10.5		完	口縁薄部：被泡彫き 露部：右回り等間隔止め繩状文→波状文 剥下部 露部：ナデ→露ナデ	露筋引き		
574	合付寄	11.1		1/2	文様：I A 剥下部：被泡彫き	露筋引き		
575	高环	10.6		2/3	被泡彫き・赤彩	被泡彫き・赤彩 调部：被泡引→ナデ		
576	合付寄	18.6		1/2	口縁薄部：泡取り 口縁：被波状文 露部：右回り等間隔止め繩状 文 剥部：露状文 剥引：泡彫き	ハケ→露筋引き		
577	合付寄	15.0	11.1	16.9	1/4	口縁薄部：泡取り 口縁→別部：摩耗評価不明	口縁：摩耗評価不明 露部：露泡引？ 露部：被泡引	
578	跡	11.6		1/3	口縁：被ナデ 露部：露状文 体部：泡彫き？	口縁：被強ナデ 体部：ナデ		
579	环	15.0	5.3	6.8	完	泡泡引・赤彩	泡泡引・赤彩	
580	寄	22.0		1/10	口縁薄部：泡取り 口縁：被ナデ	摩耗評価不明		
581	寄	18.3		1/10	口縁薄部：泡取り 口縁：被ナデ	ハハ→ナデ		
582	环	11.8	4.5	5.8	4/5	泡泡引・赤彩	泡泡引・赤彩	
583	高环	20.3	11.1	15.2	完	L繩薄部：被状工具による研磨 低环から輕部：泡泡引・赤彩	低环：泡泡引・赤彩 調部：ナデ	
584	高环	20.8		2/3	口縁：被摩耗狀文：环部：泡泡引・赤彩	泡泡引・赤彩		
585	高环？	9.5		3/4	ハハ→露筋引き 摩耗評価不明	环部：被泡引・赤彩 调部：被泡引→ナデ		
586	高环	13.2		2/3	露筋引き・赤彩	环部：泡泡引・赤彩 调部：ナデ		
587	高环	21.6		2/3	泡泡引・赤彩 三角彫造孔	ハハ→ナデ		
588	高环	11.3		完	泡泡引・赤彩	ハハ→ナデ		

石器觀察表

石核觀察表

編號	器物長寬高			形 狀 類 別 特 徵	重 量 (g)	打 擊 點 數 量	打 擊 次 數		打 擊 點 數 量	重 量 (g)	打 擊 次 數	打 擊 點 數 量	重 量 (g)	打 擊 次 數												
	長 (mm)	寬 (mm)	厚 (mm)				直 徑 (mm)	厚 度 (mm)																		
1	2.6	5.5	1.2	0.53	1	0.66	-	0	2	0.6	2	0.66	0	0.32	1	0.45	3.27	9	1	6.6	2.41	1	0.5	0.86	SD1 771.506	

刮削 A 類觀察表

編號	器物長寬高				形 狀 類 別 特 徵	重 量 (g)	打 擊 點 數 量																					
	長 (mm)	寬 (mm)	厚 (mm)	直 徑 (mm)																								
2	3.4	3.5	1.3	0.53	1	0.41	0	0	3	0.6	2	0.56	0	0.22	1	0.25	2.64	9	1	6.1	2.4	1	0.5	0.86	SD1 771.507			
3	6.6	4.5	2.2	0.67	3	—	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1.4	27	2.64	4	—	0.5	2.4	1	0.5	0.86	SD1 771.508	

剥片觀察表

編號	器物長寬高			形 狀 類 別 特 徵	重 量 (g)	石 材	表面	山上地名	備 考
	長 (mm)	寬 (mm)	厚 (mm)						
4	5.3	5.2	1.5	0.73	—	磨制	磨制	SD1 771.509	
5	5.7	6.8	1.7	0.77	—	磨制	磨制	SD1 771.510	

打製石核觀察表

編號	器物長寬高			形 狀 類 別 特 徵	重 量 (g)	石 材	表面	山上地名	備 考
	長 (mm)	寬 (mm)	厚 (mm)						
4	1.9	1.9	0.53	—	—	—	—	—	—

磨製石核觀察表

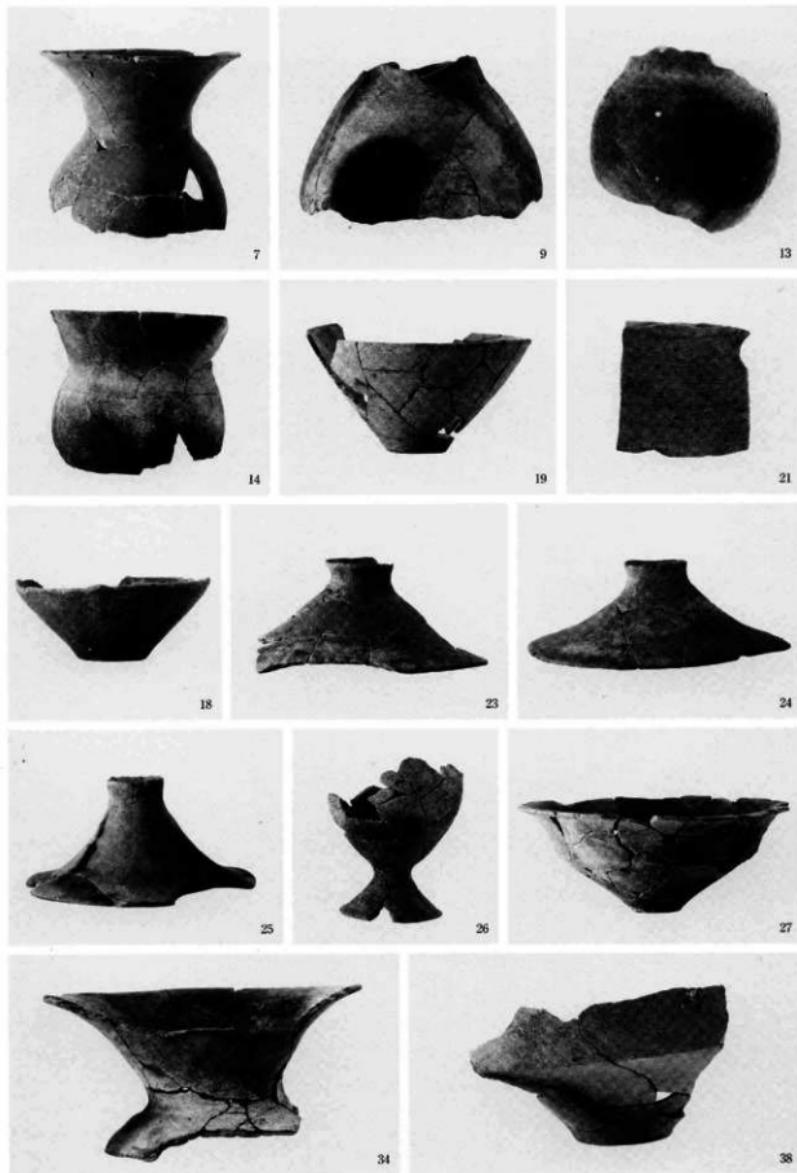
編號	器物長寬高			形 狀 類 別 特 徵	重 量 (g)	石 材	表面	山上地名	備 考
	長 (mm)	寬 (mm)	厚 (mm)						
7	1.3	1.8	0.4	0.59	—	—	—	—	—

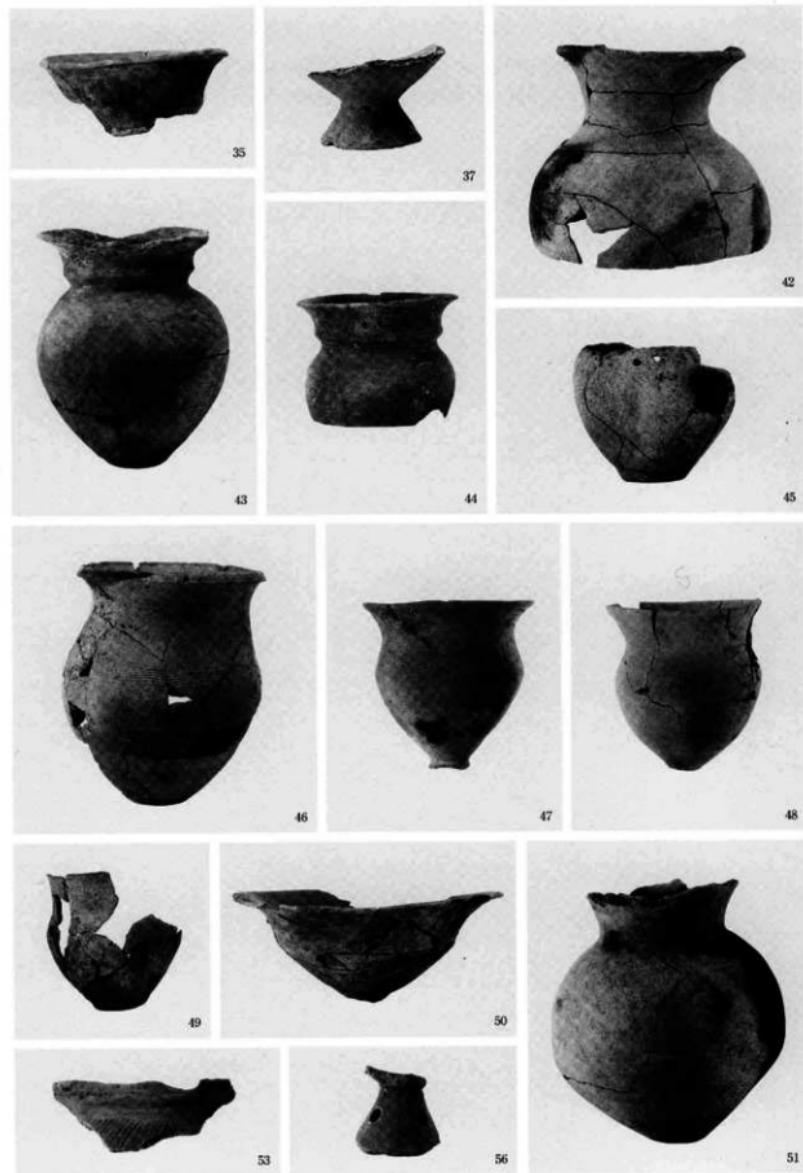
磨石觀察表

編號	器物長寬高			形 狀 類 別 特 徵	重 量 (g)	石 材	表面	山上地名	備 考
	長 (mm)	寬 (mm)	厚 (mm)						
8	0.8	0.7	1.5	0.43	—	—	—	—	—
9	0.6	1.2	1.2	0.43	—	—	—	—	—
10	0.7	0.7	1.5	0.43	—	—	—	—	—
11	0.5	1.4	1.2	0.43	—	—	—	—	—
12	0.5	1.4	1.5	0.43	—	—	—	—	—
13	0.5	1.4	1.5	0.43	—	—	—	—	—
14	0.6	0.9	2.5	0.53	—	—	—	—	—
15	0.5	0.8	4.5	0.53	—	—	—	—	—
16	0.5	0.8	4.5	0.53	—	—	—	—	—
17	0.6	1.1	4.5	0.53	—	—	—	—	—
18	0.5	0.8	4.5	0.53	—	—	—	—	—
19	0.5	0.8	4.5	0.53	—	—	—	—	—
20	0.5	0.8	4.5	0.53	—	—	—	—	—
21	0.5	0.8	4.5	0.53	—	—	—	—	—
22	0.5	0.8	4.5	0.53	—	—	—	—	—

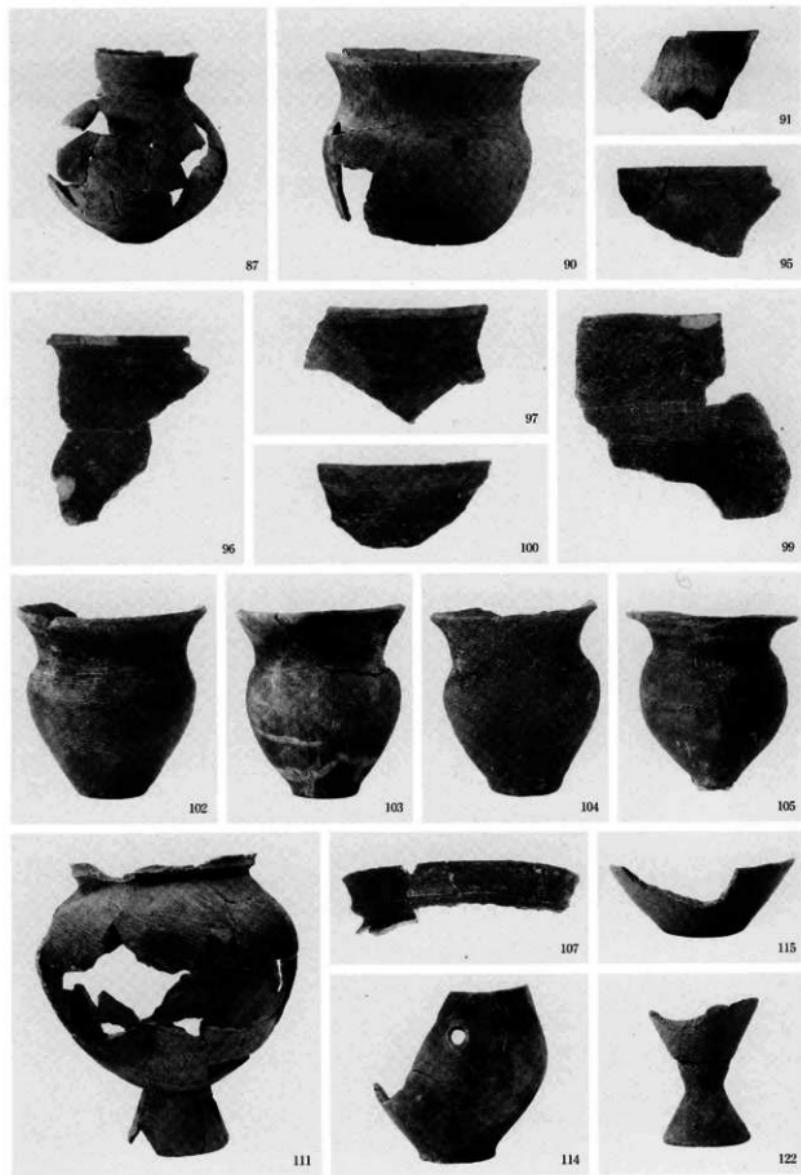
敲石觀察表

編號	器物長寬高			形 狀 類 別 特 徵	重 量 (g)	石 材	表面	山上地名	備 考
	長 (mm)	寬 (mm)	厚 (mm)						
11	0.8	0.5	1.9	0.53	—	—	—	—	—
12	0.8	0.5	1.4	0.53	—	—	—	—	—
13	0.8	0.5	1.4	0.53	—	—	—	—	—
14	0.8	0.5	1.4	0.53	—	—	—	—	—
15	0.8	0.5	1.4	0.53	—	—	—	—	—
16	0.8	0.5	1.4	0.53	—	—	—	—	—
17	0.8	0.5	1.4	0.53	—	—	—	—	—
18	0.8	0.5	1.4	0.53	—	—	—	—	—
19	0.8	0.5	1.4	0.53	—	—	—	—	—
20	0.8	0.5	1.4	0.53	—	—	—	—	—
21	0.8	0.5	1.4	0.53	—	—	—	—	—
22	0.8	0.5	1.4	0.53	—	—	—	—	—
23	0.8	0.5	1.4	0.53	—	—	—	—	—
24	0.8	0.5	1.4	0.53	—	—	—	—	—
25	0.8	0.5	1.4	0.53	—	—	—	—	—
26	0.8	0.5	1.4	0.53	—	—	—	—	—
27	0.8	0.5	1.4	0.53	—	—	—	—	—
28	0.8	0.5	1.4	0.53	—	—	—	—	—
29	0.8	0.5	1.4	0.53	—	—	—	—	—
30	0.8	0.5	1.4	0.53	—	—	—	—	—
31	0.8	0.5	1.4	0.53	—	—	—	—	—
32	0.8	0.5	1.4	0.53	—	—	—	—	—
33	0.8	0.5	1.4	0.53	—	—	—	—	—
34	0.8	0.5	1.4	0.53	—	—	—	—	—
35	0.8	0.5	1.4	0.53	—	—	—	—	—
36	0.8	0.5	1.4	0.53	—	—	—	—	—
37	0.8	0.5	1.4	0.53	—	—	—	—	—
38	0.8	0.5	1.4	0.53	—	—	—	—	—
39	0.8	0.5	1.4	0.53	—	—	—	—	—



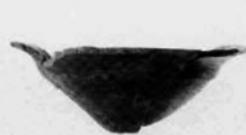








117



120



123



126



127



128



129



131



132



133



135



137



136



138



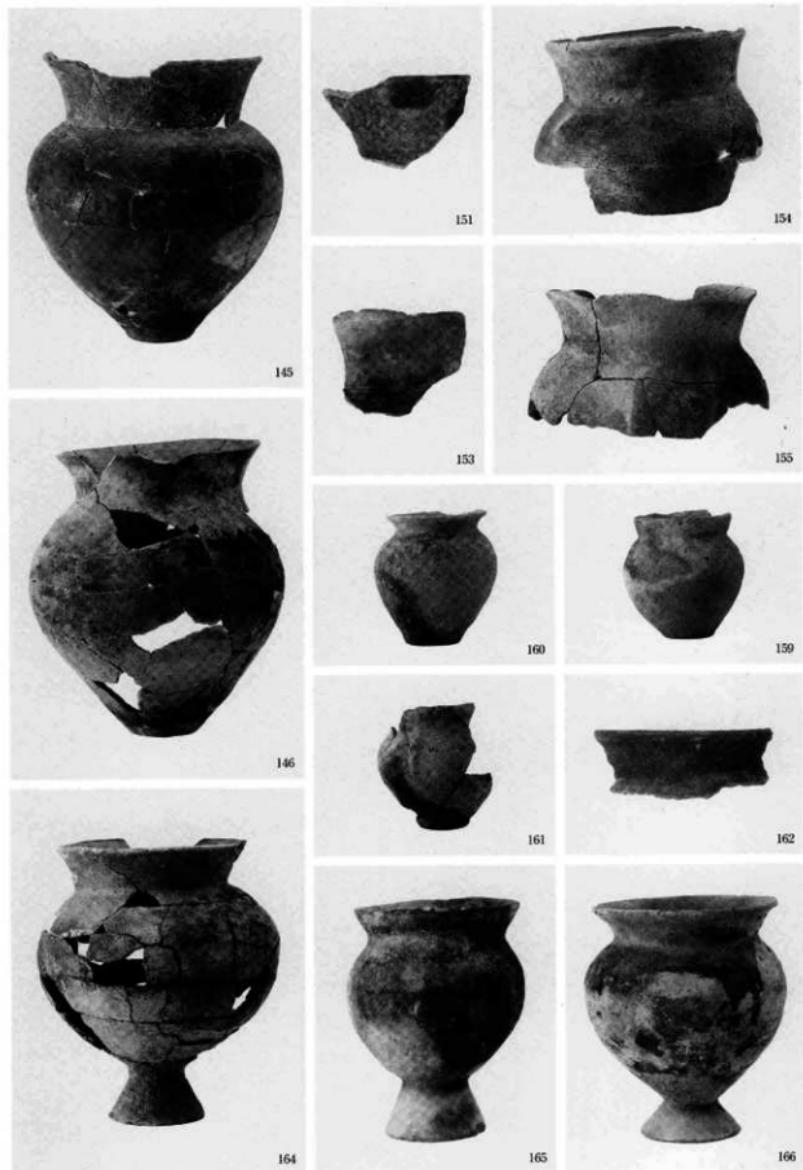
148

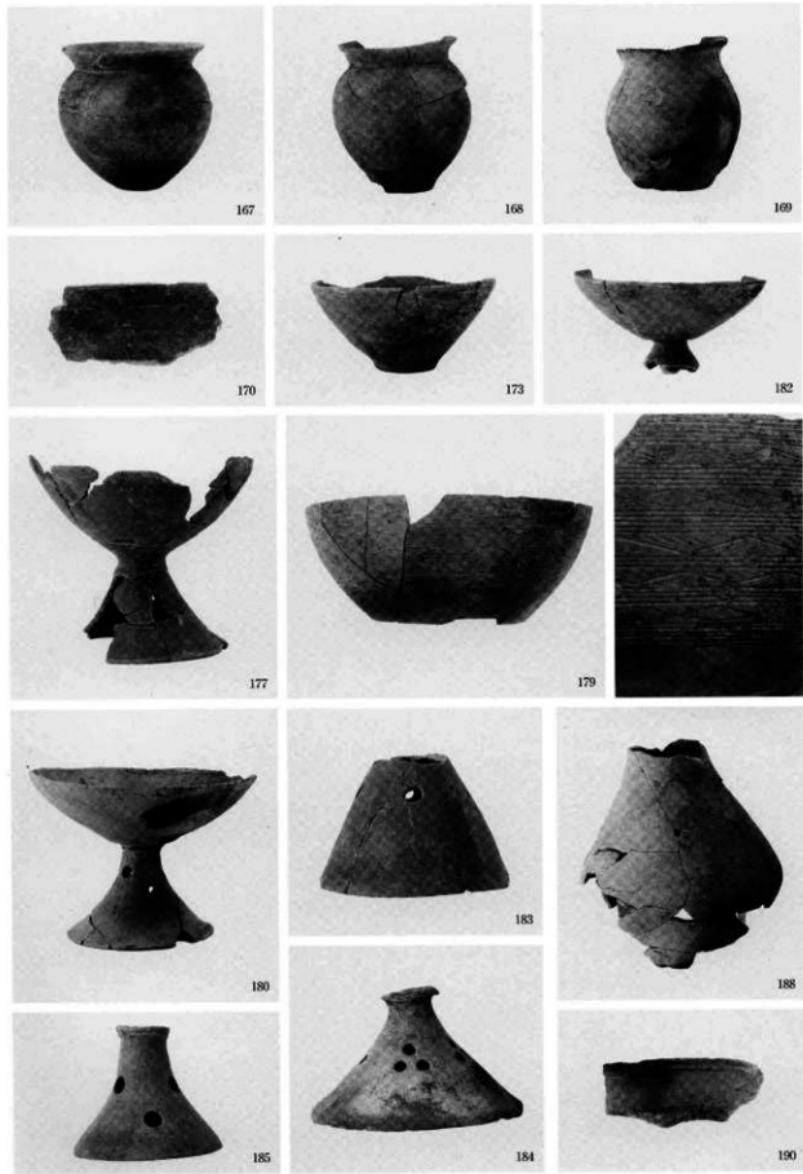


149



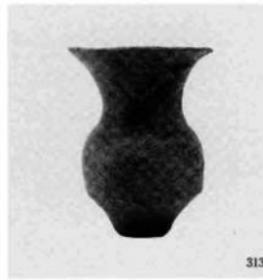
134













321



322



323



324



325



326



327



328



329



330



331



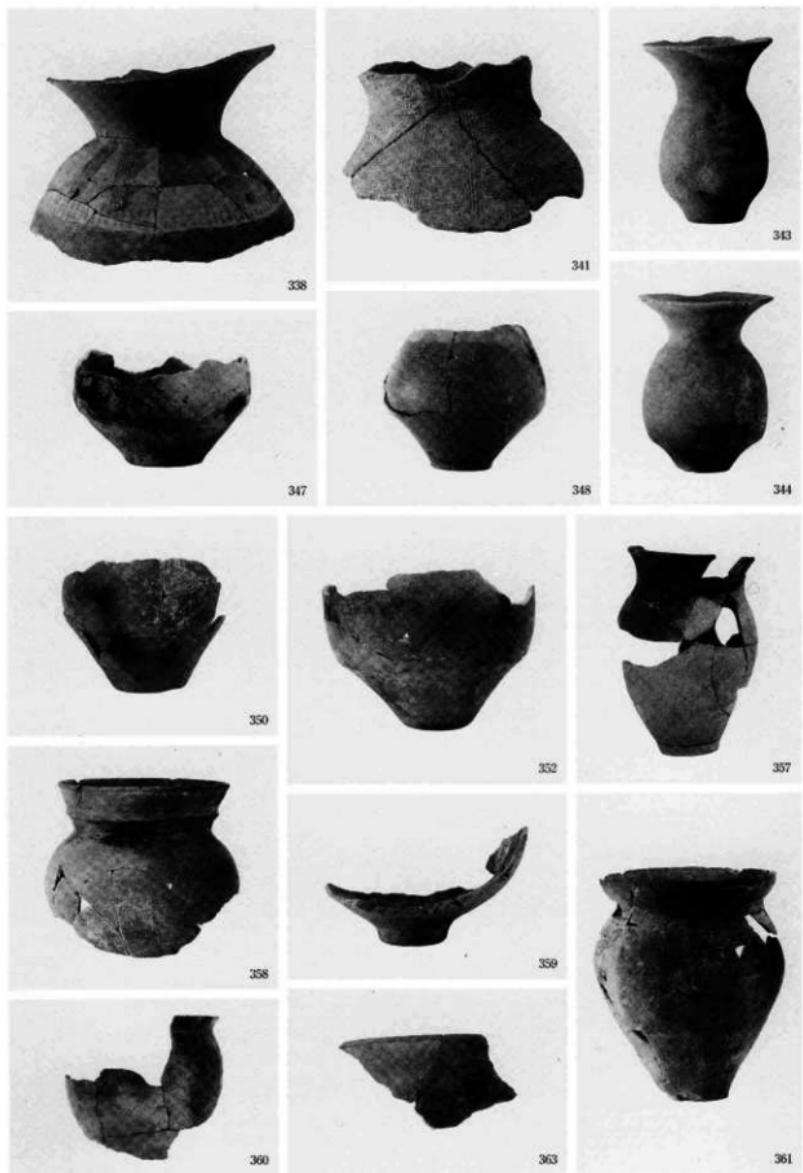
332



333



334



338

341

343

347

348

344

350

352

357

358

359

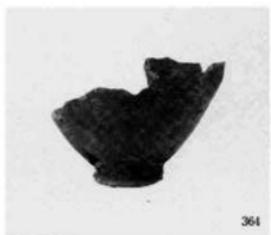
360

363

361



362



364



367



368



369



370



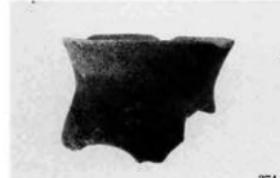
371



372



373



374



375



376



377



378



379



381



386



390



391



394



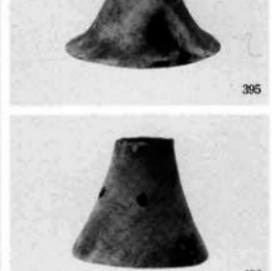
395



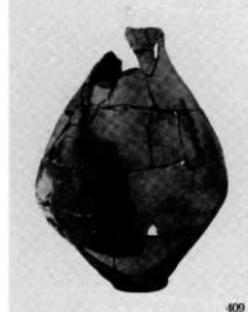
396



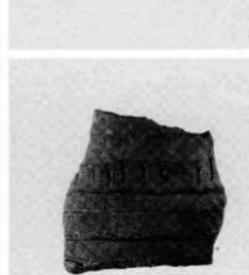
397



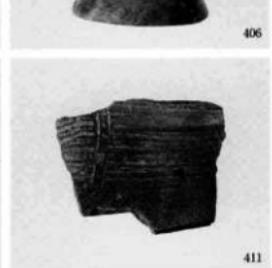
406



409



410



411



415



417



419



414



418



421



422



424



425



427



430



432



433



434



435



436



437



447



448



449



442

446

450

452

453

454

463

464

465

467

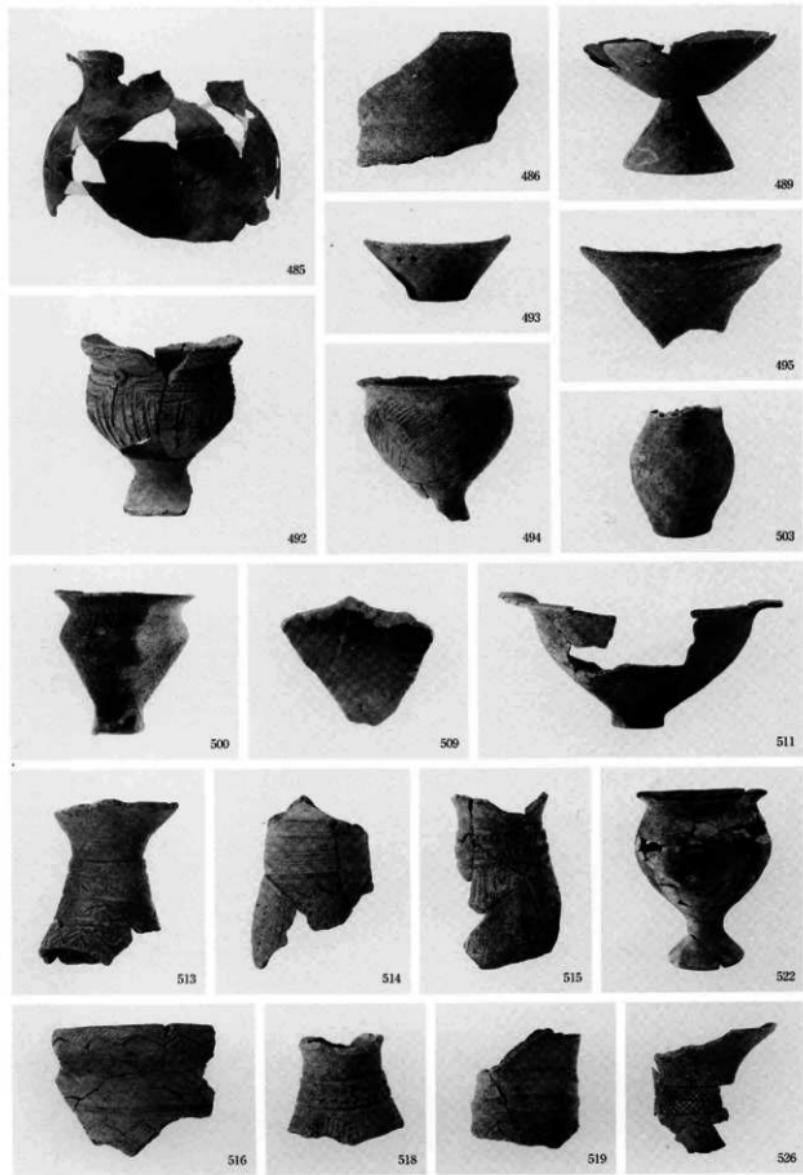
468

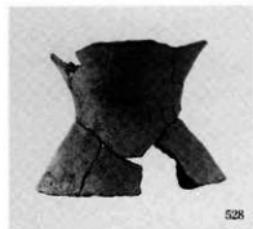
472

474

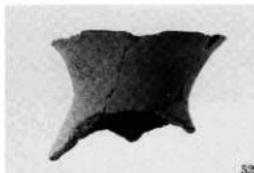
475

484

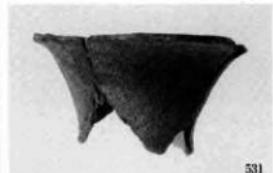




528



529



531



530



532



534



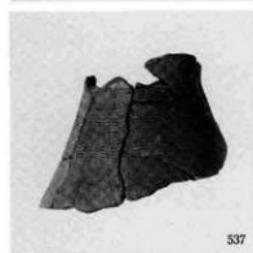
535



536



542



537



551



547



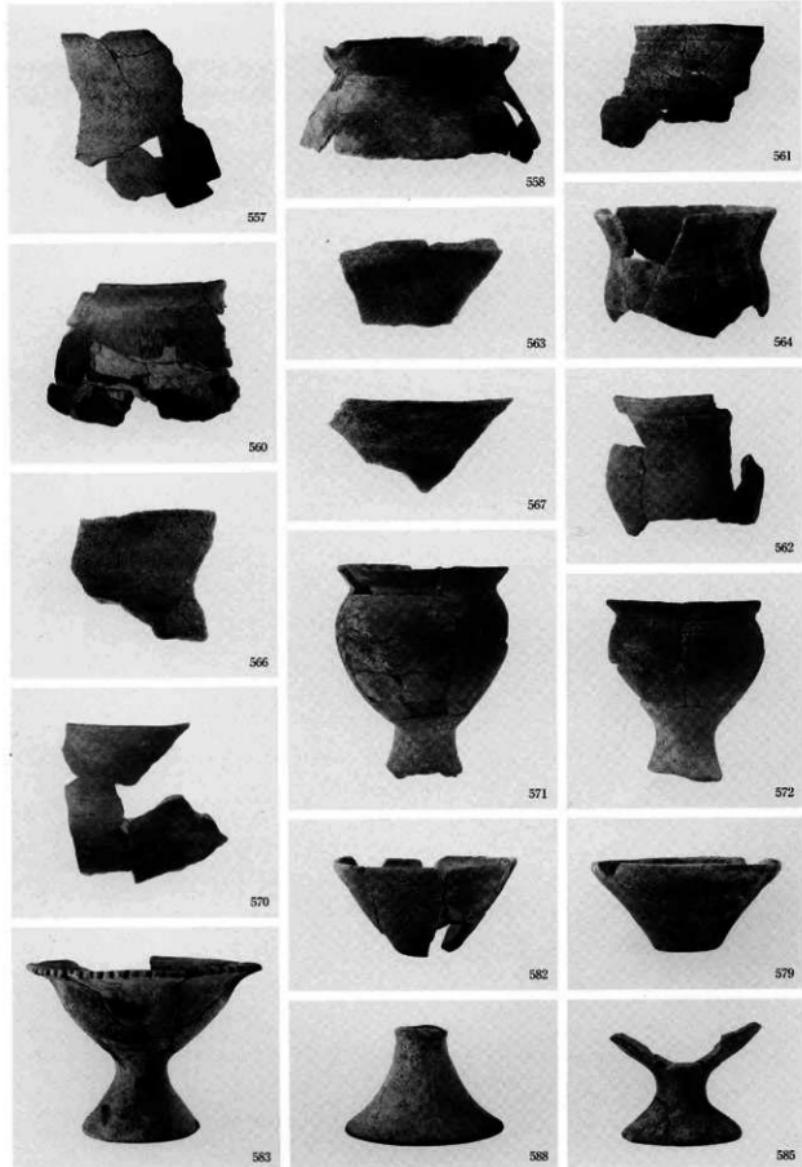
553

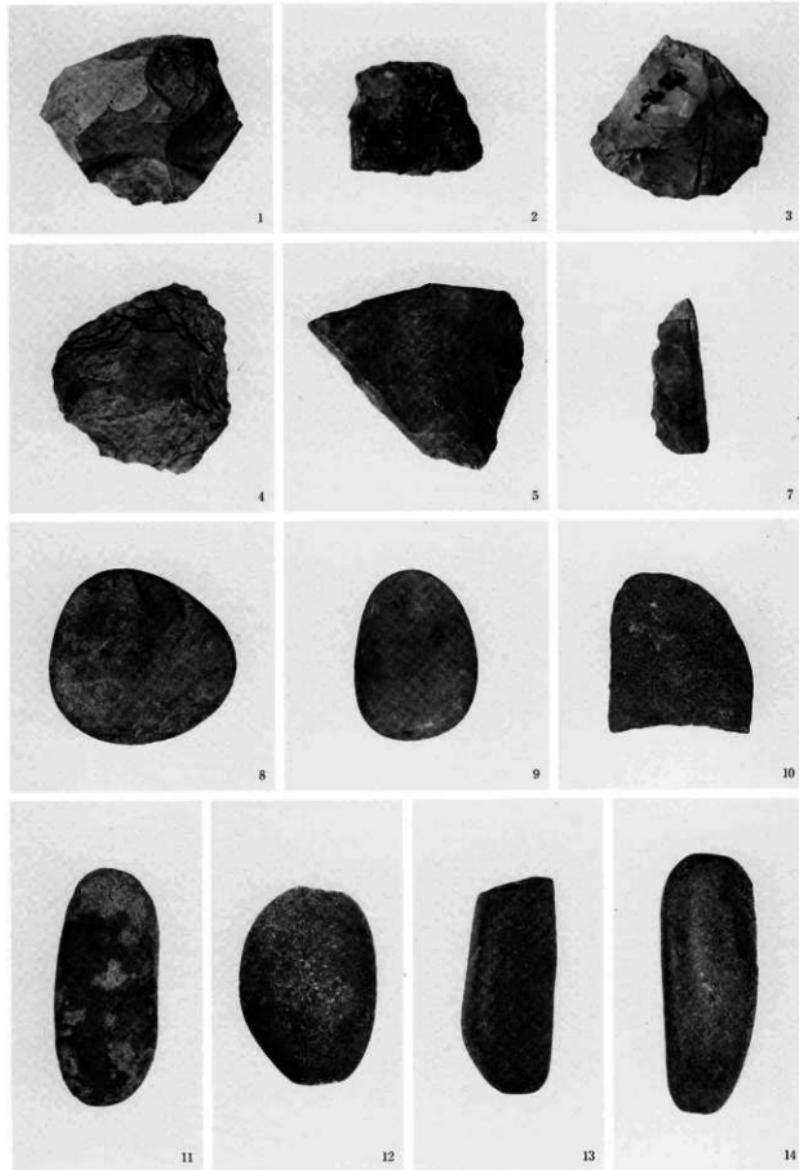


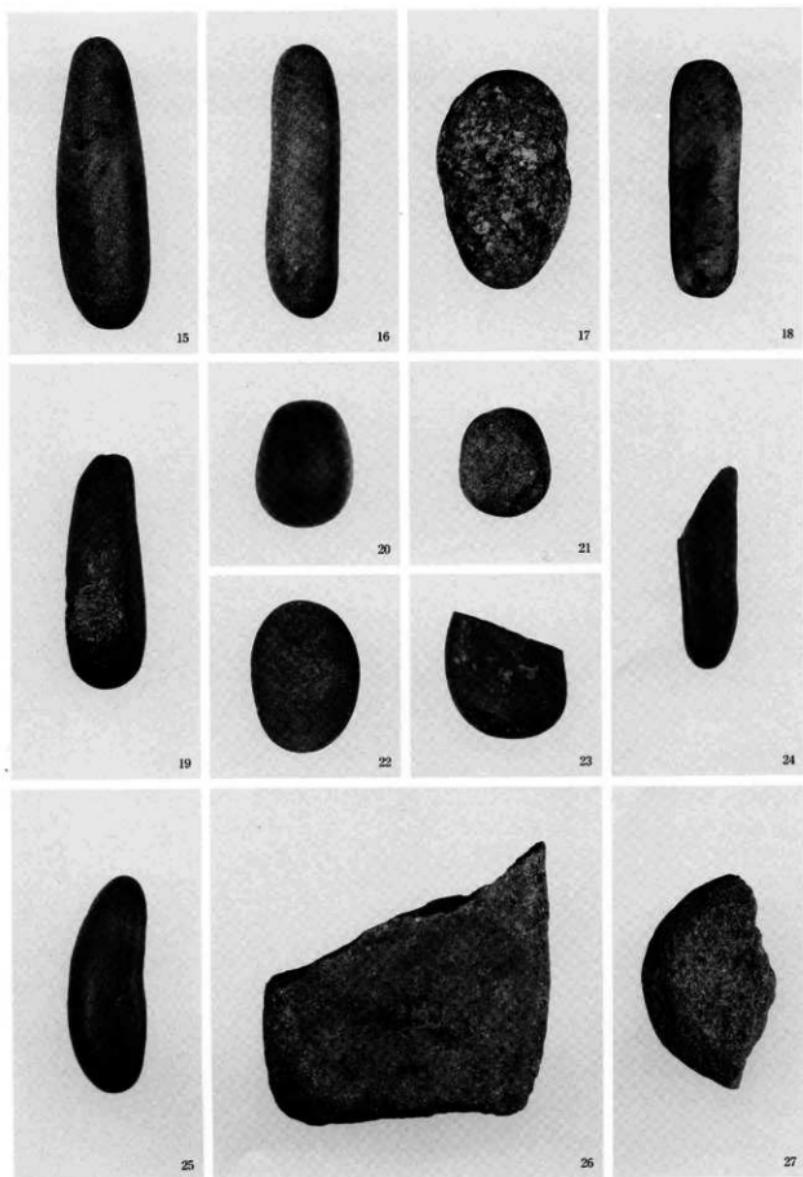
559

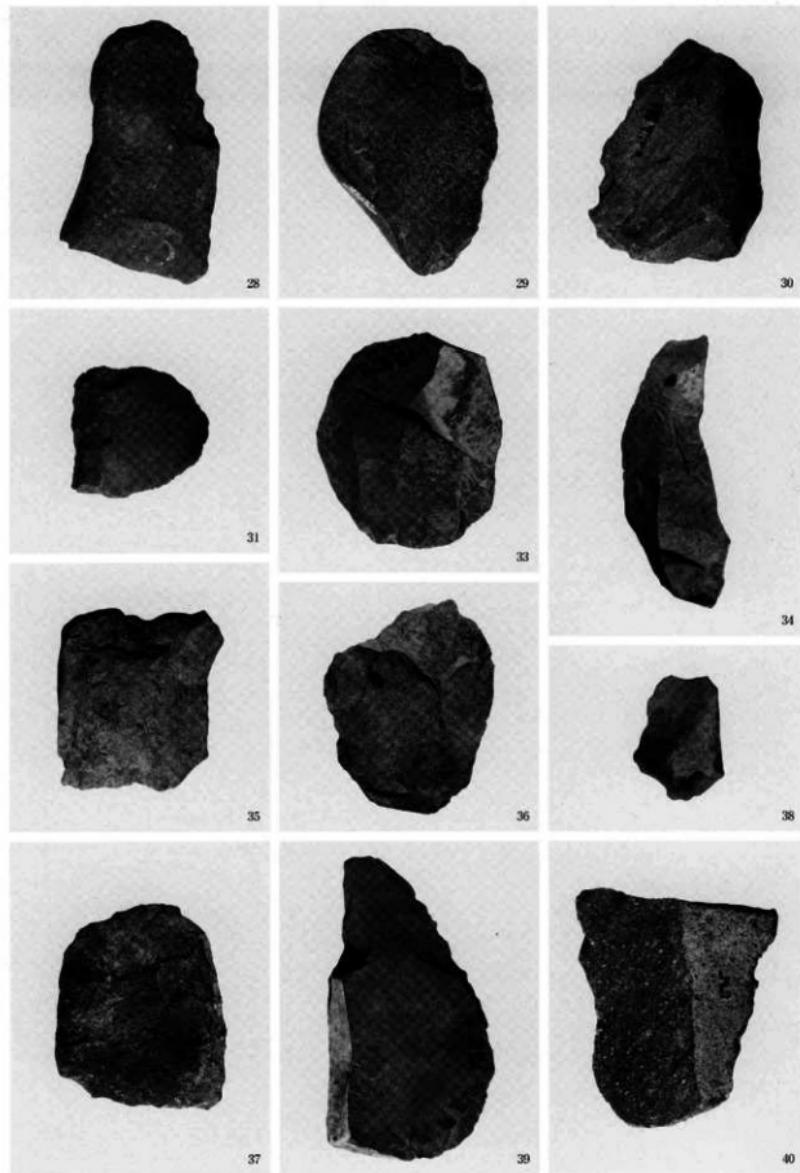


548











41



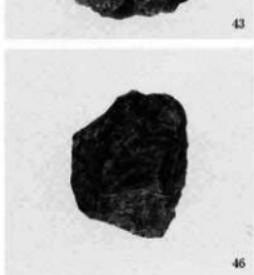
42



44



45



46



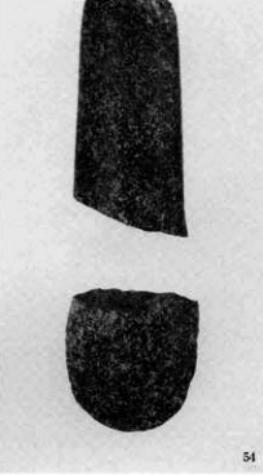
47



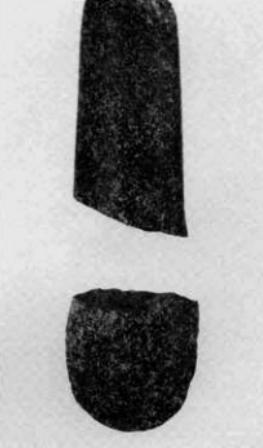
48



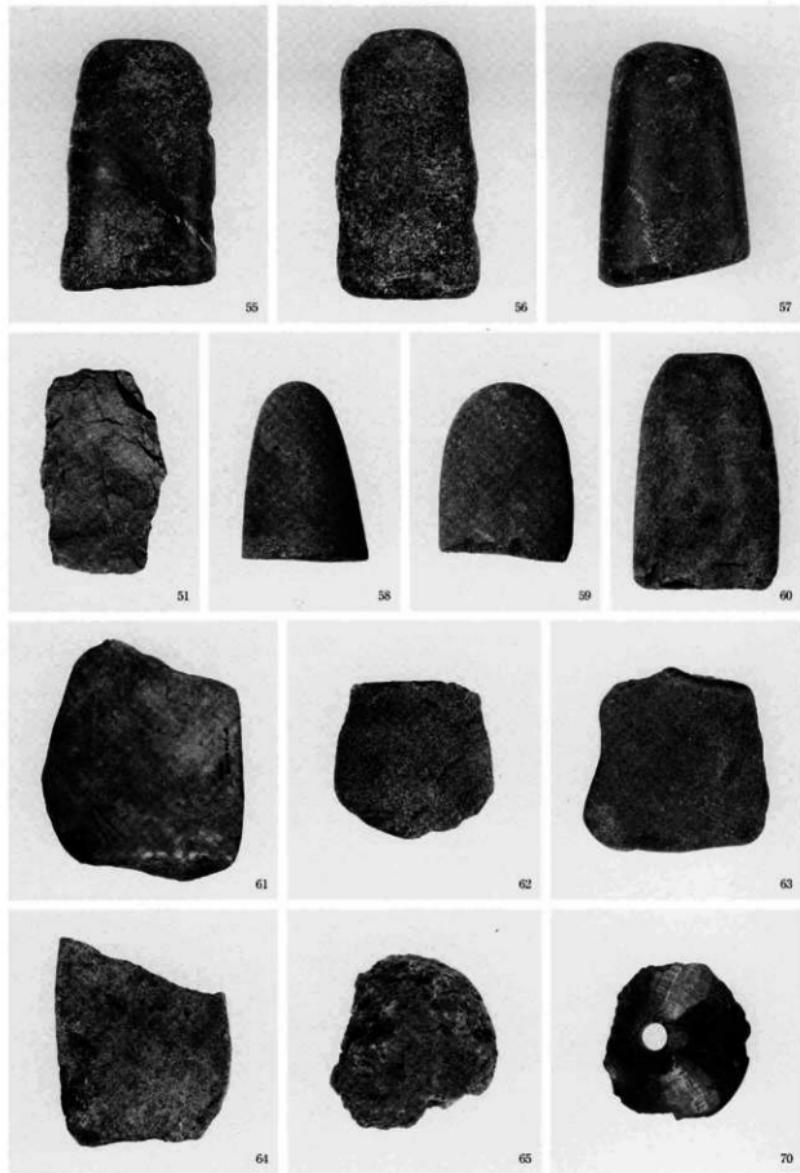
49

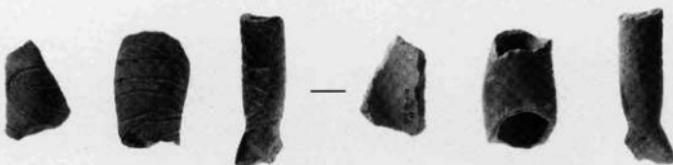


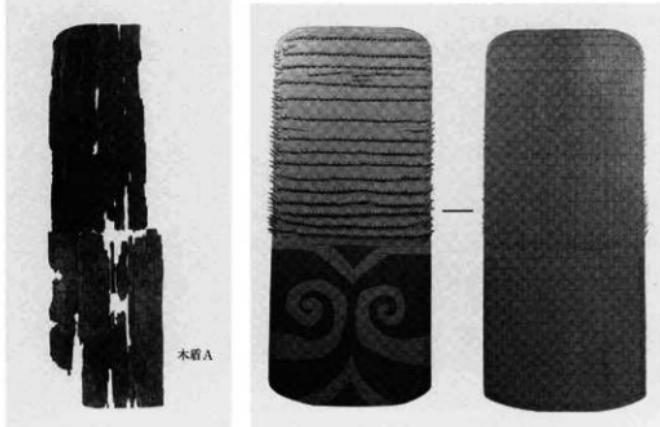
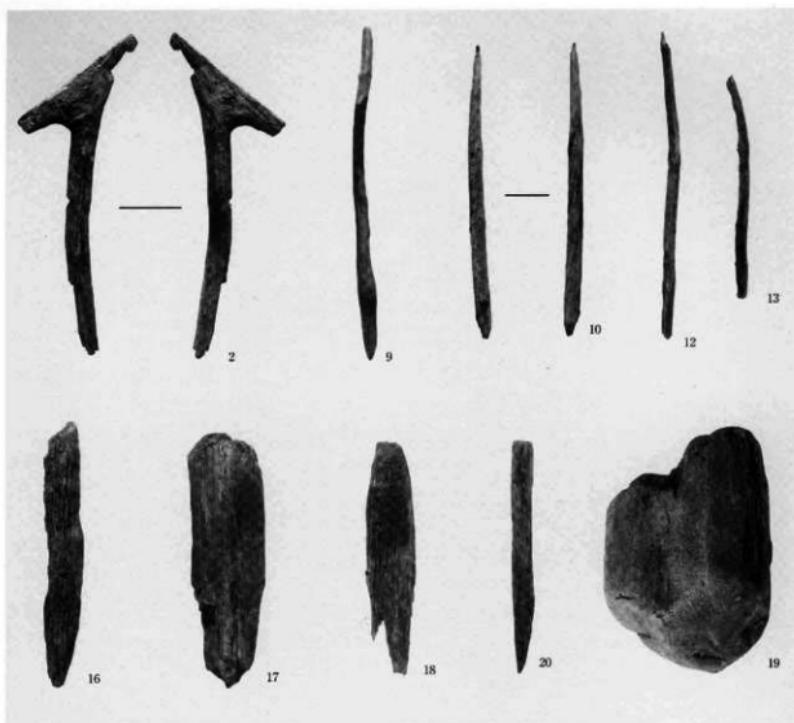
50



51







木刀復元レプリカ
(長野市立博物館)
左 表
右 裏

報告書抄録

ふりがな	こじまやなぎはらいせきぐん みのちましますいちはんじんじやいせき					
書名	小島柳原遺跡群 水内坐一元神社遺跡					
副書名	一柳原市民体育館建設地点					
シリーズ名	長野市の埋蔵文化財					
シリーズ番号	第88集					
編著者名	千野浩、矢口忠良、多羅沢美恵子、橋本達也、汐見 真、岡田文男					
編集機関	長野市教育委員会埋蔵文化財センター					
所在地	〒381-2212 長野県長野市小島町1414番地 TEL 026-284-0004・FAX 026-284-0106					
発行年月日	1998(平成10)年3月30日					
印刷所	ほおづき書籍株式会社 (長野市柳原2133-5)					
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡	経緯度 (日本測地系)	調査期間	調査面積	調査原因
水内坐 一元神社遺跡	長野県長野市大字小島 字三ツ家沖823他	20201 B-003	北緯 36°39'11" 東経 138°15'29"	19960524 ~ 19960809	1000m ²	市民体育館建設
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
水内坐一元 神社遺跡	集落跡	弥生時代中期	大溝 1条	栗林式土器・石器・土偶	居住域不明	
		弥生時代後期	豎穴住居址 4軒 土壤 14基 環濠(大溝) 2条	吉田式・箱清水式・北陸系土器・装飾木盾・槍先・弓・平鍬・鎌・槽他木製品	環濠集落・武器形木製品を伴う祭祀	
		弥生時代後期 終末～古墳時代前期	土壤 2基	箱清水式系・北陸系・東海系土器	大溝4層の土器、居住域不明	
		古墳時代中・後期	土壤 3基	土師器・須恵器	大溝3・2層の土器、居住域不明	

長野市の埋蔵文化財第88集

小島柳原遺跡群
水内坐一元神社遺跡Ⅲ

平成10年3月25日 印刷

平成10年3月30日 発行

編集 長野市教育委員会
発行 長野市埋蔵文化財センター

印刷 ほおづき書籍株式会社